

# 釧路労災病院

## 2024年 年報

やちぼうず 第29号





# 目次

|                      |    |                            |    |
|----------------------|----|----------------------------|----|
| I. 事業報告              | 3  | III. 医療統計                  | 55 |
| (1) 巻頭言              | 5  | 患者数の推移（入院・外来）              | 57 |
| (2) 理念・方針・患者さんの権利、責務 | 6  | 診療科別入院患者数の推移               | 58 |
| (3) 病院概要             | 7  | 診療科別外来患者数（令和6年度）           | 59 |
| (4) 医療機関の承認・指定状況     | 8  | 診療科別入院単価の推移                | 60 |
| (5) 医科・歯科点数表         | 9  | 診療科別外来単価の推移                | 60 |
|                      |    | 紹介率・逆紹介率の推移                | 61 |
|                      |    | 病床利用率の推移                   | 61 |
|                      |    | 平均在院日数の推移                  | 62 |
|                      |    | 時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移        | 63 |
|                      |    | 救急車受入件数（総数と1日平均）           | 64 |
|                      |    | 手術件数の推移（手術室内）              | 64 |
|                      |    | 全身麻酔件数の推移                  | 65 |
|                      |    | 化学療法件数の推移（入院・外来）           | 65 |
|                      |    | 透析件数の推移（入院・外来）             | 66 |
|                      |    | 内視鏡件数の推移（上部・下部）            | 66 |
|                      |    | 放射線治療件数の推移                 | 67 |
|                      |    | 解剖件数の推移                    | 67 |
|                      |    | 2023年度後発医薬品指数              | 68 |
|                      |    | D P C 14桁 診断群分類上位頻度表(全科共通) | 68 |
|                      |    | D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表   | 69 |
|                      |    | K c o d e 診療科別上位頻度表        | 72 |
| II. 診療科及び部門報告        | 13 | IV. 講演会等活動実績報告             | 75 |
| (1) 診療部門             |    | 学会・研究会・講演会発表               | 77 |
| ・内 科                 | 15 |                            |    |
| ・神 経 内 科             | 18 | V. 業績目録                    | 83 |
| ・循 環 器 内 科           | 20 | 研究論文・著書・総説                 | 85 |
| ・外 科                 | 21 |                            |    |
| ・整 形 外 科             | 23 |                            |    |
| ・脳神経外科               | 26 |                            |    |
| ・泌 尿 器 科             | 28 |                            |    |
| ・眼 科                 | 30 |                            |    |
| ・耳 鼻 咽 喉 科           | 31 |                            |    |
| ・放 射 線 科             | 33 |                            |    |
| ・麻 酔 科               | 34 |                            |    |
| ・歯科口腔外科              | 35 |                            |    |
| ・健康診断部               | 37 |                            |    |
| ・病理診断科               | 38 |                            |    |
| ・栄養管理部               | 39 |                            |    |
| (2) 中央診療部門           |    |                            |    |
| ・中央リハビリテーション部        | 41 |                            |    |
| ・中央放射線部              | 43 |                            |    |
| ・中央検査部               | 45 |                            |    |
| (3) 診療支援部            |    |                            |    |
| ・臨床工学部               | 47 |                            |    |
| (4) 薬 剤 部            | 49 |                            |    |
| (5) 看 護 部            | 51 |                            |    |



# I. 事業報告

- (1) 巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (2) 理念・方針・患者さんの権利、責務・・・・・・ 6
- (3) 病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) 医療機関の承認・指定状況・・・・・・・・・・ 8
- (5) 医科・歯科点数表・・・・・・・・・・・・・・・・ 9





## 巻頭言



独立行政法人 労働者健康安全機構

釧路労災病院 院長

篠原 信雄

いつも釧路労災病院にご支援いただき誠にありがとうございます。今年も、皆様のもとに釧路労災病院年報「やちぼうず」第29号をお届けすることができました。私も2024年4月付で、60有余年の歴史を有する釧路労災病院院長として就任し、早1年が過ぎました。その間にも依然として感染が続いている「コロナウイルス感染症（COVID-19）問題」、「医療従事者の不足問題」、「医療従事者の働き方改革等」様々なことがありましたが、多くの職員の方のご協力から医療サービスの質が低下するリスクもなく今日を迎えています。

当院は、独立行政法人労働者健康安全機構が設置する全国32労災病院の一つとして、勤労者医療と地域医療の両軸を担う使命を負っております。現在、一般急性期300床、地域包括ケア病棟50床、緩和ケア病棟33床、HCU 8床の構成で、内科（消化器内科・腫瘍内科・血液内科）、神経内科、循環器内科、外科（消化器外科・乳腺外科）、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、麻酔科による総合的な診療に加えて、眼科、婦人科・形成外科の外来診療を提供しております。各科の医師派遣については北海道大学ならびに旭川医科大学の厚いご支援をいただいております。この場をお借りして、感謝申し上げます。

当院は、地域がん診療連携拠点病院であり、高度かつ専門的ながん医療の提供に加え、がん医療に従事する医師などへの研修、がん患者さんやご家族への相談支援、地域の医療機関への情報提供と連携によるがん医療の均てん化に努力しております。その象徴として、令和5年4月に釧路・根室地域で初めての緩和ケア病棟「れぼふる」を完成させました。強力な消化器内視鏡センターと外科および化学療法センターが有機的に機能して北海道東部地域におけるがんセンターとしての役割を果たし、治療と就労の両立支援にも取り組んでおります。また、令和5年秋には手術支援ロボット ダヴィンチも導入し、最先端の外科手術を実施する体制も整えております。さらに令和6年5月には8床のHCUを開設し、救急やがん治療の高度急性期医療から一般病棟を経て緩和医療、在宅医療へ繋ぐための医療提供が可能となりました。

当院は地域支援病院として、当院の登録医を中心にかかりつけ医からのご紹介を積極的に受け入れ、急性期・回復期を通じて切れ目のない医療を提供するとともに、病状が安定した患者さんは逆紹介するよう心がけております。地域の医療従事者の皆様には、当院の施設・設備をご利用いただけるようなシステムを構築し、さらに地域全体の資質向上のための研修会も開催しております。地域連携総合センターを窓口として、他の病院・診療所との連携を強化し、患者さんに対しては初診予約および入退院からその後のフォローアップまでトータルサポート体制を構築しております。さらに、当院はエイズ治療中核拠点病院でもあり、HIV感染症に対する総合的診療が可能な態勢を整備しております。

令和7年(2025年)はいわゆる「医療の2025年問題」がスタートし、日本の医療体制に大きな変革が起こるとされています。実際、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、医療や介護の需要が増加します。内閣府「令和4年版高齢社会白書」によると、2025年の高齢者人口は、65～74歳の前期高齢者が1,497万人、75歳以上の後期高齢者が2,180万人になるとされています。実に、国民の約3人に1人が65歳以上になると推測されています。そのような高齢者の急激な増加により医療の需要の高まるとされます。釧路地区においても医療にかかわるさまざまな問題が発生することが予想されます。そのような際にも地域のニーズに柔軟に対応しながら診療機能を維持・拡充し、医療体制の変革にも対応し、これからも地域住民の皆様から求められる病院であり続けたいと思っております。

最後になりましたが、我々は地域のニーズに柔軟に対応しながら診療機能を維持・拡充し、医療体制の変革にも対応し、これからも勤労者医療のみならず、地域住民の皆様から求められる病院であり続けたいと思っております。そのためには、すべての地域住民の方を視野に入れ、透明性が高く、良質で信頼される医療を実施すべきと思っています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

## 理 念

- ・最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

## 基本方針

1. 安全で質の高い医療を実践します。
2. 患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を実践します。
3. 透明性の高い医療を実践します。
4. 地域住民と勤労者の健康づくりのために、予防医療を実践します。

## 臨床倫理方針

1. 患者さんの人権を守ります。
2. 患者さんの自己決定権を尊重します。
3. 生命倫理に関する法律及びガイドラインを遵守して診療を行います。
4. 患者さんの信条や生命の尊厳に関する問題については審議を行い、治療方針を決定します。
5. 患者さんのプライバシーを遵守し、個人情報保護を徹底します。

## 患者さんの権利

1. 患者さんは、人格を尊重した良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 患者さんは、診療上の個人のプライバシーを守られる権利があります。
3. 患者さんは、自らの診療記録の開示を求め、情報を得る権利があります。
4. 患者さんは、自らの意思で医療に同意・選択・決定する権利があります。
5. 患者さんは、診断や治療などについて、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

## 患者さんの責務

1. 患者さんには、自身に関する正確な情報の提供をお願いします。
2. 院内の取り決めを守り、他の患者さんの療養生活や病院職員の医療提供に支障を与えないようお願いします。



## 病院概要 (2025年4月1日現在)

|                      |                                                                                                                                                                                              |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開設者                  | 独立行政法人 労働者健康安全機構                                                                                                                                                                             |
| 管理者                  | 理事長 大西 洋 英                                                                                                                                                                                   |
| 所在地                  | 院長 篠原 信 雄                                                                                                                                                                                    |
|                      | 郵便番号 085-8533                                                                                                                                                                                |
|                      | 住 所 北海道釧路市中国町13-23                                                                                                                                                                           |
|                      | 電話番号 0154-22-7191(代)                                                                                                                                                                         |
|                      | FAX番号 0154-25-7308                                                                                                                                                                           |
| 開 院                  | 昭和35年 1 月22日                                                                                                                                                                                 |
| 病 床 数                | 391床                                                                                                                                                                                         |
| 手 術 室                | 10室                                                                                                                                                                                          |
| 標 榜 診 療 科<br>(24診療科) | 内科/消化器内科/血液内科/腫瘍内科/精神科 (休診) /神経内科/循環器内科 (出張医) /<br>緩和ケア内科 (休診) /外科/消化器外科/整形外科/形成外科 (出張医) /脳神経外科/<br>皮膚科 (出張医) /泌尿器科/婦人科 (出張医) /眼科 (出張医) /耳鼻咽喉科/<br>リハビリテーション科/歯科/歯科口腔外科/放射線科/麻酔科/病理診断科 (出張医) |
| 院 内 標 榜 科<br>専門センター等 | 乳腺外科/心療内科<br>勤労者医療総合センター/アスベスト疾患センター/消化器病センター/<br>勤労者リハビリテーションセンター/勤労者メンタルヘルスセンター/<br>脊椎外科センター/化学療法センター/血液浄化センター/<br>地域医療連携総合センター/医療機器管理センター/リソースナースセンター/<br>臨床研修センター                        |
| 特 殊 外 来              | 禁煙外来/ストーマケア外来/フットケア外来/睡眠時無呼吸外来/<br>働く女性のための外来/セカンドオピニオン外来/リンパ浮腫外来/頭痛外来                                                                                                                       |
| 主 な 特 色              | (1) 地域医療支援病院<br>(2) 地域がん診療連携拠点病院<br>(3) エイズ治療中核拠点病院<br>(4) 日本医療機能評価認定施設 (一般病院2 3rdG: Ver.3.0)<br>(5) 治療就労両立支援事業<br>(6) NPO法人卒後臨床研修評価機構の認定                                                    |
| その他の施設               | 釧路労災看護専門学校                                                                                                                                                                                   |
| 敷 地 面 積              | 39,684.55㎡                                                                                                                                                                                   |
| 建 物 延 面 積            | 41,630.5㎡ 地上9階 屋上ヘリポート有                                                                                                                                                                      |

病棟案内図

| 病棟案内図 |                                                                                   | ヘリポート<br>PH1.2 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 9階    | 人間ドック診察室・勤労者医療総合センター・<br>アスベスト疾患センター・禁煙外来・働く女性のための外来・<br>健康診断部・介助浴室・展覧浴場・コインランドリー | 9F             |
| 8階    | 西病棟: 地域包括ケア (退院支援)<br>東病棟: 外科・泌尿器科                                                | 8F             |
| 7階    | 西病棟: HCU・リソースナースセンター<br>東病棟: 整形外科                                                 | 7F             |
| 6階    | 西病棟: 脳神経外科・内科<br>東病棟: 神経内科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・内科・眼科                                     | 6F             |
| 5階    | 西病棟: 内科<br>東病棟: 内科                                                                | 5F             |
| 4階    | 西病棟: れびふる (緩和ケア)<br>化学療法センター・血液浄化センター                                             | 4F             |
| 3階    | 管理部門・中央手術室・中央材料室・医局                                                               | 3F             |
| 2階    | 中央検査部・カウンセリング室・会計課・経営企画課・<br>病歴室・高気圧酸素療法室・医療機器管理センター                              | 2F             |
| 1階    | 中央放射線部・中央リハビリテーション部・栄養管理室<br>MRI室・マルチCT・シミュレーションCT室・<br>リニアク治療室・シネアンギオ室・骨塩定量測定室   | 1F             |

外来棟案内図

|    |                                                                                                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3階 | 管理部門・総務課                                                                                                                                    |
| 2階 | 内科・内視鏡検査室・眼科・泌尿器科・歯科口腔外科・<br>中央採血室・がん相談支援室・栄養指導室                                                                                            |
| 1階 | 脳神経外科・神経内科・外科・緩和ケア内科・婦人科・耳鼻咽喉科・循環器内科・<br>病理診断科・皮膚科・麻酔科・形成外科・整形外科・応急処置室・薬剤部・<br>医事課・地域医療連携総合センター・防災センター・救急診療室・<br>理美容室・コーヒESHOP・売店・レストラン・ATM |

## 医療機関の承認・指定状況

### 1. 病院開設承認等

区分

独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院

承認年月日

昭和35年1月22日

### 2. 法令による医療機関の指定等

法令等の名称

保健医療機関

(健康保険法、国民健康保険法、労災保険法)

生活保護法指定医療機関

身体障害者福祉法指定医療機関

法令等の名称

母子保護法指定医療機関

結核予防法指定医療機関

原子爆弾被爆者に係る指定医療機関

### 3. 政策医療等の対応状況

区分

厚生労働省指定臨床研修病院(医科・歯科)

釧路圏二次救急医療機関

日本医療機能評価機構認定

地域がん診療連携拠点指定病院

区分

臓器提供施設

エイズ治療中核拠点指定病院

地域医療支援病院

メディネットたんちょうネットワーク加盟施設

### 4. 学会認定施設等の対応状況

区分

日本がん治療認定医機構認定研修施設

日本内科学会認定医制度教育関連病院

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設

日本消化器病学会認定施設

日本血液学会認定専門研修認定施設

日本臨床腫瘍学会認定研修施設

日本肝臓学会関連施設

日本神経学会専門医制度准教育関連施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設

日本乳癌学会認定施設

日本消化器外科学会専門医修練施設

乳房再建用エキスパンダー実施施設

乳房再建用インプラント実施施設

日本整形外科学会認定医制度研修施設

日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設

日本脳卒中学会一次脳卒中センター

日本泌尿器科学会専門医教育施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

日本口腔外科学会専門医制度准研修施設

日本核医学会専門医教育病院

日本病理学会研修登録施設

日本臨床細胞学会認定施設

日本病院薬剤師会H I V感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設

N C D施設会員

脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

椎間板酵素注入療法実施可能施設

肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B

日本放射線腫瘍学会認定施設

日本胃癌学会認定施設B

麻酔科認定病院

## 医科・歯科点数表

### 基本診療料

令和7年4月1日現在

| 承認事項                         | 項承認年月日     |
|------------------------------|------------|
| 1 入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）      | 昭和58年6月1日  |
| 2 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）          | 平成19年4月1日  |
| 3 医療安全対策加算                   | 平成30年4月1日  |
| 4 歯科外来診療医療安全対策加算2            | 平成30年10月1日 |
| 5 がん診療連携拠点病院加算               | 平成21年4月1日  |
| 6 救急医療管理加算                   | 令和2年4月1日   |
| 7 地域歯科診療支援病院歯科初診料            | 平成31年4月1日  |
| 8 栄養サポートチーム加算                | 平成23年4月1日  |
| 9 患者サポート体制充実加算               | 平成24年4月1日  |
| 10 データ提出加算                   | 平成24年10月1日 |
| 11 無菌治療室管理加算1                | 令和5年11月1日  |
| 12 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料2）      | 令和6年10月1日  |
| 13 褥瘡ハイリスク患者ケア加算             | 平成27年4月1日  |
| 14 感染対策向上加算1                 | 令和7年1月1日   |
| 15 療養環境加算                    | 令和6年5月1日   |
| 16 診療録管理体制加算1                | 平成27年9月1日  |
| 17 医師事務作業補助体制加算1（15対1補助体制加算） | 平成30年4月1日  |
| 18 歯科診療特別対応連携加算              | 令和4年4月1日   |
| 19 地域歯科診療支援病院入院加算            | 平成28年4月1日  |

### 特掲診療料

令和7年4月1日現在

| 承認事項                                  | 項承認年月日     |
|---------------------------------------|------------|
| 1 クラウン・ブリッジ維持管理料                      | 平成29年4月1日  |
| 2 高エネルギー放射線療法                         | 平成14年4月1日  |
| 3 放射線治療専任加算                           | 平成15年4月1日  |
| 4 直線加速器による定位放射線治療                     | 平成16年4月1日  |
| 5 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料 | 平成18年9月1日  |
| 6 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術    | 平成18年10月1日 |
| 7 医療機器安全管理料1                          | 平成20年4月1日  |
| 8 医療機器安全管理料2                          | 平成20年4月1日  |
| 9 外来化学療法加算1                           | 平成20年4月1日  |
| 10 無菌製剤処理料                            | 平成20年4月1日  |

| 承認事項                | 項承認年月日    |
|---------------------|-----------|
| 20 25対1急性期看護補助体制加算  | 令和5年11月1日 |
| 21 重症者等療養環境特別加算     | 令和5年10月1日 |
| 22 入退院支援加算          | 令和6年10月1日 |
| 23 認知症ケア加算          | 令和5年11月1日 |
| 24 精神疾患診療体制加算       | 平成29年6月1日 |
| 25 地域包括ケア病棟入院料2     | 令和6年11月1日 |
| 26 超急性期脳卒中加算        | 令和6年10月1日 |
| 27 後発医薬品使用体制加算1     | 令和4年4月1日  |
| 28 16対1看護職員夜間配置加算   | 令和7年3月1日  |
| 29 せん妄ハイリスク患者ケア加算   | 令和2年6月1日  |
| 30 排尿自立支援加算         | 令和2年4月1日  |
| 31 地域医療体制確保加算       | 令和6年6月1日  |
| 32 在宅療養後方支援病院       | 令和4年11月1日 |
| 33 看護職員処遇改善評価料      | 令和5年4月1日  |
| 34 紹介受診重点医療機関入院診療加算 | 令和5年12月1日 |
| 35 緩和ケア病棟入院料2       | 令和6年4月1日  |
| 36 医療DX推進体制整備加算     | 令和6年6月1日  |
| 37 歯科外来診療感染対策加算4    | 令和6年6月1日  |
| 38 ハイケアユニット入院医療管理料1 | 令和6年10月1日 |

| 承認事項                                                | 項承認年月日     |
|-----------------------------------------------------|------------|
| 11 集団コミュニケーション療法料                                   | 平成20年4月1日  |
| 12 外来放射線治療加算                                        | 平成20年4月1日  |
| 13 医科点数表第2章第10部手術の通則5（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）及び6に掲げる手術 | 平成20年4月1日  |
| 14 歯周組織再生誘導手術                                       | 平成29年4月1日  |
| 15 糖尿病合併症管理料                                        | 平成20年10月1日 |
| 16 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術                           | 平成21年12月1日 |
| 17 大動脈バルーンパンピング法（IABP法）                             | 平成21年12月1日 |
| 18 医療機器安全管理料（歯科）                                    | 平成22年2月1日  |
| 19 検体検査管理加算Ⅳ                                        | 平成22年4月1日  |
| 20 乳がんセンチネルリンパ節加算1及び2                               | 平成22年4月1日  |

| 承認事項                              | 項承認年月日     |
|-----------------------------------|------------|
| 21 肝炎インターフェロン治療計画料                | 平成22年4月1日  |
| 22 センチネルリンパ節生検併用及び単独              | 平成22年4月1日  |
| 23 透析液水質確保加算Ⅰ                     | 平成30年6月1日  |
| 24 抗悪性腫瘍剤処方管理加算                   | 平成22年4月1日  |
| 25 薬剤管理指導料                        | 平成22年4月1日  |
| 26 膀胱水圧拡張術                        | 平成22年4月1日  |
| 27 輸血管理料Ⅱ                         | 平成22年11月1日 |
| 28 がん治療連携計画策定料                    | 平成30年1月1日  |
| 29 脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激装置交換術           | 平成29年10月1日 |
| 30 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算 | 令和2年4月1日   |
| 31 がん治療連携管理料                      | 平成24年4月1日  |
| 32 在宅患者訪問看護・指導料                   | 平成24年4月1日  |
| 33 同一建物居住者訪問看護・指導料                | 平成24年4月1日  |
| 34 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト         | 平成24年4月1日  |
| 35 ヘッドアップティルト試験                   | 平成24年4月1日  |
| 36 CT撮影（16列以上64列未満のマルチスライスCT）     | 平成24年10月1日 |
| 37 MRI撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満）          | 平成30年12月1日 |
| 38 MRI撮影（1.5テスラ以上3テスラ未満）          | 令和1年10月1日  |
| 39 CT撮影（16列以上64列未満のマルチスライスCT）     | 令和3年3月1日   |
| 40 CT撮影（16列以上64列未満のマルチスライスCT）     | 令和4年1月1日   |
| 41 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）               | 平成31年2月1日  |
| 42 輸血適正使用加算                       | 平成24年4月1日  |
| 43 人工肛門・人口膀胱増設術前処理加算              | 平成24年4月1日  |
| 44 広範囲顎骨支持型装置埋入手術                 | 平成29年4月1日  |
| 45 院内トリアージ実施料                     | 平成24年5月1日  |
| 46 画像誘導放射線治療（IGRT）                | 平成30年10月1日 |
| 47 開放型病院共同指導料                     | 平成24年11月1日 |
| 48 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術                | 平成25年6月1日  |
| 49 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）            | 平成31年2月1日  |
| 50 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）               | 平成31年2月1日  |
| 51 糖尿病透析予防指導管理料                   | 平成26年4月1日  |
| 52 持続血糖測定器加算                      | 平成26年4月1日  |
| 53 1回線量増加加算                       | 平成26年4月1日  |

| 承認事項                              | 項承認年月日     |
|-----------------------------------|------------|
| 54 歯科口腔リハビリテーション料2                | 平成26年4月1日  |
| 55 外来放射線照射診療料                     | 平成27年3月1日  |
| 56 麻酔管理料Ⅰ                         | 令和5年4月1日   |
| 57 胃瘻造設時嚥下機能評価加算                  | 平成27年4月1日  |
| 58 がん患者指導管理料ハ                     | 令和3年3月1日   |
| 59 がん患者指導管理料イ                     | 令和4年10月1日  |
| 60 がん患者指導管理料ロ                     | 令和3年3月1日   |
| 61 がん患者リハビリテーション料（Ⅰ）              | 平成31年2月1日  |
| 62 がん性疼痛緩和指導管理料                   | 令和3年3月1日   |
| 63 神経学的検査                         | 平成27年9月1日  |
| 64 組織拡張期による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）   | 平成28年2月1日  |
| 65 ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）       | 平成28年2月1日  |
| 66 ニコチン依存症管理料                     | 平成29年7月1日  |
| 67 遺伝学的検査                         | 平成28年4月1日  |
| 68 コンタクトレンズ検査料1                   | 平成29年4月1日  |
| 69 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） | 平成28年8月1日  |
| 70 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術     | 平成27年4月1日  |
| 71 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算      | 令和2年4月1日   |
| 72 外来排尿自立指導料                      | 令和2年4月1日   |
| 73 人工腎臓                           | 平成30年4月1日  |
| 74 導入期加算1                         | 平成30年4月1日  |
| 75 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）等        | 平成30年11月1日 |
| 76 ウイルス疾患指導料                      | 令和2年4月1日   |
| 77 がん患者指導管理料ニ                     | 令和2年4月1日   |
| 78 骨髄微小残存病変量測定                    | 令和2年6月1日   |
| 79 BRCA1／2 遺伝子検査                  | 令和4年4月1日   |
| 80 CAD／CAM冠                       | 令和2年3月1日   |
| 81 椎間板内酵素注入法                      | 令和2年4月1日   |
| 82 腹腔鏡下肝切除術                       | 令和3年6月1日   |
| 83 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術                     | 令和3年6月1日   |
| 84 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術                  | 令和3年6月1日   |
| 85 悪性腫瘍病理組織標本加算                   | 令和2年4月1日   |
| 86 連携充実加算                         | 令和4年4月1日   |



| 承認事項                                                                           | 項承認年月日    |
|--------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 87 在宅患者訪問看護・指導料の注16に規定する専門管理加算                                                 | 令和4年4月1日  |
| 88 外来栄養食事指導料の注3に規定する基準                                                         | 令和4年5月1日  |
| 89 二次性骨折予防継続管理料1・2・3                                                           | 令和4年5月1日  |
| 90 外来腫瘍化学療法診療料1                                                                | 令和6年10月1日 |
| 91 外来栄養食事指導料の注2に規定する基準                                                         | 令和5年6月1日  |
| 92 ロービジョン検査判断料                                                                 | 令和5年8月1日  |
| 93 腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））       | 令和5年11月1日 |
| 94 腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）） | 令和5年11月1日 |

| 承認事項                                                                     | 項承認年月日    |
|--------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 95 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）） | 令和5年11月1日 |
| 96 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）                  | 令和5年11月1日 |
| 97 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）                                       | 令和6年4月1日  |
| 98 ストーマ合併症加算                                                             | 令和6年6月1日  |
| 99 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）                                              | 令和6年8月1日  |
| 100 外来・在宅ベースアップ評価料(I)                                                    | 令和6年6月1日  |
| 101 歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)                                                  | 令和6年6月1日  |
| 102 入院ベースアップ評価料53                                                        | 令和6年10月1日 |

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術

#### 区分1に分類される手術

頭蓋内腫瘍摘出術等  
黄斑下手術等  
鼓膜形成手術等  
肺悪性腫瘍手術等  
経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術

#### 区分3に分類される手術

上顎骨形成術等  
上顎骨悪性腫瘍手術等  
バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）  
母指化手術等  
内反足手術等  
食道切除再建術等  
同種死体腎移植術等

#### 区分2に分類される手術

靱帯断裂形成手術等  
水頭症手術等  
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等  
尿道形成手術等  
角膜移植術  
肝切除術  
子宮附属器悪性腫瘍手術等

#### その他の区分に分類される手術

人工関節置換術  
乳児外科施設基準対象手術  
ペースメーカー移植術及び  
ペースメーカー交換術（電池交換を含む）  
冠動脈、大動脈バイパス移植術及び  
体外循環を要する手術  
経皮的冠動脈形成術  
経皮的冠動脈血栓切除術及び  
経皮的冠動脈ステント留置術

医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術

胃瘻造設術





## II. 診療科及び部門報告

### (1) 診療部門

|               |    |
|---------------|----|
| • 内 科         | 15 |
| • 神 経 内 科     | 18 |
| • 循 環 器 内 科   | 20 |
| • 外 科         | 21 |
| • 整 形 外 科     | 23 |
| • 脳 神 経 外 科   | 26 |
| • 泌 尿 器 科     | 28 |
| • 眼 科         | 30 |
| • 耳 鼻 咽 喉 科   | 31 |
| • 放 射 線 科     | 33 |
| • 麻 酔 科       | 34 |
| • 歯 科 口 腔 外 科 | 35 |
| • 健 康 診 断 部   | 37 |
| • 病 理 診 断 科   | 38 |
| • 栄 養 管 理 部   | 39 |

### (2) 中央診療部門

|                |    |
|----------------|----|
| • 中央リハビリテーション部 | 41 |
| • 中央放射線部       | 43 |
| • 中央検査部        | 45 |

### (3) 診療支援部

|         |    |
|---------|----|
| • 臨床工学部 | 47 |
|---------|----|

### (4) 薬 剤 部

|  |    |
|--|----|
|  | 49 |
|--|----|

### (5) 看 護 部

|  |    |
|--|----|
|  | 51 |
|--|----|



## 内科

副院長 宮城島 拓 人

## ■ 2025年度の目標および方針

2013年度から、内科という大きな括りの中に、消化器内科、血液内科、腫瘍内科を院内標榜、2023年には院外標榜に発展し、それぞれの専門性を生かした内科を構築している。これをさらに発展させ、それぞれの専門分野のレベルを上げ、医療の均てん化を目指すことで地域医療にさらに貢献することを目指す。

消化器内科分野では、消化管、胆膵、肝臓、炎症性腸疾患（IBD）の各専門医が配置され指導体制も整い、消化器悪性腫瘍の診断と内視鏡的治療をさらに発展させる。ただし、今年度に限りIBD専門医が大学からの派遣支援（二週に一回のIBD外来）となっているので、次年度への固定派遣の道筋を付けるためにも、それらの分野を現有消化器内科医で積極的に維持していく所存である。また、腫瘍内科との連携により、消化器癌の最新治療を担保し、臨床治験にも積極的に参入しながら、地域での最先端の治療を目指す。さらに経鼻内視鏡を充足させ、内視鏡検診の拡大を図る。

血液内科は根釧地区唯一の専門施設として、地域の血液疾患の診断治療に主導的役割を果たす。特に移植分野では大学と連携を強固にしていくとともに、同種幹細胞移植をも視野に入れた移植体制の充実を図る。

また、内科という大きな括りはそのままとし、三つの専門分野以外の疾患についても、地域医療を担う責任として関わっていく体制を維持することにより、地域貢献はもとより、研修医の懐の深い（守備範囲の広い）人材育成に寄与する。

釧路労災病院内科の伝統的な『広く深く』を合言葉にした診療体制を今年度も維持発展していく。ただし、医師の働き方改革の履行には、しっかりとした勤務管理が必要となり、いままで通りのパフォーマンスを維持出来るか、いささか危惧しているところでもある。

## ■ 2025年度の具体的な重点項目

1. ESD(内視鏡的粘膜下層分離術)による食道、胃、大腸早期がんの切除数150件、および、若手の育成。
2. 上部内視鏡4,000件、下部内視鏡3,000件。検診での内視鏡件数の増加。
3. 化学療法外来、肝臓外来、IBD外来、血液専門外来などの充足。
4. 外来化学療法センターの一日利用者数25件。
5. 移植患者の長期フォローアップ体制の確立。
6. 各種学会発表、論文化の推進。

## ■ 2024年度診療実績

(件)

## (1) 入院患者疾患分類集計（上位10疾患を計上）

|                            |   | 令和6年度 |
|----------------------------|---|-------|
| 総                          | 計 | 4,484 |
| 結腸, 直腸, 肛門及び肛門管の良性新生物      |   | 517   |
| 結腸の悪性新生物                   |   | 223   |
| 胆石症                        |   | 215   |
| 膵の悪性新生物                    |   | 201   |
| びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫 |   | 187   |
| 胃の悪性新生物                    |   | 163   |
| 直腸の悪性新生物                   |   | 102   |
| その他及び部位不明の胆道の悪性新生物         |   | 96    |
| 前庭機能障害                     |   | 91    |
| 食道の悪性新生物                   |   | 90    |

## (2) 侵襲的治療、検査実績

|                       |  | 令和6年度 |
|-----------------------|--|-------|
| 上部消化管内視鏡(処置・治療除く)     |  | 3,757 |
| 下部消化管内視鏡(処置・治療除く)     |  | 2,771 |
| 食道ESD                 |  | 9     |
| 胃ESD                  |  | 32    |
| 大腸EMR                 |  | 586   |
| 大腸ESD                 |  | 38    |
| 小腸鏡（ダブルバルーン）          |  | 40    |
| 内視鏡的止血術（上部+下部）        |  | 108   |
| 食道静脈結紮術・内視鏡的硬化療法      |  | 39    |
| 食道拡張術                 |  | 36    |
| 胃瘻造設術                 |  | 27    |
| 気管支鏡/経気管支気管生検         |  | 10    |
| ERCP                  |  | 486   |
| 経動脈塞栓術・動注療法（TACE/TAI） |  | 6     |
| 超音波内視鏡                |  | 80    |
| EUS（FNA）              |  | 55    |

## ■ 2024年度の評価

胆膵専門医の離脱による消化器内科医一減の影響は、残された消化器内科医への多大な負担となって現れた。ERCPおよびその関連手技については、大学医局からの月二回の専門医技術派遣だけでは到底まかない切れず、特に若手医師の負担は大きなものとなった。しかし、派遣専門医からの技術指導や上級医からの指導により、予想以上に早くそして多く技術を習得することとなり、年度後半はかなりのRERCP関連処置をこな

すようになり、年間をととしての胆膵系の処置（ERCP 関連手技486件、EUS-FNA 55）は昨年度に見劣りしないレベルにまで回復した。内視鏡件数（処置・治療を除く件数）としては上部3,757件、下部2,771件と人員減少のなかで十分パフォーマンスを発揮したと理解している。またIBD領域の専門医の派遣により、小腸内視鏡が40件、食道、胃、大腸ESDはそれぞれ9件、32件、38件と一人専門医によるパフォーマンスとしては十二分の結果であった。これらの数値は地域のニーズに答えている結果と理解しているが、しかしそのため、昼夜を問わず増加する胆膵疾患の診断治療のため、透視室で夜遅くまで治療に当たるのが、日常茶飯事になっており、医師の負担のみならず、介助にあたる看護師やME（臨床工学士）の負担は相当なものだったと思われる。

化学療法センターが一新され治療環境が格段に良くなったことで、患者の評判はすこぶる良好である。2020年度中盤から16床から18床に、23年度にはさらに3床増床となりついに年間外来化学療法延べ件数が6000件を突破した。今後はそれに合わせてさらなる化学療法担当看護師の充足も必要である。

学問的なところでは、国際学会1題、国内学会15題（総会4題、地方会11題）を発表した。また原著論文1本が掲載された。

## 2024年度スタッフ構成

### 副院長

宮城島 拓 人

- ・日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・指導医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医
- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
- ・日本エイズ学会 認定指導医
- ・日本血液学会 血液専門医・血液指導医
- ・日本感染症学会推薦インфекションコントロールドクター（ICD）
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本医師会 認定産業医

### 消化器内科部長

小 田 寿

- ・日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医
- ・日本ヘリコバクター学会 H.pylori（ピロリ菌）

感染症認定医

### 腫瘍内科部長

澤 田 憲太郎

- ・日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本肉腫学会 希少がん肉腫専門医

### 消化器内科部長

山 田 鍊

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本肝臓学会 肝臓専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 専門医
- ・日本消化器病学会 専門医

### 消化器内科副部長

西 村 友 佑

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器病学会 専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 専門医

### 血液内科副部長

千 丈 創

- ・日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医
- ・日本血液学会 血液専門医 血液指導医
- ・日本造血・免疫細胞療法学会 認定医

### 内科医師

渡 辺 亮 介

野 津 麟太郎

井 上 ゆきな

高 橋 惇

音喜多 香 貴

### 臨床研修医

岸 浪 建

今 杜 王

青 田 凌

水 藤 達 貴

谷 口 陽

## 主な対象疾患

### 消化器癌

（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、その他）

### 肺癌、血液悪性腫瘍

（リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、MD S、その他）

### 他の血液疾患

（貧血、多血症、血小板減少症、凝固異常症、その他）

### 炎症性疾患

## II. 診療科及び部門報告

### (1) 診療部門

(炎症性腸疾患 (IBD)、肝炎、膵炎、胆管炎、胆石症、肺炎、胸膜炎、その他)

気胸、糖尿病、他の代謝性疾患、自己免疫性疾患、腎不全 など。

## ■ 特 色

消化器領域、血液領域、癌化学療法の専門領域の疾患については全国レベルを維持し、均てん化に寄与している。それ以外の領域疾患についても、地域の実情を鑑み積極的に対応している。また、専門性を生かしてセカンドオピニオンの提供も積極的に行っている。

## ■ 臨床研修教育内容

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本肝臓学会関連施設、日本血液学会血液研修施設などの多彩な教育施設となっており、それぞれの専門医・指導医を持つ部長が、On jobで指導し、専門医を育成する環境が整っている。

また、各種学会へも積極的に参加することで知識技術のブラッシュアップを図っている。

完全主治医制で、研修医でも責任を持って患者、家族と対応することになるが、一人で抱え込まないように、全員参加のカンファレンスを充実している。

週二回の病棟カンファレンスでは、研修医が主治医として受け持ち患者をプレゼンし、指導医から指摘や教育を受ける。これにより主治医として関わらなくても、多岐にわたる多くの疾患を経験することができ、疾患の偏りが無い経験値が格段に向上する。少なくとも新しい内科専攻医研修制度で求められる疾患のほとんどを網羅できる。

## 2025年度の目標および方針

当院の神経内科は帯広以東の唯一の、神経内科専門医による科である。広範囲の地域のニーズに応えるべく、ほぼすべての神経疾患について、全国的に見ても遜色のないスタンダードな医療を目指している。

競合施設が近隣にないため、数値目標には意味がないと思っている。依頼のある患者を可能な限り受け入れて、地域医療への貢献をしていきたい。

当科は神経学会准教育施設であり、研修医への教育指導にも力を入れている。

## 2025年度の具体的な重点目標

1. 地域からの受け入れをいとわない。たとえ休日でも、できる限り患者の受け入れをして、地域医療機関に貢献していく。
2. 学会発表をとおして、研修医、若手医師の教育、指導をしていく。
3. 保健師と連携し、難病患者の在宅医療、地域での療養を支援していく。（難病患者在宅ケア連絡会議が年4回。難病対策地域協議会にも参加。）
4. 訪問診療の継続

## 2024年度診療実績（上位10疾患を計上）

### (1) 入院患者疾患分類集計

|                         | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                     | 301   | 250   | 266   |
| パーキンソン<Parkinson>病      | 45    | 35    | 41    |
| 脊髄性筋萎縮症及び関連症候群          | 23    | 51    | 69    |
| 固形物及び液状物による肺臓炎          | 22    | 11    | 4     |
| 炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー      | 16    | 7     | 5     |
| 神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの | 13    | 7     | 7     |
| 原発性筋障害                  | 13    | 6     | 5     |
| 多発性硬化症                  | 11    | 8     | 10    |
| 重症筋無力症及びその他の神経筋障害       | 8     | 14    | 6     |
| その他の急性播種性脱髄疾患           | 7     | 3     | 4     |
| 視神経炎                    | 7     | 1     | 1     |

## 2024年度の評価

地域医療機関のニーズに応えることは、十分に達成できたと思っている。直接の依頼は基本的に断っていない。

入院患者は若干の増加があるが、大きな変化ではなく、ほぼ例年通りにとらえている。

## 2025年度スタッフ構成

### 部長

津 坂 和 文

- ・日本内科学会 認定医
- ・日本神経学会 専門医

### 常勤医

瀬 尾 祥

石 丸 誠 己

### 嘱託医

伊 藤 芳 子（月1回 1日）

## 主な対象疾患

神経疾患（脳・脊髄疾患）

神経筋疾患（末梢神経疾患、筋疾患） など

## 特 色

神経疾患・神経筋疾患全般についての、診断、治療、療養の相談をおこない、これらの疾患の「医療空白地帯」とならないよう努力している。

## 臨床研修医教育内容

日本神経学会 准教育施設である。帯広以東の道東地区の神経疾患を一手に引き受けている当科は、症例も豊富であり、片寄りなく、広く症例を経験することが出来る。それらの症例の診断から、治療、さらには終末期まで当科で経験することが出来る。新外来患者のプレゼンテーション、入院患者の方針検討は毎日おこなっている。研修医にはトレーニングの機会が十分にあると思われる。神経学会北海道地方会には毎回演題を出しており、研修医にもその機会を提供している。



神経内科は神経系の異常を、内科的なアプローチで診療する科であります。もう少し具体的に言いますと、脳・脊髄・末梢神経、さらには筋の疾患を診療いたします。脳などへ手術的アプローチをする脳神経外科に対して、内科的アプローチをする科として神経内科があるわけです。

神経の疾患はわかりづらいと言われます。神経系の異常から出現する症状が、なかなか臓器と結びつけづらいためだと思います。たとえば、脳卒中で「足が不自由」となっても、「足の病気」ではないわけですから、ストレートにはイメージしづらいのだと思います。

私たちが診ている代表的な症状を上げますと

- ① 認知症、意識障害などの高次な脳の機能障害
- ② 四肢の麻痺、脱力、運動失調や不随意運動などの運動機能の障害
- ③ しびれ、感覚の鈍麻などの感覚機能の障害などです。

疾患名で言いますと①の認知症を呈するのはアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症など、また意識障害を呈するのは脳炎など、です。

②の麻痺を伴いますのは脳血管障害、多発性硬化症などであり、運動失調の代表は脊髄小脳変性症ですし、不随意運動はパーキンソン病のふるえなどが多い疾患です。

また、③のしびれなどは脳血管障害や多発性硬化症、さらに糖尿病などに伴う末梢神経障害などが多い疾患です。

神経系の異常については、私たちの持っている知識・技術をすべて使って、診療して参ります。

当科は、帯広から東の地域で唯一の神経内科専門医の常勤している、入院できる診療科であります。神経疾患の分野では、何かに特化するというのをせず、できうる限り広く診療をしていくつもりです。

しかしながら、いわゆる精神疾患、精神症状については、対応は中々難しいということをご承知頂けますようお願いします。

私たちは、月・水・金が再来日で火・木を新患日として診療しておりますが、可能な限り皆様のお力になれるよう努力して参りますので、新患日以外でも急ぎのことがあればできうる限り対応いたします。また、場合によってお力になれない事態は必ずございますが、かといって「こういった患者はお断り」のような「患者の制限」なども、できうる限りしたくないと思っています。「こういう患者は紹介しない方が良いのか

な？」とご遠慮なさらず、迷う症例については、どんどんご相談いただければと思います。

これからもよろしくお願いします。

# 循環器内科

## 2024年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計

|                                 | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|---------------------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                             | 0     | 3     | 0     |
| その他の不整脈                         | 0     | 1     | 0     |
| 心臓及び血管のプロステーシス,<br>挿入物及び移植片の合併症 | 0     | 2     | 0     |

### (2) 手術実績 (件)

| ＜麻酔別＞                           | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|---------------------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                             | 0     | 1     | 0     |
| 局 所                             | 0     | 1     | 0     |
| ＜疾患・術式別＞                        | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
| 総 計                             | 0     | 1     | 0     |
| その他の不整脈                         | 0     | 1     | 0     |
| 心臓及び血管のプロステーシス,<br>挿入物及び移植片の合併症 | 0     | 0     | 0     |

## 2024年度スタッフ構成

### 循環器科出張医

鮫 島 睦 生  
鮫 島 八寿子

## 主な対象疾患・特色

慢性心不全 高血圧  
虚血性心疾患のスクリーニング 慢性期follow  
不整脈 大動脈瘤  
末梢動脈疾患のスクリーニング 経過follow  
外科系手術症例の術前心機能・耐術能評価  
静脈系疾患の状態評価 follow

## 外科

副院長 小笠原 和 宏

## 2025年度の方針および目標

消化器外科・乳腺外科・緩和ケアを三本柱として地域医療へ貢献します。消化器外科分野では、鏡視下手術を中心に「患者さんにやさしい手術」を推進して参ります。内視鏡外科技術認定医ならびに肝胆膵高度技能専門医による全領域の手術に対応しております。乳腺外科分野では、診断から治療まで、乳腺専門医の指導の下、一貫した診療を提供します。緩和ケア内科医が不在となった後も、緩和ケアチームとの連携によりこれまで以上の緩和ケアをサポートいたします。がん診療および救急医療を通じて「地域に必要とされる」医療を継続することを目標とします。

## 2025年度の具体的重点項目

## 1. 腹腔鏡手術のさらなる推進

消化器外科の分野では、低侵襲手術としての腹腔鏡・胸腔鏡手術をさらに推進し、合併症の減少と合わせて早期社会復帰に努めます。ロボット支援手術システムも稼働して、さらに精細かつ安全な手術に貢献しています。肝胆膵領域の手術も推進し、全領域的な外科治療を提供します。

## 2. 乳がん治療の多様化に対応

癌の進行度と生物学的特徴に応じた最適な治療法を提案します。手術はもちろんのこと、薬物療法と放射線療法を駆使し、早期がんから進行再発がんまで、多様なニーズに対応します。検診によるがんの早期発見にも注力いたします。

## 3. 緩和ケア外来の維持

緩和ケア内科医が退職し専門職は不在ですが、外科医による緩和ケア外来・病棟のサポートを維持します。がん看護専門看護師とのチーム連携による緩和ケア体制を維持しつつ、地域在宅医療システムとの連携を深めます。

## 4. 新たな専門医制度に対応する教育体制

多くの手術を経験できることはもちろん、大学や関連病院から技術認定医・指導医の応援を得て、高度な技術を持つ専門医を育成します。HCUが稼働し、より綿密な周術期ケアが提供できるようになりました。

## 2024年度診療実績（上位10疾患を計上）

## (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

|                    | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|--------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                | 915   | 1007  | 1027  |
| 乳房の悪性新生物※          | 159   | 204   | 196   |
| そけい<鼠径>ヘルニア        | 94    | 98    | 92    |
| 胆 石 症              | 93    | 132   | 111   |
| 結腸の悪性新生物           | 88    | 76    | 111   |
| その他の外因の作用          | 76    | 65    | 67    |
| 直腸の悪性新生物           | 61    | 57    | 46    |
| 胃の悪性新生物            | 51    | 67    | 56    |
| 急性虫垂炎              | 40    | 31    | 41    |
| 肝及び肝内胆管の悪性新生物      | 21    | 10    | 8     |
| その他及び部位不明の胆道の悪性新生物 | 15    | 6     | 7     |

※化学療法目的の入院を含む

## (2) 手術実績

(件)

| <麻 酔 別> | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 総 計     | 713   | 759   | 762   |
| 全 麻     | 641   | 699   | 709   |
| 脊 椎     | 2     | 1     | 0     |
| 局 麻     | 70    | 58    | 52    |
| 硬 膜 外   | 0     | 1     | 1     |

| <疾患・術式別>           | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|--------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                | 713   | 759   | 762   |
| 乳房の悪性新生物(上皮内癌含む)   | 123   | 125   | 125   |
| 胆 石 症              | 93    | 132   | 109   |
| そけい<鼠径>ヘルニア        | 92    | 98    | 91    |
| 結腸の悪性新生物           | 84    | 75    | 104   |
| 直腸の悪性新生物(Rs含む)     | 59    | 69    | 53    |
| 胃の悪性新生物            | 49    | 55    | 52    |
| 急性虫垂炎              | 27    | 22    | 20    |
| 肝及び肝内胆管の悪性新生物      | 21    | 10    | 8     |
| 膵の悪性新生物            | 14    | 16    | 27    |
| その他及び部位不明の胆道の悪性新生物 | 13    | 6     | 7     |

## 2024年度の評価

麻酔科常勤医の増員が安定した手術件数の維持に寄与しています。救急診療とくに緊急手術にも積極的に対応し、さらにはがん検診・禁煙外来・緩和ケアチーム活動など、幅広い業務に力を発揮しました。労災疾病の検診や治療にも参加し、勤労者医療の一翼を担うべく活動を行いました。

## 2025年度スタッフ構成

### 副院長

小笠原 和 宏

- ・日本外科学会 外科専門医・指導医
- ・日本外科感染症学会 インфекションコントロールドクター（ICD）
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医
- ・日本乳癌学会 乳腺専門医・乳腺指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
- ・日本外科学会 認定医・外科専門医・指導医
- ・日本職業・災害医学会 海外勤務健康管理指導者
- ・日本職業・災害医学会 労働災害補償指導医
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・日本医師会 認定産業医
- ・乳房再建エキスパンダー/インプラント基準医師
- ・日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医

### 外科部長

中 川 隆 公

- ・日本外科学会 認定医・外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
- ・日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
- ・日本医師会 認定産業医

### 外科部長

江 本 慎

- ・日本外科学会 外科専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医・指導医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医
- ・davinci console surgeon

### 外科部長

石 黒 友 唯

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医（大腸）
- ・davinci Robot Surgery 術者Certification
- ・日本がん治療認定医機構 認定医
- ・日本乳癌学会 乳腺認定医

### 外科部長

小 林 展 大

- ・日本外科学会 外科専門医
- ・日本消化器外科学会 消化器外科専門医
- ・日本消化器外科学会 消化器がん治療認定医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医
- ・日本肝臓学会 肝臓専門医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医（大腸）
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- ・検診マンモグラフィ読影認定医
- ・davinci Robot Surgery 術者Certification

### 医師

真 鍋 和 也

### 医師

三 好 長

## 主な対象疾患および特色

- ・消化器がん（胃癌・大腸癌・肝胆膵癌・食道癌など）
- ・乳がん 乳房の良性疾患
- ・胆石症やなど消化器良性疾患
- ・急性虫垂炎など手術を必要とする感染性疾患
- ・鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど
- ・手術後の合併症や後遺障害など

## 臨床研修医教育内容

臨床研修指定病院であるとともに、日本外科学会修練指定施設、日本消化器外科学会認定施設、日本乳癌学会認定施設、日本肝胆膵外科学会高度技能修練施設であり、豊富な手術経験を積んで早いタイミングで外科専門医を取得するための基礎を学ぶことができます。

とくに強力な消化器内科、腫瘍内科チームとのコラボレーションによって、きわめて多数のがん手術を経験することが可能です。

多数の消化器外科専門医のほか、内視鏡外科技術認定医や乳腺専門医を育成した実績があります。外科医の経験を基盤として緩和ケア専門医に転身した医師もいます。幅広い臨床経験を約束できる環境です。

# 整形外科

副院長 放生憲博

## 2025年度の目標および方針

整形外科は運動器疾患を診断・治療する分野で、主にその疾病は変性疾患と外傷に大別されます。今年度は6名体制で診療活動を行っており、脊椎専門医(放生)と下肢専門医(加藤)、上肢専門医(下田)が常勤し、それぞれの分野で手術をはじめとした専門的な治療に当たると同時に、若手医師の育成を行っております。脊椎専門医は鉦根地区で唯一人の日本脊椎脊髄病学会指導医であり、脊椎疾患の治療はもちろんのこと、脊椎外科医の育成を行っております。その他、運動器疾患のあらゆる分野において専門性の高い高度な医療を提供しております。

鉦路市内のみならず、鉦根地区全域および道北・十勝地区からも患者さんを紹介して頂き、地域の中核病院としての役割が強く求められております。その期待に応えるべく、高い医療水準を保ちながら、患者一人一人に合わせた柔軟な治療を心掛けています。

## 2025年度具体的な重点項目

### 1. 脊椎外科専門治療の推進

当科脊椎専門医は日本脊椎脊髄病学会指導医です。脊椎外科治療には豊富な知識と高度な技術が要求されることが多く、その専門性を生かした治療を推進していくと同時に、脊椎外科医育成にも重点的に注力していくことを目指しています。

### 2. 膝・股関節疾患治療の重点化

変形性股関節症に対し、前方進入人工股関節置換術を重点的に行っています。前方進入はこれまでの後側方進入に比べて、術後人工関節脱臼を少なくすることができ、術後の脚長を厳密にコントロールできるなどの多くの利点を有します。高度な技術を要しますが、当科では本術式に積極的に取り組んでいます。

### 3. 手外科および肩・肘関節疾患の専門治療

上肢の専門医による専門性の高い治療を行っております。特に手外科領域に注力しております。疾患患者数が多い分野であるにも関わらず、鉦根地区には本分野の専門医が少ないため、当科の地域医療への貢献がさらに高まると考えています。

### 4. スポーツ医学

整形外科の特徴的な分野であるスポーツ医学を通じて、競技レベルからレクリエーションレベルまで、患者に合わせた診断・治療を行います。

### 5. 運動器外傷への積極的な取り組み

地域の中核病院における整形外科として、救急医療に欠くことのできない運動器外傷に積極的に取り組みます。

### 6. 骨粗鬆症の社会啓蒙活動と検査・治療の推進

骨粗鬆症は50歳以上の女性の3人に1人が患っていると言われていますが、実際に治療を受けているのはその1/6未満とされています。本疾患の存在と治療の重要性を社会に啓蒙すると同時に、検査・治療を推進していきます。

### 7. 整形外科専門医の育成

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行ってきました。これからも、臨床および学術的な指導を行うことにより整形外科医学教育にも注力していきます。

### 8. 地域の整形外科医への指導

鉦路市整形外科医会(当科部長が会長を兼任)の取り組みとして、症例検討会・講演会などを積極的に開催し、地域の整形外科診療レベルの向上を図ります。

## 2024年度診療実績(上位10疾患を計上)

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

|               | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 総計            | 989   | 899   | 797   |
| 大腿骨骨折         | 143   | 140   | 125   |
| 前腕の骨折         | 82    | 65    | 66    |
| 肩及び上腕の筋及び腱の損傷 | 79    | 45    | 8     |
| 腰椎及び骨盤の骨折     | 66    | 65    | 83    |
| 肩及び上腕の骨折      | 60    | 54    | 32    |
| その他の脊椎障害      | 59    | 36    | 42    |
| 下腿の骨折、足首を含む   | 52    | 51    | 45    |
| 肋骨、胸骨及び胸椎骨折   | 41    | 31    | 33    |
| 膝関節症[膝の関節症]   | 37    | 28    | 38    |
| その他の椎間板障害     | 26    | 33    | 30    |



(2) 手術実績 (件)

| ＜麻酔別＞ |   | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------|---|-------|-------|-------|
| 総     | 計 | 643   | 602   | 516   |
| 全     | 身 | 494   | 500   | 436   |
| 脊     | 椎 | 19    | 13    | 22    |
| 伝     | 麻 | 70    | 54    | 33    |
| 局     | 所 | 53    | 30    | 19    |

| ＜疾患・術式別＞       |   | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|----------------|---|-------|-------|-------|
| 総              | 計 | 643   | 602   | 516   |
| 大腿骨骨折          |   | 86    | 96    | 106   |
| 前腕の骨折          |   | 79    | 65    | 66    |
| 肩及び上腕の筋及び腱の損傷  |   | 78    | 43    | 8     |
| 肩及び上腕の骨折       |   | 53    | 43    | 27    |
| 下腿の骨折、足首を含む    |   | 42    | 42    | 38    |
| 膝関節症[膝の関節症]    |   | 34    | 28    | 36    |
| その他の脊椎障害       |   | 26    | 13    | 19    |
| 股関節症[股関節部の関節症] |   | 22    | 25    | 16    |
| 上肢の単ニューロパチ<シ>ー |   | 21    | 34    | 5     |
| 滑膜炎及び腱鞘炎       |   | 21    | 9     | 0     |

2024年度の評価

当科は整形外科3分野（脊柱・上肢・下肢）の各専門医が揃っており、全ての領域で高度な治療を行うことが可能です。今後も地域の中核病院としてさらに重要な役割を果たしていくことが求められており、地域の期待に応えていきたいと考えています。

2024年度スタッフ構成

副院長

放生憲博

- 医学博士
- 北海道大学病院客員臨床講師
- 日本専門医機構 整形外科専門医
- 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医
- 日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科専門医
- 日本脊髄外科学会 脊椎脊髄外科専門医
- 日本整形外科学会 整形外科専門医
- 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
- 日本整形外科学会 スポーツ医
- 日本整形外科学会 リウマチ医
- 日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医
- 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター

整形外科部長

加藤琢磨

- 日本整形外科学会 運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会 整形外科専門医
- 日本整形外科学会 スポーツ医

- 日本医師会 認定健康スポーツ医
- 日本人工関節学会 認定医

整形外科部長

校條祐輔

- 日本整形外科学会 整形外科専門医
- 日本整形外科学会 脊椎脊髄病医

整形外科部長

松居祐樹

- 日本整形外科学会 整形外科専門医
- 日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
- リバーstype人工肩関節置換術認定医
- 日本手外科学会 手外科専門医

整形外科医師

横山慎

赤石直央貴

主な対象疾患

＜脊椎疾患＞

- 腰部椎間板症
- 腰椎椎間板ヘルニア
- 脊椎分離症・すべり症
- 腰部脊柱管狭窄症
- 腰椎変性すべり症
- 腰椎変性側弯症
- 頸椎椎間板ヘルニア
- 頸椎症・頸髄症
- 頸椎後縦靱帯骨化症
- 骨粗鬆症・脊椎圧迫骨折
- 脊椎腫瘍
- 脊椎脊髄損傷
- 胸髄症（ヘルニア、脊椎症、靱帯骨化）
- 化膿性・結核性脊椎炎
- 脊柱側弯症

＜下肢疾患＞

- 変形性股関節症
- 変形性膝関節症
- 膝前十字靱帯損傷
- 膝半月板損傷

＜上肢疾患＞

- 弾発指（ばね指）
- 母指CM関節症
- デュピュイトレン拘縮
- 肘部管症候群
- 橈骨遠位端骨折
- 鎖骨骨折
- 肩腱板損傷
- 変形性肩関節症

II. 診療科及び部門報告

(1) 診療部門



- ・肩関節周囲炎
- ・リウマチ肩
- ・変形性肘関節症
- ・離断性骨軟骨炎

## ■ 特 色

整形外科の主要疾患はすべて対象としています。脊椎疾患に対して高度な専門性の高い治療を行っております。下肢疾患については北海道大学整形外科からの診療応援もあり大学と協力しながら最先端の治療を提供してまいります。

## ■ 臨床研修医教育内容

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行っています。整形外科カンファレンスを毎日行い、整形外科の基礎的な知識から検査・診断へのプロセス、実際の保存・手術治療まで、個別の症例ごとに全員で検討しています。また、学会や研究会への発表・論文作成指導も行っており、様々な方面からの教育を目指しています。

## ■ 2025年度の目標及び方針

脳疾患部門と脊髄末梢神経疾患部門の2部門からなる＜総合神経外科＞と言える全身の神経を診る理想的な診療体制を、2022年度も維持・継続して地域医療を支えます。

**脳部門：**＜全領域＞脳梗塞、脳出血、脳動脈瘤、脳腫瘍の他、顔の痙攣・痛み、画像で異常がない頭痛、認知症も最新の知見のもと診ています。＜連携＞産婦人科・小児科の方は、赤十字病院と連携し、出張手術を実施する場合があります。市立病院との連携で依頼する場合があります。一番の連携は、北大病院との連携で、札幌に行ける場合は紹介ないし転院。行けない場合は、大学からの出張手術を行っています。

＜超救急チーム医療＞では、緊急開頭術と脳血栓回収（血管内治療、血管内手術）も行っています。

＜手術時間大幅短縮＞熟練術者が強化され、質の向上とともに、手術時間が短縮されました。

＜片頭痛の治療（頭痛外来開設）＞脳に病気がないのに強い頭痛で仕事生活に支障が出る片頭痛に対する治療を行っており、良好な結果が出ています。

2024.1：頭痛外来開設しています。院内体制確立、ホームページ更新しました。

より受診し易くなっています。

＜認知症の治療（新薬取り扱い）＞認知症治療は難しいのですが、できることはしています。脳の器質的な病気が原因の二次性認知症は、脳腫瘍を治す、水頭症を治す、慢性硬膜下血腫を治すなどの他、アルツハイマー型認知症(AD)辺症状に対応しますし、今年認可されたAD治療注射薬を使用できる施設です。5例以上の方が治療を続けています。

**脊髄末梢神経部門：**手足のしびれ・痛みを神経からの視野もって診るのが特徴です。腰下肢痛も同様に診ます。外科手術は低侵襲手術が増えています。ハイテク（画像・機能検査診断）とロウテク（指で押す診断）の組み合わせ。

今年度は人員減となっていますが、有能な少数メンバーなので治療内容は

**救急医療：**当院に救急部はありませんが、確立された当院の救急診療指針に基づき、脳疾患の可能性のある救急患者さんを診ることの実践を心がけます。これを目標とするのは今年度も変わりません。平日日中の救急対応室を拡張いたしました。また、時間外も脳外科医療最後の砦として、医療従事者間連携・タスクシフトも行い、地区医療機関や救急隊からの要請に応じ、

24時間・365日の救急応需体制を維持します。即時MRI検査施行中（チーム医療制・複数主治医/受持医での対応など創意工夫につとめます。）

**臨床研究：**引き続き倫理的側面への配慮の下、当科独自・地域・全国・国際的な臨床研究（共同研究）・治験への参加貢献を続けます。

## ■ 2024年度診療実績（上位10疾患を計上）

## (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

|                   | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 総 計               | 548   | 613   | 717   |
| 脳 梗 塞             | 157   | 149   | 174   |
| そ の 他 の 脊 椎 障 害   | 52    | 76    | 52    |
| 脳 内 出 血           | 43    | 36    | 59    |
| 頭 蓋 内 損 傷         | 32    | 37    | 42    |
| その他の非外傷性頭蓋内出血     | 24    | 7     | 12    |
| そ の 他 の 脳 血 管 疾 患 | 21    | 28    | 27    |
| て ん か ん           | 15    | 31    | 44    |
| 末梢神経系のその他の障害      | 15    | 34    | 21    |
| 下肢の単ニューロパチ<シ>ー    | 13    | 21    | 27    |
| 上肢の単ニューロパチ<シ>ー    | 12    | 12    | 14    |

## (2) 手術実績

(件)

| ＜麻酔別＞ | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 総 計   | 212   | 295   | 268   |
| 全 身   | 117   | 164   | 167   |
| 局 麻   | 94    | 129   | 98    |
| な し   | 1     | 0     | 2     |

| ＜疾患・術式別＞          | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 総 計               | 212   | 295   | 268   |
| そ の 他 の 脊 椎 障 害   | 46    | 72    | 46    |
| その他の非外傷性頭蓋内出血     | 23    | 6     | 10    |
| 脳 梗 塞             | 22    | 27    | 26    |
| 下肢の単ニューロパチ<シ>ー    | 13    | 20    | 26    |
| 上肢の単ニューロパチ<シ>ー    | 12    | 12    | 14    |
| そ の 他 の 脳 血 管 疾 患 | 11    | 22    | 12    |
| 脳 内 出 血           | 10    | 15    | 20    |
| そ の 他 の 椎 間 板 障 害 | 9     | 3     | 6     |
| 脊 椎 症             | 9     | 8     | 19    |
| 頭 蓋 内 損 傷         | 8     | 23    | 11    |

## 2024年度の評価

日本脳卒中学会認定一次脳卒中センターに認定されたほか、教育研修施設にも釧路地区で3病院目として認定されています。

## 2024年度スタッフ構成

### 脳神経外科部長

磯部 正 則

- ・日本脳神経外科学会 専門医指導医
- ・臨床研修指導医

第一部長。脳部門と全体統括。毎日外来診療。脳ドックも全て対応。脳手術全てと一部の脊椎手術を担当。地域医療にも大きく貢献し、脳神経外科が手薄な釧路赤十字病院、町立厚岸病院の診療応援にも従事しています。病院当直も未だ担当しています。

井 須 豊 彦

- ・日本脳神経外科学会 専門医指導医
- ・日本脊椎外科学会 指導医

脊椎末梢神経外科診療を統括。特に診断治療に苦慮するタイプの腰部・臀部・上下肢の痺れと痛みの診療に精通し、その治療効果を発揮し、全道・全国からも患者さんが訪れます。

伊 藤 康 裕

- ・日本脳神経外科学会 専門医指導医
- ・日本脳卒中の外科学会 技術認定医
- ・日本脳神経血管内治療学会 専門医
- ・臨床研修指導医

脳神経外科、とくに脳卒中手術診療に優れ、脳外科治療に貢献できる。

外来は週2回+α。脳手術全て、脳血管内治療全てに従事。

またく超救急チーム医療>長であり、超急性期脳梗塞治療を脳血栓回収も行っています。

### 脳神経外科医師

山 本 大 慈（水曜日定期外来、救急外来）

- ・日本脳神経外科学会 専攻医

各分野、脳血管内治療にも対応しています。

## 主な対象疾患及び特色

当院の特徴は、脳・脊椎外科センターと末梢神経外科センターでの2本建てでの診療の実践です。

脳外科疾患部門：磯部・伊藤・山本（脳神経外科専門医、専攻医）

藤村・茂木・杉山（北大）他

脊髄・末梢神経外科疾患部門：

井須（脊髄外科指導医）・吉永・

磯部（脳神経外科専門医）

金（日本医大千葉北総病院部長）

## 臨床研修医教育内容

自由選択科目期間（最長35週間）において、1, 2年次いずれにおいても研修可能です。

脳神経外科で推奨する研修期間は、最低8週間（診断・初期対応の修練が可能）～16週間（診断・初期対応修練に加え、侵襲性を伴う処置・検査・手術手技の経験が可能）です。

教育内容の全容は、当院の臨床研修プログラム（脳神経外科臨床研修プログラム）に記述していますが、

【釧路労災病院脳神経外科の特徴】は、日本脳神経外科学会「新規脳神経外科専門医制度」に基づく、認定連携施設、日本脳卒中学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター（PSC）、日本脊椎外科学会認定指導医在籍施設での研修が可能であることです。教育の理念は、“患者第一”・“脳・脊髄・末梢神経・全ての神経系疾患を対象とした診療と研究”・“教育のシステムとしてのチーフレジデント制度”です。

## 2025年度の目標及び方針

泌尿器科は、泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、癌診療連携拠点病院として、腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌や腎機能低下例に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した開腹前立腺全摘除術を行っているが、近年急増しているロボット支援手術も導入され安定運用に向けて取り組んでいる。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、免疫療法、放射線治療を患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。近年急激に増加した新規抗がん剤や、免疫複合療法に対しても対応できる体制を整えている。

腎不全に関しては、血液透析導入以後の維持透析管理を血液浄化センターで施行している。2020年7月からはオンラインHDFが施行可能となり、透析の質的向上に加え経費削減も果たせるようになった。

尿路結石に関しては、レーザー機器が常備となったため、必要時に内視鏡による結石治療が可能となった。

2021年4月からは、北大病院からの定期出張（月1回2日間（月・火））が再開され、専攻医への手術指導や最新治療情報を加味した症例検討会などを行っている。

## 2025年度の具体的な重点目標

- 診療全般に関しては、常勤医師3名+院長による体制となり、外来3-4診体制によって外来待ち時間短縮と予約外患者の受け入れにも対応する。
- 他施設との連携を重視し、地域医療に貢献する。
- 癌診療に関しては、免疫化学療法患者が増加しており、外来化学療法センターを利用しての前立腺癌や尿路上皮癌、腎細胞癌に対する化学療法・免疫複合療法等をさらに進めていく。
- 血液浄化部門に関しては、血液浄化センターの運営を安全に進めていくとともに、オンラインHDFの適応や栄養指導の充実、服薬指導の工夫等によって透析患者のQOL向上にも努めていく。
- 他科入院患者のカテーテル抜去後の排尿障害に対しては、排尿ケアチームの介入を積極的に行い、患者のためになる尿路管理を行っていく。

## 2024年度診療実績（上位10疾患を計上）

## (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

|                   | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 総 計               | 497   | 501   | 518   |
| 前立腺の悪性新生物         | 113   | 135   | 121   |
| その他及び部位不明の上皮内癌    | 74    | 67    | 62    |
| 膀胱の悪性新生物          | 71    | 85    | 98    |
| 腎結石及び尿管結石         | 43    | 21    | 20    |
| 前立腺肥大(症)          | 21    | 10    | 28    |
| 腎盂の悪性新生物          | 20    | 9     | 25    |
| 閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患  | 18    | 27    | 22    |
| 尿管の悪性新生物          | 16    | 6     | 13    |
| 腎盂を除く腎の悪性新生物      | 15    | 20    | 21    |
| 血漿たんぱく<蛋白>のその他の異常 | 14    | 26    | 20    |

## (2) 手術実績

(件)

| <麻酔別> |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------|--|-------|-------|-------|
| 総 計   |  | 355   | 365   | 358   |
| 全 身   |  | 72    | 64    | 68    |
| 脊 椎   |  | 229   | 268   | 260   |
| 局 麻   |  | 48    | 19    | 23    |
| 無 麻 酔 |  | 4     | 2     | 6     |

| <疾患・術式別>          |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------|--|-------|-------|-------|
| 総 計               |  | 355   | 365   | 415   |
| 前立腺の悪性新生物         |  | 78    | 99    | 94    |
| その他及び部位不明の上皮内癌    |  | 72    | 64    | 61    |
| 膀胱の悪性新生物          |  | 46    | 57    | 77    |
| 腎結石及び尿管結石         |  | 38    | 18    | 18    |
| 前立腺肥大(症)          |  | 20    | 10    | 26    |
| 閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患  |  | 17    | 24    | 22    |
| 血漿たんぱく<蛋白>のその他の異常 |  | 14    | 26    | 20    |
| 下部尿路結石            |  | 12    | 12    | 13    |
| 腎盂の悪性新生物          |  | 9     | 5     | 10    |
| 尿管の悪性新生物          |  | 8     | 4     | 9     |

## 2024年度の評価

診療スタッフ3名にて診療を行い入院・外来・手術件数とも前年と同程度であった。

## ■ 2025年度スタッフ構成

### 泌尿器科部長

佐々木 芳 浩

- 日本泌尿器科学会 専門医・指導医
- 日本泌尿器科内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- Davinci Robot Surgery 術者 Certification

### 医師

山 本 祥 太

- 医学博士
- 日本泌尿器科学会 専門医
- 日本抗加齢学会 専門医
- Davinci Robot Surgery 術者 Certification

### 医師

花 田 裕 也 後期研修医

## ■ 主な対象疾患

- 腎細胞癌
- 腎盂尿管癌
- 膀胱癌
- 前立腺癌
- 精巣癌
- 副腎腫瘍
- 後腹膜腫瘍
- 前立腺肥大症
- 神経因性膀胱
- 過活動膀胱
- 腎不全（腎前性・腎性・腎後性）尿路感染症
- 先天性尿路
- 性器疾患

## ■ 特 色

癌診療連携拠点病院として、腎・尿管。膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）を行っているが、免疫化学療法が奏功し膀胱温存が可能となった症例も見られるようになった。前立腺癌に対しては低侵襲の手術支援ロボット（ダヴィンチ）による前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、免疫療法、放射線治療、さらには免疫複合療法等を患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。

## ■ 臨床研修医教育内容

日本泌尿器科学会認定教育施設である。研修医は腎・尿路疾患のプライマリー・ケアができるように、疾患の診断・標準的な治療・基本的な処置についての知識を習得するため、入院患者を中心に泌尿器科疾患全般に触れ、代表的な疾患に関しては自分自身の力で、複雑な疾患については指導医と相談しながら的確に対応できる能力を取得することを目標とする。また、手術に参加することはもちろん小手術の執刀を経験することも出来る。可能であれば地方学会等での症例報告も行うことが出来る。



# 眼科

## ■ 2024年度診療実績 令和4年度 入院なし

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

|                               | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------------------------|-------|-------|-------|
| 総 計                           | 162   | 106   | 0     |
| 老人性白内障                        | 154   | 104   | 0     |
| 網脈絡膜の炎症                       | 2     | 0     | 0     |
| その他の白内障                       | 2     | 0     | 0     |
| 眼窩の障害                         | 2     | 2     | 0     |
| 網膜血管閉塞症                       | 1     | 0     | 0     |
| その他の体内プロステシス,<br>挿入物及び移植片の合併症 | 1     | 0     | 0     |

### (2) 手術実績 (件)

| <麻酔別>     |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-----------|--|-------|-------|-------|
| 総 計       |  | 155   | 202   | 0     |
| 局 麻       |  | 155   | 202   | 0     |
| <疾患・術式別>  |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
| 総 計       |  | 155   | 202   | 0     |
| 老人性白内障    |  | 152   | 200   | 0     |
| 眼窩の障害     |  | 0     | 2     | 0     |
| 結膜のその他の障害 |  | 0     | 0     | 0     |
| その他の白内障   |  | 2     | 0     | 0     |
| 眼球及び眼窩の損傷 |  | 0     | 0     | 0     |
| 眼球の障害     |  | 0     | 0     | 0     |



# 耳鼻咽喉科

部長 石井秀幸

## 2025年度の目標及び方針

北海道の医師の偏在は度々報道され、道東地区はその引き合いに出される程度医師の数が少ない。勤務医、さらに耳鼻咽喉科医師となるとかなり顕著となる。釧根地区人口はおよそ30万人であるが、勤務医のいる病院は当院と市立釧路総合病院、町立中標津病院のわずか3か所のみである。管内には釧路赤十字病院、市立根室病院、町立別海病院が耳鼻咽喉科を開設しているが、いずれも1～2週に数日間だけの出張でまかなわれている。

出張医は地域医療に貢献しているが、喉頭浮腫・扁桃周囲膿瘍・深頸部膿瘍など緊急処置および入院手術を必要とする患者に対応することは不可能であり常勤医のいる病院に紹介するしかない。さらに、また悪性腫瘍など集学的な治療や経過観察が必要な場合、釧根地区から札幌・旭川などの医療資源の豊富な大都市圏への紹介を提案しても、遠方または経済的な理由から、当院で治療を完結させたいという患者も少なからず見られる。そのような点から当院はいわば釧根地区の最後のとりでの一つといっても過言ではない病院である。そのため今後も可能な限り現在の体制を維持して住民の期待にこたえられるようにしていきたい。

## 2025年度の具体的な重点項目

### 1. 地域医療との連携地域医療機関からの診療依頼を可能な限り引き受ける

ベッドが満床の場合やむなく入院依頼をお断りすることもあるが、できる限り地域医療機関の期待にこたえられるようにしていきたい。

### 2. 救急疾患に対する診療体制を維持する

当科は気道を扱う科なので、軽重問わず救急疾患は比較的多い。また緊急性のある疾患もその中に含まれている。都市圏の病院では救急医が救急対応するのが通常であるが、釧根地区で救急医を常勤させ本格的に救急対応できる病院はほとんどない。なので通常救急医が行う内容も対応しなければならない。マンパワー的にももちろん厳しい状況ではあるが、今後も救急疾患に対応できる体制を維持していきたいと考えている。

### 3. 耳疾患から頭頸部腫瘍に至る幅広い疾患への対応

耳鼻咽喉科疾患は、耳疾患のようなかなり小さな視野から頭頸部腫瘍といった比較的大きな術野まで多岐にわたり、まれな疾患もある。医療が進歩するにしたがって施設の医療体制、医療機器などをすべ

て最新の状態で維持し続けるのは誠に困難であるが、その中でできる限り幅広く種々の疾患に対応していきたい。

## 2024年度診療実績（上位10疾患を計上）

### (1) 入院患者疾患分類集計（人）

|                      | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|----------------------|-------|-------|-------|
| 総計                   | 462   | 442   | 464   |
| 前庭機能障害               | 89    | 52    | 72    |
| 睡眠障害                 | 40    | 40    | 29    |
| 慢性副鼻腔炎               | 40    | 39    | 25    |
| 扁桃周囲膿瘍               | 36    | 27    | 30    |
| その他の難聴               | 32    | 28    | 24    |
| 急性閉塞性喉頭炎[クループ]及び喉頭蓋炎 | 22    | 7     | 8     |
| 顔面神経障害               | 16    | 22    | 20    |
| 急性扁桃炎                | 14    | 19    | 20    |
| 気道からの出血              | 12    | 16    | 13    |
| 扁桃及びアデノイドの慢性疾患       | 10    | 5     | 10    |

### (2) 手術実績（件）

| <麻酔別>                      |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|----------------------------|--|-------|-------|-------|
| 総計                         |  | 165   | 194   | 192   |
| 全麻                         |  | 157   | 177   | 184   |
| 局麻                         |  | 8     | 17    | 8     |
| <疾患・術式別>                   |  | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
| 総計                         |  | 165   | 194   | 192   |
| 慢性副鼻腔炎                     |  | 39    | 38    | 25    |
| 大唾液腺の良性新生物                 |  | 10    | 18    | 10    |
| 扁桃及びアデノイドの慢性疾患             |  | 10    | 5     | 9     |
| 鼻及び副鼻腔のその他の障害              |  | 8     | 14    | 4     |
| その他の非中毒性甲状腺腫               |  | 8     | 4     | 3     |
| 中耳真珠腫                      |  | 6     | 2     | 4     |
| びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫 |  | 6     | 7     | 8     |
| 気道からの出血                    |  | 6     | 11    | 4     |
| 甲状腺の悪性新生物                  |  | 6     | 7     | 10    |
| 顔面及び頸部のその他の先天奇形            |  | 5     | 3     | 3     |

## 2024年の評価

2019年4月から形成外科常勤医が不在となった。遊離皮弁、神経再建を必要とする頭頸部腫瘍の手術ができなくなり、そのような患者さんは引き続き市立鉦路総合病院に紹介している。しばらくこの状況は続きそうである。ただ2020年1月からの新型コロナウイルス感染症の流行の影響が収束に向かって、入院前の自宅安静を行わずにコロナ前と変わらない入院体制となった。手術件数は以前のレベルと考えている。とはいえまだまだコロナの散発的な影響が続くと考えられ、気を緩めることなく変化に対応していくつもりである。

## 2025年度スタッフ構成

### 耳鼻咽喉科部長

石井 秀幸

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 認定騒音性難聴担当医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門研修指導医

### 医師

竹田 龍平

北南 和彦

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 認定騒音性難聴担当
- ・日本医師会 認定産業医

## 主な対象疾患

メニエール病、良性発作性頭位めまい症、突発性難聴、末梢性顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群）、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血、シェーグレン症候群、睡眠時無呼吸症候群、扁桃周囲膿瘍、扁桃病巣疾患、声帯ポリープ、喉頭麻痺、音声・照下障害、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、耳下腺腫瘍、上顎癌、咽頭癌、喉頭癌、その他の頭頸部腫瘍など。

## 特色

耳垢栓塞から頭頸部癌まできわめて多岐にわたる耳鼻科全般を扱っている。これは特殊なものでない限り何でも扱わざるを得ない地域医療の宿命でもある。裏を返せば特色のある診療を打ち出せない状況にある。その中で、睡眠時無呼吸外来は鉦路地区では当院だけが行っている専門外来である。

## 臨床研修医教育内容

耳鼻咽喉科臨床研修医が扱うべき疾患群はすでに日本耳鼻咽喉科学会から基準が示されている。疾患群の数は多く、またその中には市中病院で扱うにかなり特殊なものまで含まれており、地方病院である当科では残念ながらすべてを網羅することはできない。また2か月間という期間もそれを困難にしている。ただし、そこでの診療は大学病院とは違い、患者との距離がとても近いことを実感できると思う。また指導医との距離感も近いと思われる。このような環境の中で、1例1例を大事に検討ができるであろう。当院当科の実習を通して実臨床という軸のほかに、地域という軸も組み合わせられるようになり、そこから得られる様々な相違点を考え、未熟ながらも自分なりの治療方針を導き出せるよう頑張ってもらおうつもりである。

# 放射線科

部長 米坂 祥朗

## 2025年度の目標と方針

放射線画像診断及び放射線治療を柱として各科のニーズに対応している。

今後の新しい診断機器や診断技術、治療技術にも迅速に対応できるよう心掛けたい。

## 2025年度の具体的な重点項目

### 1. CT増設に伴う検査体制、読影体制の整備

昨年同様MRI 2台、CT 2台、RI 1台での検査読影体制で運用している。読影件数は漸増傾向にあるが、画像診断医の増員はなく可能な範囲内で対応したい。

### 2. 体幹部定位放射線治療の実施

転移性脳腫瘍に対しては年間10例程度の定位放射線治療を実施している。

体幹部（転移性肺腫瘍）に関しては、検証機器がないので所定の点数が取れない状態である。しかし、症例を積み重ね、年間10例程度は施行したい。

### 3. 「放射線ワーキンググループ」の設置

院内の他職種（特に看護師）にとって放射線治療は身近ではなく知識不足の傾向がある。

放射線治療の看護の均てん化を目的に、「放射線安全運営委員会」の下部組織として「放射線治療ワーキング」を設置し運営を開始している。

## 2024年度の評価

### ・画像診断部門

MRIのDWIBS検査と泌尿器科領域の検査読影が増加した。読影件数の増加による読影精度の低下をきたさぬように対応出来た。

### ・治療部門

放射線治療については、院外、特に釧路赤十字病院や釧路協立病院からの紹介患者が増加傾向にある。より一層の宣伝及び普及に努めたい。

## 2025年度スタッフ構成

### 放射線科部長

米坂 祥朗

- ・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医
- ・日本医学放射線学会 放射線治療専門医
- ・日本医学放射線学会 放射線科専門医

永尾 一彦

- ・日本核医学会 PET核医学認定医
- ・日本核医学会 核医学専門医

## 特 色

当科は放射線画像診断及び放射線治療の双方に対応している。

CT・MRI及びRI検査は読影依頼のあるものに対して、画像診断報告書を作成している。脳、頭頸部、胸腹部、四肢など全身の検査の診断を行っているが、特に悪性腫瘍の精査やスクリーニング、変性疾患の診断が中心となる。

緊急検査は連絡を受ければ迅速に、それ以外の検査は当日～翌日中までに読影レポートを作成している。読影依頼のない検査でも、検査後に読影が必要となった症例に対しては、後日読影依頼が可能となっている。

放射線治療については、年間新患が250例程度、照射患者数が350例程度であり、当院規模の地域がん診療拠点病院としては、標準的である。

疾患的には偏りなく、広く全身の癌腫に対して照射している。

## ■ 2025年度の目標および方針

- ・患者の安全を守る手術麻酔を安定して提供すること

## ■ 2025年度の具体的な重点項目

- ・各科の要請に迅速かつ安全に応えるための業務改善
- ・麻酔業務の質と量の底上げ

## ■ 2024年度の評価

常勤医 2 ～ 3 名と出張医で診療を行った。  
麻酔科管理件数は1,836件であった。

## ■ 2025年度スタッフ構成

### 麻酔科部長

本 江 勲 充

- ・日本麻酔科学会 麻酔科認定医・専門医

### 麻酔科部長

小 田 俊 昭

- ・日本麻酔科学会 麻酔科認定医

### 麻酔科部長

副 島 崇 旨

- ・日本麻酔科学会 麻酔科専門医
- ・集中治療専門医

### 麻酔科副部長

瀧 田 謙

- ・日本麻酔科学会 麻酔科専門医

# 歯科口腔外科

部長 藤 盛 真 樹

## 2025年度の目標および方針

当科は一般的な口腔外科疾患から、口腔がん、口腔顎顔面領域の外傷、重症炎症などの高次歯科医療診療を、院内および院外の各診療科と連携しつつ行っている。また、内科系および外科系診療各科と緊密に連携し、患者の口腔管理を担うことで各種がん治療を支える。このような高次歯科医療とがん支持療法を2本柱として、当科に求められる役割を果たしていくことが当科の目標および方針である。

当科は日本口腔外科学会認定施設であり、口腔外科の研修を希望する歯科医師への教育指導と人材育成も従来通り継続する。

## 2025年度の具体的な重点項目

### 1. 地域医療との連携

従来通り紹介および逆紹介を基本に釧根地区の歯科医院・病院・医院と密に連携した診療を行う。地域医療における医科と歯科の橋渡し役を積極的に担う。地域歯科医師の手術研修を積極的に受け入れる。

### 2. 釧路赤十字病院歯科口腔外科および市立釧路総合病院歯科口腔外科・耳鼻咽喉科との連携

口腔外科的疾患は、可能な限り地域完結型の診療を目指す。釧路根室3次医療圏内の3つの病院歯科口腔外科が連携して地域医療に貢献できる体制は構築された。NR（日赤-労災）構想に基づく釧路赤十字病院との手術応援体制はさらに強化されている。進行口腔癌については、市立釧路総合病院耳鼻咽喉科と連携し、医療圏内で完結させる体制が確立したため、これを維持発展させる。

### 3. 薬剤関連顎骨壊死の診断・治療・臨床研究

医科・歯科で共に問題となっている薬剤関連顎骨壊死に対し、北海道の多施設共同研究の中心となっている知識と経験を生かし、予防や治療、さらに新しい診断技術などの開発を行う。

### 4. 周術期口腔機能管理

がんの支持療法科としての機能を維持し、院内他科からの要望への迅速対応を継続する。

### 5. 臨床研究活動

道内外の口腔外科施設との共同研究の参加、学会発表を積極的に行う。

### 6. 若手歯科医師の指導体制の強化

外来、病棟、手術室すべてにおいて、若手歯科医師に広く手厚い教育環境を与え、知識と技術の段階的習得をはかる。

## 7. 院内活動の強化

病院内での様々な部署と連携し（NST、緩和、感染、口腔ケアなど）、所属歯科医師全てが病院内での活動に積極的に参加する。

## 2024年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

|             | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 総 計         | 833   | 660   | 643   |
| 埋伏歯         | 326   | 312   | 285   |
| 歯および歯周組織の疾患 | 322   | 239   | 298   |
| 悪性腫瘍        | 22    | 18    | 12    |
| 顎顔面骨の骨折     | 6     | 10    | 6     |
| 良性腫瘍        | 16    | 17    | 8     |
| 唾液腺疾患       | 4     | 3     | 5     |

### (2) 手術実績 (件)

| ＜麻酔別＞   | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|---------|-------|-------|-------|
| 総 計     | 648   | 533   | 530   |
| 全 身     | 319   | 286   | 301   |
| 局麻(入院下) | 164   | 95    | 103   |
| 静 脈     | 157   | 152   | 126   |
| な し     | 2     | 0     | 0     |

| ＜疾患・術式別＞    | 令和6年度 | 令和5年度 | 令和4年度 |
|-------------|-------|-------|-------|
| 総 計         | 648   | 533   | 530   |
| 埋伏歯         | 295   | 301   | 273   |
| 歯および歯周組織の疾患 | 234   | 147   | 177   |
| 良性腫瘍        | 9     | 15    | 7     |
| 顎顔面骨の骨折     | 5     | 8     | 6     |
| 唾液腺疾患       | 3     | 2     | 5     |
| 悪性腫瘍        | 7     | 11    | 6     |

## 2024年度の評価

2023年3月末に松本歯科医師が退職し、2024年4月に金山歯科医師と五十嵐歯科医師が着任し、歯科医師4人体制が維持された。

前年度と同様に、近隣の歯科医院を中心とした医療機関からの紹介患者と、周術期口腔機能管理を主とする院内紹介患者がほとんどを占めた。初診患者は2,615人で前年度比210人増、紹介患者数は1,110人で前年度比148人増であった。

口腔癌の治療の早期口腔癌および切除不能癌の治療は当科で継続しているが、手術可能な進行口腔癌の治



療は市立病院耳鼻咽喉科との連携により実施している。薬剤関連顎骨壊死患者が明らかに増加しており、治療から臨床研究までを一貫して実施する診療科として、院内および院外から認知されている結果と思われる。

院内他科と連携して手術やがん治療前後、緩和治療中の口腔管理を行う「周術期口腔機能管理」は、院内で年間1,300名以上に実施されている。専門的な対応が可能な歯科衛生士が3名在籍し、充実した周術期口腔機能管理への対応が可能である。

## 2024年度スタッフ構成

### 歯科口腔外科部長

藤 盛 真 樹

- ・日本口腔外科学会 専門医・指導医
- ・日本口腔科学会 認定医・指導医
- ・日本救急医学会ICLSコース 認定インストラクター
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

### 歯科口腔外科部長

金 山 純 一

- ・日本口腔外科学会 口腔外科認定医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

### 歯科口腔外科部長

角 伸 博

- ・日本口腔外科学会 認定医
- ・日本有病者歯科医療学会 認定医
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医

### 医師

五十嵐 一 真（4月～9月）

竹 治 凌 佑（10月～3月）

渡 邊 泰 崇

## 主な対象疾患

### 口腔顎顔面領域の

- ・悪性腫瘍ならびに良性腫瘍
- ・炎症
- ・薬剤関連顎骨壊死
- ・外傷
- ・嚢胞性疾患
- ・粘膜疾患
- ・唾液腺疾患
- ・顎関節疾患
- ・埋伏歯など歯の疾患
- ・歯の移植および再植術
- ・がん支持療法としての歯科疾患全般
- ・がん緩和療法としての歯科疾患全般

## 特 色

口腔外科疾患全般を治療対象としているが、顎顔面領域の悪性腫瘍は、市立釧路総合病院耳鼻咽喉科および形成外科、北海道大学医学部形成外科とのチームアプローチによって治療を行う。がん診療連携拠点病院内の歯科口腔外科として、口腔領域のがん支持療法および緩和医療の一翼を担う。また、薬剤関連顎骨壊死患者に対し、治療から臨床研究までを一貫して行う。

## 臨床研修医教育内容

院内各科をローテーションしている臨床研修医に対して、研修診療科の指導医とともに、症例を通して歯科口腔外科の疾患に対する教育と研修のサポートを行う。

## 健康診断部

### 2025年度の目標及び方針

疾病の早期発見と生活習慣病の改善により、受診者の健康の保持増進及び満足度の向上を図ることを目標としている。

今年度から出張医での対応となる。

### 2025年度の具体的な重点事項

依然としてコロナ感染者数の増加が見られる中、検診を中断した方々に対しての対応及び、可能な限り受検者のニーズに応えるべき体制を継続。

### 2024年度実績

| 内 訳         | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 一 般 健 診     | 1,370 | 1,304 | 1,325 | 1,233 |
| 特 定 健 診     | 385   | 348   | 355   | 346   |
| 特 定 保 健 指 導 | 30    | 30    | 21    | 16    |
| 日帰り人間ドック    | 478   | 499   | 453   | 443   |
| 特 殊 健 診     | 212   | 207   | 205   | 214   |
| 合 計         | 2,475 | 2,388 | 2,359 | 2,252 |

### 2024年度の評価

2023年5月、日本では新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行しました。依然として感染者数の増加が見られ、一部受検控えもありましたが、年間を通じて日程調整等を行い、可能な限り希望者の要望に応えるよう努めました。その結果、一般健診以外は前年度と同様の実施件数を維持することができました。

### 特 色

当院の健康診断部は、人間ドックをはじめとして、特殊健康診断などの様々なコースを実施しております。診察室は、病院最上階に診察室を設置、阿寒連山、釧路市内が眼下に広がり、美しい景色を見ながら健診を受けて頂くことができます。

健診メニューでは、人間ドックと脳ドックの併用健診や、多数のオプションを設け、様々なニーズに対応しております。

また、月1回土曜日限定の脳ドックを実施、勤労者が健診を受けやすい環境も整備しております。

なお、人間ドックでは、専門のコンシェルジュが帯同し、初めから終わりまで安心して検査を受けて頂ける体制を整え、受検者の心的負担を軽減する努力をしております。

## 病理診断科

### ■ 2024年度実績

1. 病理組織診…………… 3,526件  
うち術中迅速診…………… 128件
2. 細胞診…………… 1,597件
3. 病理解剖…………… 2 体
4. 臨床病理検討会…………… 1 症例  
「進行胃癌の化学療法後に意識障害、項部硬直を来  
たして死亡した一例」

## 栄養管理部

部長(事) 宮城島 拓 人

### 2025年度の目標及び方針

栄養管理室では患者への食事の提供、入院時の栄養アセスメント及び栄養管理計画の作成による栄養ケアプロセスの実施、栄養相談による患者や家族への適切な栄養管理法の情報提供、NST活動、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム等のチーム医療への参加による適切な栄養管理支援を行う役割がある。

適切な栄養管理を実施することで、治療による体力低下、創傷治癒の遷延を予防・改善することは患者のQOLを向上するとともに、医師、看護師の業務負担軽減を行い、病院の収益にも寄与することへ繋がる。チーム医療において、管理栄養士としての役割を果たすため、また、効果的な栄養管理を実施するために管理栄養士の技術の向上も必要と考える。

そのために提供する食事の内容について、定期的な検討会を実施し、入院中の患者のQOL向上へ繋がるよう取り組みを行う。

患者の円滑な入退院の支援を行なうこと、また在宅での栄養管理が地域として今後取り組むべき課題であるため地域連携も重要な課題であり、他施設へ転院する患者の食事や経腸栄養の情報を「栄養管理情報書」により共有すること、栄養士会釧根支部の活動及び摂食嚥下研究会への参加により院外の同職種、他職種との共同で地域住民の患者の健康管理の向上に関する取り組みに参画していく。

### 2025年度の具体的な重点項目

#### 1. がん患者の栄養サポートの充実

外来化学療法センターにおける栄養指導では病棟スタッフと連携をとり化学療法導入及びレジメン変更となる患者のスムーズな介入を実施していく。また、緩和ケア病棟との連携、緩和ケアチームへの参加を含めた入院・外来患者への日々の栄養管理を通してシームレスな栄養サポートを実践していく。

#### 2. 栄養スクリーニング、アセスメントの改訂による栄養管理体制の整備

スクリーニング及びアセスメントツールの変更により、管理栄養指導の業務が増加することが見込まれる。限られた人員のなかで実施できるよう既存の業務内容の見直しを図る。

#### 3. 食材費高騰への対応

主食である米をはじめとした食材費が価格上昇の一途と辿っている。栄養基準を満たした食事の提供を継続すべく、献立、食材のみならず、作業工程、

食事オーダ等を含めた給食業務全体の再考が必要と考える。

### 2024年度の評価

9月より外来化学療法センターにおける栄養指導を開始した。初回治療やレジメン変更の際には必ず実施し以降は必要時に実施。2025年3月までに184件の指導を実施した。入院1,544件(昨年度1,282件)外来517件(昨年度565件)と入外合わせ2,091件(昨年度1,847件)の個別栄養指導を実施し13.2%の増加となった。

地域連携に関しては栄養情報連携料の算定を開始。転院患者の情報として297件/年作成のうち135件算定となった。

栄養サポートチーム加算は197件/年算定した。

### 2025年度スタッフ構成

#### 栄養管理部部長(事)

宮城島 拓 人

#### 栄養管理室長

山 田 千 尋

#### 主任栄養士

山 口 亜 里

#### 管理栄養士

須 藤 絢 子

#### 調理師

宮 内 賢 二

渡 辺 裕 幸(定年再雇用)

#### 給食事務

湯 浅 ちづる

### 特 色

給食管理・栄養管理・治療就労両立支援部活動を実施

#### 給食管理

一般食、特別治療食を調理し個々の病態にあわせた食事を調理し提供しているほか、特別メニュー(選択できる食事)を、一般食提供患者を対象に週3日(水、木、金曜日の昼・夕食)実施している。

#### 栄養管理

栄養管理計画書の作成、栄養指導(個別、集団)の他、褥瘡回診、緩和ケアチーム、NSTに所属しチーム医療に参加。NSTは栄養管理室が事務局となり、

チームマネジメントを実施している。 そのほか外来透析回診及び血液浄化室カンファレンス、造血幹細胞移植カンファレンスに参加し、多職種連携によるチーム医療に参画している。

入院患者の他施設への転院時は栄養管理に関する添書として「栄養管理情報書」を作成し情報提供を行っている。

#### **治療就労両立支援部活動**

出前講座として生活習慣病予防のための食事について講演を実施している。



# 中央リハビリテーション部

部長 堀 内 桂

## ■ 2025年度の目標及び方針

### 中央リハビリテーション部の基本方針

1. 専門知識を高め、質の高いリハビリを実践します。
2. 十分な説明と同意に基づくりハビリを実践します。
3. 治療と就労の両立支援を実践します。
4. 多職種と連携しチーム医療に貢献します。

## ■ 2025年度の重点目標

### 1. 急性期のリハビリテーション

整形外科、脳神経外科をはじめとする急性発症後の患者に対しては、より多くのリハビリ介入が求められており、早期からリハビリを行うことで機能回復レベルの向上が期待できます。診療報酬では急性発症患者については初期加算、早期加算があり、2024年からは急性期リハビリテーション加算が新設されたことにより、収益性の向上に繋がります。HCUでは急性期重症患者や術後患者に対し、リスクを十分に加味しながらも、早期離床に向けたアプローチが求められるため、なお一層のリハビリテーション技術向上を目指します。

### 2. がんのリハビリテーション

当院では2012年から「がん患者リハビリテーション料」の算定を開始し、当初は主に外科周術期への対応でしたが、現在は消化器がん、乳がん、血液がん、頭頸部や口腔領域のがんなど広がりを見せており、がん治療を行っているほぼ全ての診療科からの依頼にえています。中でも血液がん患者の多さは当院リハビリ部の特徴といえます。化学療法や放射線療法などの理解や適切な対応など、リハビリ技師に求められることは多く、中央リハビリテーション部全体のスキルアップを図らなければなりません。

### 3. 地域包括ケア病棟におけるリハビリ

地域包括ケア病棟では急性期治療を終えた患者が在宅に戻ることを目的に、専従スタッフを中心となって在宅復帰に向けたリハビリテーションを行っています。地域包括ケア病棟に入院する患者のリハビリは、少なくとも一人1日あたり平均で1時間程度行うように定められているため、積極的なリハビリを行うには最適な病棟だといえます。一方で地域包括ケア病棟のリハビリ対象患者が多ければ、他病棟の患者に対するリハビリが十分行えない状況となります。主治医や病棟看護師、入退院支援看護師、医事課等の関係部署と連携して、リハビリゴールに達している患者はスポット的なリハ介入とするなど

して、地域包括ケア病棟と一般病棟でのリハビリがバランスよく行われるような調整が必要となります。

### 4. 緩和ケア病棟

がん終末期の患者に対しても可能な限りADL維持、改善を図りながら自宅退院を目指した取り組み、穏やかな療養生活ができるような支援が求められます。緩和ケア病棟では疾患別リハビリテーション料が算定できないため、リハビリに多くの時間を当てることはできませんが、患者家族の要望をくみ取りながら、病棟スタッフとともに関わっていきます。

### 5. 専門チームへの参加

当院では緩和ケア、認知症ケア、排尿ケア、褥瘡対策、栄養サポートなどの専門チームが活動していますが、その多くにリハビリ技師もメンバーとして参加し、チームの一員としてリハビリ的な視点からの提案を発信していきます。

### 6. 治療と就労の両立支援

職務内容や希望する復帰時期、仕事への思い等について聞き取り、身体機能、活動能力を改善し職場復帰を支援します。困難事例については治療・就労両立支援部と連携を取りながら、患者の希望に添えるように取り組んでいきます。

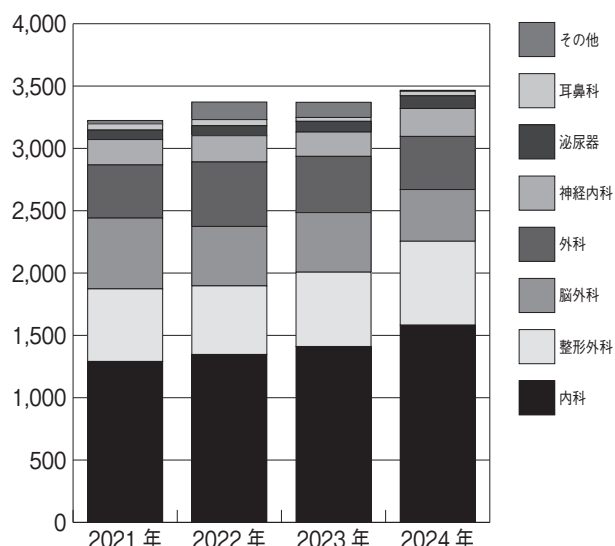
## ■ 2024年度の評価

地域包括ケア病棟では全スタッフが協力し、在宅に向けたリハビリを積極的に行いました。専従技師を1名配置し、カンファレンスや転棟患者選定会議への参加、関係部署への連絡、必要な単位数の調整などの業務を行うことで、地域包括ケア病棟の運営に貢献できました。

緩和ケア病棟は1名の技師がほぼ専従として、病棟看護師と連携しながら、機動的かつ細やかに介入しました。しかし2025年度からは専従技師退職により、全スタッフが分担しながら対応するため、また違ったアプローチで病棟運営に協力します。

リハビリ処方数は増加傾向で推移しており、2024年度は3,466件（前年比+96件）でした。多くのリハ依頼に応えるべくスタッフ一同で協力しながら、患者のために何ができるか、何をすればご満足頂けるかを日々考慮しながら業務を行っています。

リハビリ処方数



## 特 色

中央リハビリテーション部は令和7年6月現在、理学療法士16名、作業療法士6名、言語聴覚士3名の計25名が配置され日々の診療を行っています。

20年ほど前は運動器疾患や脳血管疾患患者のリハビリが大部分を占めていましたが、近年は内科系、外科系のリハビリ依頼が増加しており、スタッフを増員し対応してきました。入院早期から主治医や看護師と密に連携しながら介入することで、心身機能の低下を予防するとともに機能回復を支援しています。

また、各病棟とは定期的なカンファレンスを実施し情報共有を図り、患者、家族の希望を踏まえて、安全で質の高いリハビリを行えるように努力しています。

対象患者の高齢化にともない複数の疾患を併せ持つ患者も多く、障害の多様化と複雑化が見られます。またリハビリ対象疾患の広がりや医療の高度化等に伴い、スタッフに求められる知識や技術も高まっているため、スタッフ個々のスキルアップはもちろん、中央リハビリテーション部全体として、各種疾患と障害への対応能力向上を目指しています。

## 2024年度スタッフ構成

### 中央リハビリテーション部長

石 田 祥 雄

### 主任理学療法士

猪 野 勝 ・ 小 柳 光 明

推 井 基 陽 ・ 磯 貝 美由紀

### 理学療法士

鈴 木 輝 未 ・ 小 松 広 樹

八 幡 恒 平 ・ 及 川 一 也

廣 瀬 孝 太 ・ 中 條 楓 佳

矢 部 達 也 ・ 猫 塚 龍之介

亀 井 朋 佳 ・ 向 ひより

田 中 紫 琉

### 主任作業療法士

吉 川 陽 ・ 加 納 祥 子

### 作業療法士

池 田 美 帆 ・ 中 川 茜 里

岩 井 紗 織 ・ 菊 地 裕 斗

山 田 毅

### 主任言語聴覚士

菅 野 栄 子

### 言語聴覚士

福 井 あ い ・ 平 山 聖 太

## 個人認定資格（2024年度）

呼吸療法認定士 4名

日本呼吸ケア・リハビリ学会呼吸ケア指導士 2名

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

日本医療リハビリドレンナー協会認定セラピスト

日本理学療法協会認定理学療法士（臨床教育）

日本糖尿病療養指導士

日本アロマ環境協会認定アロマセラピーアドバイザー

福祉住環境コーディネーター

# 中央放射線部

部長 浅野 淳一

## 2025年度の目標及び方針

中央放射線部は、放射線や磁場を発生する医療機器を用いて、診断に欠かせない画像の提供や高エネルギー放射線を使用したがん治療を行う部門です。

病院理念に基づき、患者に寄り添い信頼される医療の実践と、最新の知識と技術に基づいた医療を提供できるよう、日々まい進しております。

年度内に放射線情報システムの更新、3D医用画像処理装置、X線透視装置の更新を控え、準備を進めております。中でも、放射線情報システムの更新に併せて実装する医用画像モニター管理システムは、診断画像を表示する医用モニターの品質を最適に維持し、劣化による画像の見えづらさを防止する上で医療安全の確保に大きく貢献することが期待されます。道東地区における本システム導入は当院が初となり、運用事例を周知していきたいと思っております。

X線透視装置は年度後半の設置が予定されているが、逆行性膽管造影検査を多く施行する当院の特色に合わせ、高性能X線管球（長時間使用における耐久性や冷却性）を搭載した機種を選定し、こちらも遅滞なく準備を進めていく所存です。

昨年は機器選定、仕様書作成などをスタッフ中心に進め、経験していただくことができました。引き続き、導入に際し、主体的に取り組んでいただくことを期待します。また、長期的な視点を持ち、積極的に研修機会を提供することで若手育成を図り、部署内を活性化させることを今年度の重点目標としたいと思っております。

## 具体的な重点項目

1. 機器導入経験から主体性の強化
2. 研修機会の提供と若手育成
3. 機構労災ブロック間での連携強化

## 2024年度の実績

|           |         |
|-----------|---------|
| 一般撮影件数    | 31,170人 |
| ポータブル撮影件数 | 4,560人  |
| 乳房撮影件数    | 1,965人  |
| MRI件数     | 8,615人  |
| CT件数      | 16,720人 |
| 歯科用CT件数   | 1,100人  |
| 核医学検査件数   | 445人    |
| 透視検査件数    | 2,300人  |
| 血管造影件数    | 125人    |
| うち血管内治療件数 | 55人     |
| 骨密度測定件数   | 1,930人  |
| 放射線治療患者数  | 264人    |
| のべ放射線照射件数 | 3,450件  |

## 2024年度の評価

- ・機器等整備において機種選定と仕様書作成をスタッフ中心に進めることができた。
- ・告示研修受講が終了した。
- ・検診マンモグラフィ認定診療放射線技師が1名増加した。
- ・放射線治療部門が日本腫瘍学会認定施設に選ばれた。
- ・法的管理書類の再作成

Web研修、各種学会や研究会へ参加、各自で学術研鑽に励んでいるが、出席者が特定の一部に限られている印象がある。部署やモダリティで勉強会を企画するなど、課題解決に取り組みたい。

## 2024年度スタッフ構成

|                  |     |
|------------------|-----|
| 受付               | 1名  |
| 遠隔読影助手           | 1名  |
| 診療放射線技師          | 25名 |
| (男性技師19名、女性技師6名) |     |

## 取得認定資格

|                    |    |
|--------------------|----|
| 第一種放射線取扱主任者        | 4名 |
| 放射線治療専門技師          | 3名 |
| 放射線治療品質管理士         | 3名 |
| 医学物理士              | 2名 |
| 磁気共鳴専門技術者          | 1名 |
| X線CT認定技師           | 2名 |
| 画像等手術支援認定診療放射線技師   | 2名 |
| 救急撮影認定技師           | 1名 |
| 検診マンモグラフィ認定診療放射線技師 | 6名 |
| 医療情報技師             | 1名 |
| 医用画像情報専門技師         | 1名 |
| 臨床実習指導教員           | 1名 |

## 施設認定

日本放射線腫瘍学会認定施設  
(2025年4月1日～2028年3月31日)

## 特 色

業務内容としてX線撮影（乳房撮影や骨塩定量測定を含む）、X線透視検査、CT検査、MRI検査、3次元画像処理、核医学検査、放射線治療が挙げられます。

撮影業務や放射線治療だけではなく、機器管理、医療安全、近年では被ばく情報を一元管理し、安心かつ安全で最適な検査や治療の提供を目指しております。

## ■ 主な機器構成

|                      |    |
|----------------------|----|
| ・一般撮影（デジタル撮影装置）      | 4室 |
| ・骨密度測定               | 1室 |
| ・歯科パノラマ（歯科CT付）       | 1室 |
| ・乳腺撮影装置（トモシンセシス付）    | 1室 |
| ・フルデジタル透視装置          | 1室 |
| ・フルデジタル多目的透視装置       | 1室 |
| ・64列CT               | 1室 |
| ・80列CT               | 1室 |
| ・MRI（1.5T）           | 2室 |
| ・核医学検査用ガンマカメラ        | 1室 |
| ・アンギオ室（フルデジタルバイプレーン） | 1室 |
| ・リニアック               | 1室 |
| ・治療計画用CTシミュレータ       | 1室 |
| ・画像処理一体型ポータブル撮影装置    | 2台 |
| ・移動型外科用透視装置          | 3台 |



## 中央検査部

部長 石橋 芳 昭

### 2025年度の目標及び方針

#### 釧路労災病院中央検査部として…

勤労者医療・地域医療に対する貢献を念頭におき、患者様一人一人の社会復帰に向けたサポートのため迅速・精密・正確な検査結果の提供を使命と考えております。

#### 正確な検査データを…

内部や外部から行う精度管理のもと徹底したデータの管理、日々の酷使に対応している分析器への確実なメンテナンス、また経験の差から生じる結果の技師間差をなくすため担当技師達による議論や検討を行う、などの努力を継続することにより正確な結果へと繋がっていくと信じ絶え間なく日常を繰り返しております。

今年度は15年以上に渡り生化学免疫検査を支えてきた分析器がはいよいよ更新となります。

待ちに待った新しい分析器は精度や効率性の向上や様々なニーズへの対応が見込まれておりその活用や使用方法についてスタッフ間による検討が継続していくと思われま。その一方でサポートエンドとなった高機能超音波診断装置の更新を待ち望んでいる現状がありタスクシフトの言葉も実際の運用も様々な箇所定着稼働してきた昨今において医師からの様々なリクエストに対応すべく検査機器の整備にもしっかりと取り組んでいかなくてはと痛感しております。そして更に順番を待っている老朽化著しい分析器達が控えている現状に加え中央採血室で稼働中の自動採血管作成装置のBCロボも導入後11年が経過しております。新機種導入に向けご協力をお願いしたいところです。

#### これから…

タスクシフト・タスクシェアリングの研修プログラムが日本臨床衛生検査技師会により開始されてからスタッフ全員の資格取得を目指しております。Webでの基礎学習、対面での実施研修を受講できるよう病院からのバックアップを受けながら取得していきたいと考えております。また例年、依頼希望のある学校より臨地実習の学生を受け入れております。今年度は1名の実習生を受け入れるよう準備を進めているところです。実習指導検査技師の指導の元、学生はもとより、指導を行うスタッフも刺激を受け検査室内部の活性化にも繋がっているように感じております。

ここ数年続いている新規採用のおかげで部内の若返りが進んでいる中、今年度着任したばかりの私の思いではありますが勉強会開催や学会発表にも力を注ぎ若手技師の発表などの機会を整え成長を促したいと考え

ており、また若手に限らずスタッフ全員の現状維持に留まらない研鑽努力が診断治療を行う医師のもとへの確な情報提供となり勤労者や地域医療の充実、また患者に寄り添う医療へ繋がると信じて業務に臨みたいと考えております。

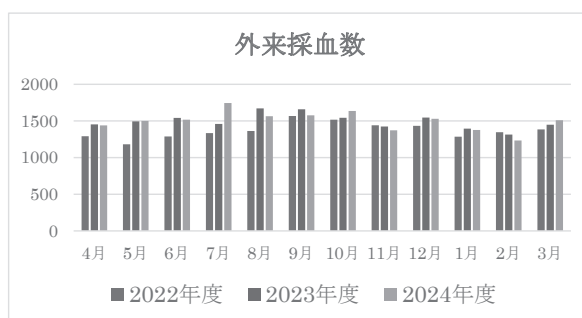
### 2025年度の具体的な重点項目

1. 外科からの乳腺エコー検査依頼への対応
2. サポートエンドとなっている超音波診断装置の更新
3. 生化学・免疫自動分析装置・検査システムの更新導入と安定稼働
4. タスクシフト（8業務）研修の受講を速やかに行う
5. 自動採血管作成装置の選定と導入効果の作成

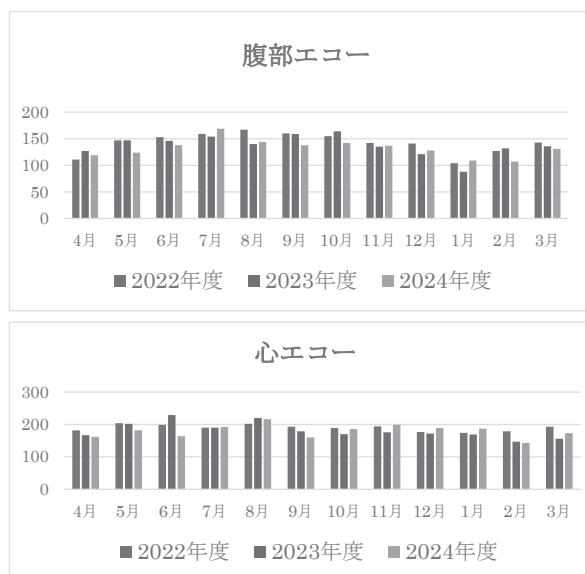
### 2024年度の評価

働き方改革に伴う医師、看護師のタスクシフティングに向け、超音波検査（腹部、乳腺）の対応技師の育成と共に測定機器の整備、採血室の検査技師の常時配置に向けた対応可能技師の育成を継続し実施して参りました。今後も状況の変化に対応しながら貢献できればと期待するところです。各種エコー検査の数においては横ばい、あるいは減少も認めており当日検査への対応を含め臨床の現場と調整のための検討など考えております。

### 令和6年度 検査実施料(対令和4年、令和5年度)と各種検査件数の推移



2022年に新型コロナが5類感染症に移行して人の流れが安定してきたと感じる3年間の推移は顕著な増減もなくほぼ横ばいの検査料収入と年間17000件程の採血数で推移しております。また、エコー検査も同様に直近3年間で見る限り目立った動きは示しておりません。今後も様々な状況に対応できるようしっかりと体制を整え他部門との協力を行いながら一層の件数増加に努めて参ります。



## 検査機器購入

令和6年度において新規や更新、増設などによる検査機器購入はありませんでした。

## 令和6年度中央検査部内勉強会

月1回を目途に開催され検査部スタッフは各自でテーマを決めて発表し日々の業務に対する情報や振り返りを行い研鑽に努めております。また同時にリスクマネージャーによるインシデント事例報告検討会も行われ原因究明や改善策など活発な意見交換により共通の見解の認識を行い再発防止に努めています。

## 内部精度管理について、生化学、血液、血液ガスは許容範囲内で良好な結果でした。

外部精度管理は

- ① 日臨技精度管理調査は、98.8%(100.0%中)と良好でした。
- ② 日本医師会臨床検査精度管理調査は、95.7点(100点満点中)と良好でした。

## 2025年度スタッフ構成

### 中央検査科部長

辻 本 和 代

### 中央検査部（臨床検査技師）部長

石 橋 芳 昭

### 中央検査部（臨床検査技師）主任

小笠原 由 佳 及 川 比佐子

中 村 明 代 伊 藤 あゆみ

下 重 浩 美 大 門 直 美

### 中央検査部（臨床検査技師）

下 重 龍 也 風 穴 澄 香

鈴 木 勝 俊 小 竹 美智子

今 野 里 南 高 畠 麻 衣

柳 谷 智恵美 川 向 清志郎

上 坂 美 月 森 田 愛 華

中 川 愛理沙 宮 脇 史 帆

三 林 加 奈 土 谷 ひかり

三 好 正 記 鳴 川 翔 吾

遊 佐 純 教（再雇用）

久 末 浩 樹（再雇用）

### 事務等補助員

佐 藤 小百合

## 認定資格

- ・日日本糖尿病療養指導士
- ・超音波検査士（健診、循環器、消化器、泌尿器、体表臓器、血管部門）
- ・第二種ME技術検定合格者
- ・細胞検査士（国際、国内）
- ・特定化学物質 四ア鉛等作業主任者
- ・有機溶剤作業主任者
- ・血管診療技師
- ・心電図認定技師
- ・日本臨床神経生理学会認定技術師（脳波分野）
- ・日本臨床神経生理学会認定技術師（筋電図、神経伝導分野）
- ・日本臨床神経生理学会認定技術師（術中脳脊髄モニタリング分野）



## 臨床工学部

部長(事) 佐々木 芳 浩

## ■ 2025年度の目標及び方針

部の理念として「臨床工学技士として、知識・技能の研鑽および資質の向上、生命維持管理装置をはじめとする医療機器の信頼性の向上に努め、患者様の安全に寄与することを目的とする」を掲げています。

基本方針としては以下の3つです。

1. 専門技術集団として、患者様へ質の高い医療サービスを提供するために、医師・看護師・他医療従事者と共に知識・技術・労力の向上に努めます。
2. 臨床工学技士の資格を活かす業務展開を基本とし、状況を把握し臨機応変に業務貢献します。
3. 常に問題提起し部内で議論を行い、賛同を得た上で決定事項には全員が従い業務を遂行します。

上記方針のもと、以下を目標として掲げています。

- ①自らの業務、職種に誇りが持てる臨床工学技士集団になる。
- ②医療機器管理を通じて、病院の経営に貢献する。
- ③個人の能力が各現場で発揮されるよう、満足度の高いチームにする。
- ④いかなる状況においてもチームワークを以て解決できる集団になる。
- ⑤他施設、他部門に対して積極鄭に交流を図り、視野の広い技士を目指す。
- ⑥臨床工学技士の地位・資質向上に努め、各分野において先駆的役割を果たす。

## ■ 2025年度の具体的な重点項目

「医療機器管理センター」は、院内の医療機器の総合窓口の役割を担う立場として、今後も医療機器を使用するすべての現場に対応できるよう体制を整えます。臨床工学技士の業務内容として「臨床技術提供」にウェイトがあるため、部内スタッフ同士の情報共有に重点をおき、日々の診療の補助および治療手技に支障をきたさぬよう努めます。「これしかできない」という技士ではなく、呼吸・循環・代謝およびそれに付随する業務すべてにおいて、スタッフ同士が円滑にサポートできる職場環境を構築します。タスク・シフティングに伴う法改正による業務展開を視野に、臨床へ必要な知識・技術の習得のために各種認定技士の取得を目指します。

## ◎医療機器管理業務

- ・医療機器管理センターにおける院内医療機器の保守管理
- ・医療機器に関わる情報提供（勉強会および資料提供）

## ◎臨床業務

## ①血液浄化センター

HD/HDF/IHDF/OHDFの操作および管理  
シャント管理（超音波画像診断装置の操作）

## ②高気圧酸素治療室

治療装置の操作および管理

## ③HCU/病棟ラウンド

人工呼吸器/医用テレメータ/その他医療機器/  
AED/除細動器の日常および使用中の点検

## ④消化器内視鏡センター

検査・処置介助、機器および材料管理

## ⑤中央手術室

各種手術に伴う装置介助および機器管理

## ⑥アフエレーシス業務

血漿交換/血漿吸着/血液吸着/CHDF/CART/  
PBSC 等

各診療科、各業務におけるマニュアルの再整備を行い効率よく職務に全うできる体制づくりを強化します。機器管理においては、トレーサビリティの実践により機器にかかる時間コストおよび修理コストの軽減を図るようにします。

院内の医療機器に関する総合窓口としての立場を関係各所に理解してもらい、無駄なコストを抑える体制を強化できるよう努めます。

## ■ 2024年度の実績(臨床工学技士独占業務のみ抜粋)

|                     |        |
|---------------------|--------|
| ・高気圧酸素治療法           | 365件   |
| ・血液浄化               |        |
| 1) 人工透析             | 5,037件 |
| 2) CART（腹水濾過濃縮再静注法） | 69件    |
| 3) PA（血漿吸着）         | 2件     |
| 4) PE（血漿交換）         | 63件    |
| 5) PBSC（末梢血幹細胞採取）   | 12件    |
| 6) GCAP（顆粒球除去療法）    | 25件    |
| 7) CHDF（持続的血液濾過透析）  | 14件    |
| ・医療機器管理センター         |        |
| 管理機器登録台数            | 3,466台 |
| 1) 貸 出              | 3,264件 |

|               |         |
|---------------|---------|
| 2) 返 却        | 3,198件  |
| 3) 点 検        | 26,301件 |
| 4) 修 理        | 635件    |
| 5) 人工呼吸器使用中点検 | 907件    |
| 6) AED使用後解析   | 15件     |

## 2024年度の評価

年度途中よりスタッフの補充があり、定員が9名となりました。2024年度は、縮小した業務をもとに戻すことを最優先としました。3名の採用者について短期業務ローテーションを実施し、いち早く全業務の技術取得を目指すべく教育を実施しました。昨年度に引き続き、関係各所との情報共有および一人ひとりの業務モチベーションを保つため、業務の効率化を継続しました。業務用LINE WORKSを活用することにより、個々の業務負担減少になるよう各業務及びスタッフ間の情報共有をより強固にしました。重点項目に挙げた認定取得については、第1種消化器内視鏡技師を1名取得することができました。HCU業務は、呼吸器および機器点検のほかに血液浄化等にも専従として対応することができました。ダ・ヴィンチ業務は、臨床立会い以外にもトラブル対応についても迅速に対応できました。現在の業務内容を継続しつつ、各業務帯に担当責任者を置くチーム制の導入に向け準備をしています。

## 2024年度スタッフ構成

部 長（兼：泌尿器科部長）

佐々木 芳 浩

主任臨床工学技士、医療機器安全管理責任者

廣 瀬 孝 則

臨床工学技士

櫻 庭 直 達

山 本 岳

長谷川 裕 樹

砂 田 七 海

中 尾 翔

角 田 柊 斗

松 本 剛 直

川 口 倅 生

取得認定資格

|                      |    |
|----------------------|----|
| 3学会合同呼吸療法認定士         | 2名 |
| 第1種消化器内視鏡技師          | 3名 |
| 臨床ME専門認定士            | 1名 |
| MDIC（医療機器情報コミュニケーター） | 1名 |
| 認定医療機器管理臨床工学技士       | 1名 |
| 透析技術認定士              | 1名 |
| 高気圧酸素治療専門技師          | 1名 |

|             |    |
|-------------|----|
| 特定高圧ガス取扱主任者 | 1名 |
| 特定化学物質作業主任者 | 1名 |

## 主な対象疾患

### 血液浄化室関連

- 糖尿病性糸球体腎硬化症/慢性糸球体腎炎/腎硬化症/多発性のう胞腎
- 2型糖尿病/IgA腎症 等

### 高気圧酸素治療関連

- 突発性難聴/CO中毒/閉塞性動脈硬化症/皮弁壊死/糖尿病性壊疽
- 脊髄梗塞/胸髄損傷/頸髄損傷/皮膚潰瘍/難治性潰瘍/放射線性潰瘍
- 化膿性脊椎炎/重症下肢虚血/左中指不全切断/網脈中心動脈閉塞症 等

### 血液浄化（人工透析を除く）関連

- 潰瘍性大腸炎/クローン病/TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）
- 原発性マクログロブリン血症/GBS（ギランバレー症候群）
- MS（多発性硬化症）/CIDP（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）
- 急性肝不全 等

### 手術室関連

- 消化器外科手術（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 泌尿器科領域（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 眼科（白内障手術）

## 特 色

スタッフ全員がどの業務にも従事できるような体制を確保しつつ、各診療科からのオーダーに即時対応しています。関わる業務は多岐にわたり、内科、外科、泌尿器科、神経内科、眼科、整形外科等の各診療科における臨床業務に関わり、診療の補助を行っています。各種認定を所有している技士を有し、専門性を生かし各領域に従事しています。医療機器に関する院内の総合窓口として、臨床における診療の補助および関わる医療機器の管理も含め、各診療科を横断的にサポートできる体制となっています。

# 薬剤部

部長 大 月 沢 雄

## 2025年度の目標及び方針

### 薬剤部理念

信頼に応える 薬剤部

### 基本方針

- ・自己研鑽に励み、薬の専門職として常に成長を心がけます
- ・友好的に対話し、院内や地域の医療従事者と連携します
- ・医療安全に配慮し、医薬品に関するリスクを低減するよう努めます

私たちは「信頼に応える薬剤部」を理念とし、薬剤師・薬剤助手が協力して様々な仕事に取り組んでいる。患者さんや院内外の医療従事者と信頼関係を築くためには、お互いを尊重して対話する必要がある。相手の立場への想像力や思いやり、相手に伝わるように自分の意見をきちんと述べる姿勢、たゆまぬ自己研鑽に裏打ちされた専門知識と経験。これらを大切にして患者さんと向き合い、チーム医療や地域連携に参画したい。また、医療安全において医薬品関連の事故やインシデントの割合が大きいことを常に意識し、専門職として医薬品のリスクを低減できる方策を考えて行動していく。

## 2025年度の具体的な重点項目

### 1. 病棟業務の充実

2021年度より、薬剤師の人員不足のために病棟薬剤業務の算定を中断している。現状では「1週間当たり1病棟20時間」の算定要件を満たすことは困難だが、チーム医療の推進のために、医師・看護師らと連携し、これまで以上に情報の共有と患者個々に合った処方提案及びポリファーマシー対策を強化していきたい。

### 2. 薬剤管理指導業務の充実

薬剤管理指導業務は、薬物の有効性と安全性の向上や経営面においても大変重要な業務であるが、昨年度の実施率が5割程度に留まっている。薬剤師の増員とセントラル業務の効率化・スリム化による病棟時間の確保に努め実施率向上を目指したい。

### 3. 化学療法センターにおける業務の充実

現在、化学療法センターには4名の薬剤師が常駐して、レジメン管理・確認及び抗がん剤調製を行っており、患者数の増加に伴い調製件数も増加している。また、がん患者の薬学的管理及び服薬指導を実践している。今年度も連携充実加算に係る研修会を2回行う計画である。今後は認定資格者を増やして

さらなる充実を図り、質・量ともに診療業務への貢献を目指したい。

### 4. 医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施するため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について全ての病院スタッフが安全対策を推進していくよう医薬品安全管理責任者を中心に薬剤部として働きかける。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも連携して、必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努めていきたい。

### 5. 後発医薬品及びバイオシミラーの導入促進と経営面での貢献

後発医薬品の数量割合は、90%以上をクリアするよう努めているが、年々増加する後発品に対して、積極的に導入しなければ維持が困難となる。年間購入金額の大きい品目を調査し、効率の良い導入を行いたい。診療報酬改定でバイオシミラー使用促進策の新たな目標値が示されたこともあり、今年度も積極的に経営面での貢献を行っていきたい。ただし、流通が不安定な後発品が多数あることから、必要在庫の確保や代替薬の採用にも注力する。

### 6. 治験体制の整備と実施

SMO（治験施設支援機関）の協力のもと治験体制の整備を行って治験を行っていたが、SMOのリソース不足から合併や撤退が進んでいるのが現状である。本年度も、SMOまたは機構本部治験ネットワークからの紹介案件を中心にその実施可能性を十分検討し、関係各位と協力して治験受託・実施に向け取り組んでいく。

### 7. 専門・認定薬剤師の育成

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果をあげられるよう、日頃から自己研鑽に励むとともに、各種専門・認定薬剤師の取得・更新をサポートできる部内の教育・研修体制を整備し支援していく。

### 8. 働きがいのある職場作りと人員確保

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し合えるような人間関係の構築に努めていく。そのためには、薬剤師の確保が必須である。2022年4月より薬剤師の奨学金制度が認められ、実際に奨学生を経た新人の採用につながった。今後も積極的な人員確保に取り組み、若手薬剤師の採用・育成に努めたい。



## 2024年度の評価

2024年度は1名の定年退職に対し2名の新卒採用があり、薬剤師18名（欠員数7名）と薬剤助手4名で業務を行った（年度途中で薬剤師の応募があり、10月に1名追加採用していただいた）。

医薬品の流通問題が継続し、1社の医薬品が供給不足になると同一成分の医薬品や類似薬効の医薬品まで軒並み「他社製品の影響」により出荷調整になる。また、院外薬局からも「処方された医薬品が入手できない」という問い合わせを多く受け、抗菌薬など複数の品目で院外処方を停止せざるを得ない事態になった。こうした状況の中で必要な在庫数確保、代替医薬品購入の交渉等を行い、院内の医薬品在庫金額の増加を指摘されながらも膨大な労力をかけて在庫管理を行った。

採用品目の後発品への切替えにより医薬品購入費削減を目指したが、一部では後発品の出荷調整や販売中止により先発品に戻さざるを得ないこともあった。数量ベースにおいては2024年度平均90.8%と前年より1.2%下がり、ギリギリで後発医薬品使用体制加算1の算定要件である90%以上を達成することができた。

教育・研修、研究面においては、薬学生4名の11週間にわたる実務実習を完遂することができた。その中の1名から奨学金希望の学生を得たことは薬剤部全体が良い雰囲気の中で丁寧な指導を心がけたことによる大きな成果であった。専門・認定薬剤師の育成については、栄養サポートチーム（NST）専門療養士1名が新たに増え、また複数の薬剤師が認定実務実習指導薬剤師や病院薬学認定薬剤師の資格取得に向け着実に取り組んでいる。さらに、各分野の担当者が自己研鑽に励むとともに院内・外の研修会の講師や学会発表を行い、他の医療スタッフや保険薬局薬剤師、さらには学校薬剤師として小学生を含む地域住民に対しても教育的な立場で積極的に活動することができた。

## 2024年度スタッフ構成

スタッフ：23名

[内訳]

- ・薬剤師 19名（嘱託1名含む）
- ・助手 4名

## 取得認定

- ・日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師 7名
- ・日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 4名
- ・日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師 7名
- ・日本病院薬剤師会 感染認定薬剤師 1名
- ・日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 3名
- ・日本栄養治療学会 NST専門療法士 3名
- ・日本医療情報学会 認定医療情報技師 1名

## 特色

薬剤部では病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務を展開し、全病棟に担当薬剤師を配置してチーム医療に積極的に関わっている。院内の医師、看護師、他のメディカルスタッフとも密に連携して薬の専門職としての職能を十分発揮している。また、感染認定、外来がん治療認定、緩和薬物療法認定、NST専門療養士、糖尿病療養指導士、医療情報技師など各種認定・専門資格を有した薬剤師がそれぞれの専門性を生かして活躍している。特に抗がん剤の調製件数は道内トップレベルで、がん治療及び緩和領域に貢献している。また、学会発表・講演会など積極的に取り組んでおり、日々自己研鑽に励んでいる。

## 看護部

看護部長 金森美香

### 2025年度の目標及び方針

#### 看護部理念

「人としての尊厳を守り、安全、安心、  
優しさのある看護を実践します」

#### 基本方針

1. 患者さんの権利を守り、その人らしさを大切に  
した看護を実践します。
2. 専門知識・技術を高め、科学的根拠に基づいた質  
の高い看護を実践します。
3. 全ての医療従事者と連携し、チーム医療に貢献  
します。
4. 働く人々の持てる力を支援し、健康づくりに貢献  
できる看護を実践します。

### 2025年度具体的な重点項目

#### 【私たちの目指す看護】

1. 地域連携を密に行い、円滑な入退院を支援し地  
域包括ケアシステムの推進に貢献します。
2. 高齢者看護の対する専門的知識を深め、尊厳や  
倫理等に配慮した適切な看護を提供します。
3. 看護に労働の視点を加え、勤労者看護・両立支  
援を推進します。

#### 【目標】

1. 患者の尊厳を重視した専門性の高い看護を提供  
する
2. 生産性のある職場環境づくり

### 2024年度評価

今年度は、患者さんの尊厳を重視した専門性の高い看護の提供を掲げ、様々な活動を展開してまいりました。その一つとして、5月1日よりHCU病棟を開設しました。これにより、手術後の患者さんのみならず、病棟や救急外来からの重症患者さんを日中・夜間問わず迅速に受け入れる体制が整い、病棟スタッフや各部署の看護師、医師との緊密な連携のもと、円滑な運営を実現することができました。

また、看護の質向上に向けた取り組みとして、教育・研修の充実を図りました。キャリアラダー委員会を中心に、日本看護協会のキャリアラダー改訂に合わせたレベル見直しと再認定を実施したほか、がん看護、緩和ケア、救急看護といった専門性の高い看護を提供するために必要な研修を企画し、実施いたしました。さらに、IVナース認定の推進や看護研究発表会の開催を通じ、看護師一人ひとりの専門性を高める活動を継

続しました。基礎的な知識の定着と日々の看護実践の振り返りを促すため、看護記録・看護過程に関する研修を実施し、事例検討会を行うなど、組織全体で看護の質の向上に努めてまいりました。

次に、生産性のある職場環境づくりに向けた取り組みについてです。看護部がベッドコントロールセンターとしての役割を担うことで、病床稼働率80%以上を維持することができました。緊急入院や転棟・転入時のスムーズな対応は、看護スタッフの努力の賜物であり、効率的な病床運用につながりました。業務の改善と効率化を図るため、業務委員会では各部署の業務内容を見直し、改善発表会を開催しました。生産性向上に向けた積極的な取り組みを進めることで、より働きやすい環境づくりを実践しております。加えて、看護スタッフの負担軽減を目指し、入院セット導入に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、令和7年度5月の導入開始に向けて準備を進めております。

このように、2024年度は患者さんへの質の高い看護の提供と、看護スタッフが働きやすい環境づくりに注力してまいりました。

次年度に向けては、団塊の世代が75歳以上となることで、高齢者人口の増加、労働力不足、そして医療・介護サービスの逼迫がより一層深刻化することが懸念されます。私たちの釧路地域においても、人口減少の影響を受け、これまで経験したことのない新たな課題への対応が求められる可能性があります。

このような状況を踏まえ、令和7年度も看護部全体でこれまで以上に協力し、互いに成長しながら、より質の高い看護を提供できるよう努めてまいります。

### 2024年度活動実績

#### 1. 就業状況

表1 看護部職員状況（2024年4月現在）

|     | 看護師     | 准看護師   | 看護補助者   | 合 計 |
|-----|---------|--------|---------|-----|
| 正 規 | 309     | 2      | 0       | 311 |
| 嘱 託 | 13(再雇6) | 2(再雇0) | 18(再雇0) | 33  |
| 合 計 | 322     | 4      | 18      | 344 |

表2 2024年度退職者数及び離職率

|       | 退 職 者 数<br>(内定年・転任) | 離 職 率 |
|-------|---------------------|-------|
| 正 規   | 37(5)               | 11.9% |
| (内新卒) | 2                   | 8.7%  |



## 2. 看護実習生の受け入れ

表3 看護実習生受け入れ実績

| 学 校 名        | 延べ人数  |
|--------------|-------|
| 釧路労災看護専門学校   | 1,926 |
| 釧路市医師会看護専門学校 | 12    |

## 3. 小中高校生・看護学生の職場体験受け入れ

表4 小中高校生・看護学生 職場体験受け入れ実績

| 学 校 名                       | 学年  | 人数     | 実施日            |
|-----------------------------|-----|--------|----------------|
| 横浜労災看護専門学校                  | 3年生 | 1      | 8月16日          |
| 北海道看護協会釧路支部<br>施設間交流（入退院支援） |     | 2      | 9月4日           |
| 北海道看護協会釧路支部<br>施設間交流（緩和ケア）  |     | 2<br>1 | 9月19日<br>9月26日 |
| 北海道看護協会釧路支部<br>高校生1日看護体験    |     | 16     | 9月27日          |
| 北海道看護協会釧路支部<br>施設間交流（入退院支援） |     | 2      | 10月2日          |
| 明輝高校                        | 1年生 | 5      | 10月10日         |
| 白糠学園                        | 8学年 | 3      | 10月11日         |
| 北海道看護協会釧路支部<br>施設間交流（緩和ケア）  |     | 2      | 10月17日         |
| 北嶺高等学校<br>（医師からの依頼で協力）      | 2年生 | 10     | 10月31日         |
| 釧路湖陵高校                      |     | 14     | 2月20日          |

## 4. 研修受講状況

表5 労働者健康安全機構 参加実績

| 研 修 名    | 人数 | 研 修 名                 | 人数 |
|----------|----|-----------------------|----|
| 中堅看護師研修  | 13 | 専任教員・臨地実習<br>指導者担当者研修 | 1  |
| 管理者研修Ⅰ   | 2  | 継続教育担当者研修             | 1  |
| 管理者研修Ⅱ   | 1  | 医療安全対策研修              | 1  |
| 管理者研修Ⅲ   | 1  | 臨床研修指導医講習会            | 2  |
| 管理職2年目研修 | 2  |                       |    |

表6 北海道看護協会等主催研修 参加実績

| 研 修 名                                     | 人数 | 研 修 名                                                | 人数 |
|-------------------------------------------|----|------------------------------------------------------|----|
| <看護研究シリーズ1>はじめよう看護研究                      | 2  | 論理的思考－論理的文書の作成                                       | 2  |
| 現場に活かせるリスクマネジメント～KYTでリスク感性を高めよう           | 1  | 看護管理のはじめの一步                                          | 2  |
| 認知症ケアの基本－認知症患者とのコミュニケーション－                | 2  | 実践に活かす摂食嚥下障害の看護～高齢者の「食」を考える～                         | 1  |
| 入退院支援の基礎知識                                | 4  | (日本看護協会eラーニングを活用した) 災害支援ナース養成研修会～                    | 2  |
| 糖尿病重症化予防(フットケア)研修会                        | 4  | 慢性腎臓病の病態とケア                                          | 1  |
| 事例で学ぼうがん看護～高齢がん患者の生活を支える看護～               | 1  | 保健師助産師看護師実習指導者講習会(北海道委託事業)                           | 2  |
| 看護倫理－看護で大切なことはなにか－                        | 1  | 看護師長研修－効果的な人材育成を行うためのスタッフとの関わり方を学ぶ！                  | 1  |
| フレイル予防の基本を学ぶ                              | 1  | 看護実践能力向上のための効果的な教育～リフレクションスキルを磨こう！                   | 1  |
| (日本看護協会eラーニングを活用した) 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 | 2  | <JNA収録DVD研修>認知症高齢者の看護実践に必要な知識                        | 1  |
| <北海道委託>看護職員認知症対応力向上(看護管理者向け)              | 1  | 「死にたい」と言われたときに－対象者のアセスメントとケア－                        | 1  |
| 事例で学ぼう！がん薬物療法を受ける患者の看護～基本から最新のがんゲノム医療まで～  | 2  | 今こそベテランナースの力を活かすとき！－これからの時代のリーダーシップ－                 | 1  |
| 最新!!現場で活かせるがん疼痛マネジメント                     | 1  | <サードレベル公開講座>社会システムと労務管理                              | 1  |
| <北海道委託>新人看護職員研修－研修責任者・教育担当者－              | 2  | <事業課>(Web 参加用)2024年度看護師職能委員会Ⅰ企画「外来における在宅療養支援に関する交流会」 | 1  |
| <北海道委託>新人看護職員研修－実地指導者－                    | 2  | 認定看護管理者教育課程ファーストレベル                                  | 3  |

## 5. 院外講師派遣実績

表7 院外講師等派遣実績

| 実施日    | 氏名    | 研修会名                                               | 依頼元・対象                                    |
|--------|-------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 7月24日  | 小野 紫穂 | ひとりごとじゃない乳がんの話し～乳がんを知れば怖くない～                       | 三ツ輪運輸株式会社 健康講話                            |
| 9月11日  | 馬場かおり | 標準予防策                                              | 医療法人豊慈会 釧路北病院                             |
| 9月14日  | 松浦 理沙 | ふれあい看護体験<br>「がん薬物療法看護認定看護師のしごと－化学療法センターでの仕事を紹介します－ | 公益社団法人北海道看護協会釧路支部                         |
| 10月3日  | 門脇 郁美 | がんと医療～支援体制の実際～                                     | Link of smiles                            |
| 10月26日 | 村山由佳子 | エプキンリ導入にあたっての取り組み<br>～チーム医療における看護師の役割～             | 道東地区血液疾患チーム医療セミナー                         |
| 11月15日 | 田口沙由里 | 非移植施設におけるLTFU外来の取り組み                               | 移行期医療・LTFU講演会 in Obihiro                  |
| 11月18日 | 内村 郁美 | がんと医療～支援体制の実際～                                     | ソシオゆるふわがんサロン<br>「患者力アップ」学習会               |
| 11月22日 | 佐藤 舞笑 | 釧路労災病院 排尿ケアチームの活動紹介                                | 高齢者疾患フォーラムin釧路                            |
| 11月30日 | 甲斐 節子 | 実践報告「介護職員等略痰吸引等研修の研修機関としての取り組み」                    | 難病対策地域協議会                                 |
| 12月16日 | 内村 郁美 | がんについて知ろう                                          | 釧路市立大楽毛小学校                                |
| 12月17日 | 内村 郁美 | がんについて知ろう                                          | 北海道釧路養護学校                                 |
| 1月15日  | 葛西さおり | 一般急性期病院の医療機能と入退院調整                                 | 地域看護連携推進事業<br>地域看護職員研修「入退院調整ルール」メンテナンス研修会 |
| 2月19日  | 内村 郁美 | 看護師ってどんな仕事？                                        | 釧路市立大楽毛小学校 キャリアカフェ                        |
| 2月23日  | 内村 郁美 | 北海道 釧路地域におけるがんに関する支援体制の実際と課題                       | 第39階日本がん看護学会学術集会<br>市民公開講座                |
| 3月3日   | 内村 郁美 | がんについて知ろう                                          | 厚岸町立厚岸小学校                                 |
| 3月14日  | 玉澤 麻美 | リエゾン・認知症ケアチームの役割                                   | 不眠症治療セミナー in 釧路                           |

表8 非常勤講師派遣実績

| 学科目・単元                                      | 講師名                        | 講義時間 | 学年 | 依頼校        |
|---------------------------------------------|----------------------------|------|----|------------|
| 医療倫理<br>老いと医学                               | 認知症看護認定看護師<br>玉澤 麻美        | 2    | 1年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 医療倫理<br>終末期医療                               | 緩和ケア認定看護師<br>神田 みゆき        | 4    | 1年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 感染症学<br>感染予防                                | 感染管理認定看護師<br>馬場 かおり        | 12   | 1年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 疾病と治療Ⅴ<br>女性生殖器系（乳腺）                        | 乳がん看護認定看護師<br>小野 紫穂        | 4    | 1年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 成人看護学援助論Ⅱ<br>（栄養・消化・代謝・排泄）排泄機能<br>障害をもつ人の看護 | 皮膚・排泄ケア認定看護師<br>皮膚排泄 佐藤 舞笑 | 10   | 1年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 看護と医療安全                                     | 医療安全管理者<br>武田 香苗           | 14   | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 労働と健康<br>治療と職業生活の両立支援の実際<br>（具体例）           | がん看護専門看護師<br>門脇 郁美         | 2    | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 健康状態の経過に基づく看護<br>（急性期看護）                    | 手術看護認定看護師<br>中田 沙織         | 12   | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 健康状態の経過に基づく看護<br>（終末期看護）                    | 緩和ケア認定看護師<br>佐伯 香奈         | 6    | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| がん看護（緩和ケア）                                  |                            | 8    | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| がん看護（放射線療法）                                 | がん放射線療法看護認定看護師<br>野呂 あゆみ   | 6    | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |
| 成人看護学援助論Ⅳ<br>生体防御機能・免疫機能障害をもつ<br>人の看護       | がん化学療法看護認定看護師<br>佐々木 祐美    | 10   | 2年 | 釧路労災看護専門学校 |

| 学科目・単元                          | 講師名                      | 講義時間 | 学年 | 依頼校          |
|---------------------------------|--------------------------|------|----|--------------|
| がん看護（がん看護）                      | がん看護専門看護師<br>門脇 郁美       | 6    | 2年 | 釧路労災看護専門学校   |
| がん看護<br>薬物療法と看護                 | がん化学療法看護認定看護師<br>村山 由佳子  | 8    | 2年 | 釧路労災看護専門学校   |
| 成人看護学援助論Ⅳ<br>性・生殖・乳腺子脳障害をもつ人の看護 | 乳がん看護認定看護師<br>小野 紫穂      | 4    | 2年 | 釧路労災看護専門学校   |
| 看護管理<br>看護実践マネジメント              | 認定看護管理者<br>金森 美香         | 10   | 3年 | 釧路労災看護専門学校   |
| 基礎看護学方法論Ⅰ<br>安全と感染予防            | 感染管理認定看護師<br>成田 美弥子      | 10   | 1年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 成人看護学方法論Ⅰ<br>慢性期（糖代謝）           | 看護師長補佐<br>計良 貴広          | 11   | 1年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 成人看護学方法論Ⅰ<br>透析療法の看護            | 透析看護認定看護師<br>伊藤 織恵       | 5    | 1年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 成人看護学方法論Ⅲ<br>周手術期（ストーマケア）       | 皮膚・排泄ケア認定看護師<br>中村 公子    | 4    | 2年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 老年看護学方法論Ⅱ<br>褥瘡・スキンケア           |                          | 4    | 1年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 成人看護学方法論Ⅳ<br>終末期                | がん看護専門看護師<br>門脇 郁美       | 10   | 2年 | 釧路市医師会看護専門学校 |
| 病態治療学Ⅴ<br>治療法概説（麻酔・放射線）         | がん放射線療法看護認定看護師<br>野呂 あゆみ | 5    | 2年 | 釧路市医師会看護専門学校 |

## 7. 看護研究発表

### 1) 院外発表

| 学会名・研修会等名              | 発表日       | 開催地 | 演題名                           | 演者及び共同演者     |
|------------------------|-----------|-----|-------------------------------|--------------|
| 第22回ア道東画像診断・治療ケア研究会    | 2024/6/22 | 釧路市 | 緊急脳血管内治療介助の自立に向けた取り組み         | ◎野呂あゆみ、齊藤聡子  |
| 令和6年度北海道HIV/AIDS医療者研修会 | 2024/6/29 | 札幌市 | 終末期のパートナーをもつHIV感染症患者の関わりの実際   | ◎岡本千里        |
| 道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会  | 2024/7/6  | 釧路市 | 挙児希望のあるHIV陽性患者への関わり           | ◎浦野睦美        |
| 第39回日本環境感染学会総会・学術集会    | 2024/7/27 | 京都市 | コロナ病床の移転の取り組み～感染対策の教育に視点を当てて～ | ◎馬場かおり、成田美弥子 |

### 2) 院内研究発表会

開催日：令和7年3月7日

| テーマ                                  | 演者及び共同演者                                                     |
|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| A病院B病棟における看護師のストレスの要因の実態調査           | 5階西病棟<br>◎野澤 美佳、近内 恵梨<br>小甲玲美奈、川島 珠愛<br>田口 理乃                |
| 非移植施設における造血幹細胞移植後看護に対する知識の実態調査       | 5階東病棟<br>◎熊谷万里恵、小林あゆ美<br>藤枝 杏沙、板谷 風香<br>田口沙由里                |
| 地域包括ケア病棟における退院調整が困難な要因の調査            | 8階西病棟<br>◎大西 沙弥、青木 悠莉<br>森川 亮、石山 元太                          |
| 手術中における器械出し看護師のストレスに対する1/fゆらぎ音の効果の検証 | 中央手術室<br>◎穴澤 可奈、佐貫 沙耶<br>寺嶋 和希、恩田あゆみ<br>窪木さおり、山内 直美<br>神田 有輝 |

## III. 医療統計

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 患者数の推移（入院・外来）              | 57 |
| 診療科別入院患者数の推移               | 58 |
| 診療科別外来患者数（令和6年度）           | 59 |
| 診療科別入院単価の推移                | 60 |
| 診療科別外来単価の推移                | 60 |
| 紹介率・逆紹介率の推移                | 61 |
| 病床利用率の推移                   | 61 |
| 平均在院日数の推移                  | 62 |
| 時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移        | 63 |
| 救急車受入件数（総数と1日平均）           | 64 |
| 手術件数の推移（手術室内）              | 64 |
| 全身麻酔件数の推移                  | 65 |
| 化学療法件数の推移（入院・外来）           | 65 |
| 透析件数の推移（入院・外来）             | 66 |
| 内視鏡件数の推移（上部・下部）            | 66 |
| 放射線治療件数の推移                 | 67 |
| 解剖件数の推移                    | 67 |
| 2023年度後発医薬品指数              | 68 |
| D P C 14桁 診断群分類上位頻度表(全科共通) | 68 |
| D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表   | 69 |
| K c o d e 診療科別上位頻度表        | 72 |





## 患者数の推移（入院・外来）

| 入院 | 年度別          | 単位 | 令和2年度   | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   |
|----|--------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
|    | 承認病床数(床)     |    | 450     | 450     | 433     | 433     | 391     |
|    | 稼働病床数(床)     |    | 450     | 450     | 433     | 408     | 390     |
|    | 入院患者延数(人)    |    | 119,593 | 118,644 | 116,503 | 114,859 | 119,816 |
|    | 1日平均患者数(人)   |    | 328     | 325     | 319     | 314     | 328     |
|    | 新入院患者数(人)    |    | 8,774   | 8,821   | 8,635   | 8,714   | 8,482   |
|    | 退院患者数(人)     |    | 8,737   | 8,851   | 8,666   | 8,696   | 8,479   |
|    | 病床利用率(%)     |    | 72.9    | 72.2    | 73.7    | 76.9    | 84.2    |
|    | 平均在院日数(日)    |    | 14.0    | 13.7    | 13.9    | 13.6    | 14.5    |
|    | 病床回転数(回)     |    | 19.0    | 19.2    | 19.4    | 20.7    | 21.2    |
|    | 1人1日当単価(円)   |    | 57,342  | 57,904  | 59,642  | 62,813  | 62,774  |
|    | 診療実日数(日)     |    | 365     | 365     | 365     | 366     | 365     |
|    | 院内死亡患者数(人)   |    | 345     | 332     | 402     | 431     | 460     |
|    | 院内死亡率(%)     |    | 3.9     | 3.8     | 4.6     | 5.0     | 5.4     |
|    | 解剖検体数(件)     |    | 4       | 2       | 5       | 1       | 2       |
|    | 剖検率(%)       |    | 1.2     | 0.6     | 1.2     | 0.2     | 0.4     |
|    | 労災患者延数(人)    |    | 2,901   | 2,827   | 3,185   | 3,289   | 3,755   |
|    | 労災患者比率(%)    |    | 2.4     | 2.4     | 2.7     | 2.9     | 3.1     |
|    | 時間外新入院患者数(人) |    | 1,158   | 1,141   | 1,135   | 1,097   | 1,222   |

| 外来 | 年度別         | 単位 | 令和2年度   | 令和3年度   | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   |
|----|-------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|
|    | 外来患者延数(人)   |    | 242,280 | 240,748 | 237,627 | 229,871 | 229,972 |
|    | 1日平均患者数(人)  |    | 997     | 995     | 978     | 946     | 946     |
|    | 新外来患者数(人)   |    | 14,248  | 14,089  | 13,861  | 12,935  | 13,238  |
|    | 新外来患者率(%)   |    | 5.9     | 5.9     | 5.8     | 5.6     | 5.8     |
|    | 平均通院回数(回)   |    | 17.0    | 17.1    | 17.1    | 17.8    | 17.4    |
|    | 1人1日当単価(円)  |    | 16,609  | 18,054  | 19,222  | 20,399  | 20,195  |
|    | 診療実日数(日)    |    | 243     | 242     | 243     | 243     | 243     |
|    | 入院中外来併診数(人) |    | 49,536  | 45,133  | 43,109  | 39,995  | 40,237  |
|    | 労災患者延数(人)   |    | 17,204  | 20,053  | 19,756  | 20,874  | 22,693  |
|    | 労災患者比率(%)   |    | 7.1     | 8.3     | 8.3     | 9.1     | 9.9     |
|    | 時間外外来患者数(人) |    | 3,210   | 3,308   | 3,505   | 3,373   | 3,538   |

# 診療科別入院患者数の推移

(単位：人)

|                   | 4 年 度   |       |        |      | 5 年 度   |       |        |      | 6 年 度   |       |        |      |
|-------------------|---------|-------|--------|------|---------|-------|--------|------|---------|-------|--------|------|
|                   | 入院患者数   |       | 新入院患者数 |      | 入院患者数   |       | 新入院患者数 |      | 入院患者数   |       | 新入院患者数 |      |
|                   | 延数      | 1日平均  | 延数     | 1日平均 | 延数      | 1日平均  | 延数     | 1日平均 | 延数      | 1日平均  | 延数     | 1日平均 |
| 内 科               | 51,795  | 141.9 | 4,367  | 12.0 | 50,098  | 136.9 | 4,386  | 12.0 | 52,582  | 144.1 | 4,044  | 11.1 |
| 神 経 内 科           | 7,073   | 19.4  | 257    | 0.7  | 7,265   | 19.8  | 261    | 0.7  | 8,838   | 24.2  | 298    | 0.8  |
| 循 環 器 内 科         | 25      | 0.1   | 3      | 0.0  | 8       | 0.0   | 1      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 小 児 科             | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 外 科               | 13,323  | 36.5  | 1,033  | 2.8  | 12,143  | 33.2  | 998    | 2.7  | 11,350  | 31.1  | 918    | 2.5  |
| 整 形 外 科           | 19,880  | 54.5  | 792    | 2.2  | 21,350  | 58.3  | 903    | 2.5  | 21,818  | 59.8  | 983    | 2.7  |
| 形 成 外 科           | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 1       | 0.0   | 1      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 脳 神 経 外 科         | 15,498  | 42.5  | 711    | 1.9  | 15,356  | 42.0  | 616    | 1.7  | 15,434  | 42.3  | 536    | 1.5  |
| 皮 膚 科             | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 泌 尿 器 科           | 3,766   | 10.3  | 523    | 1.4  | 3,899   | 10.7  | 502    | 1.4  | 4,268   | 11.7  | 494    | 1.4  |
| 産 婦 人 科           | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 眼 科               | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 105     | 0.3   | 106    | 0.3  | 216     | 0.6   | 162    | 0.4  |
| 耳 鼻 咽 喉 科         | 3,561   | 9.8   | 463    | 1.3  | 2,909   | 7.9   | 444    | 1.2  | 3,232   | 8.9   | 459    | 1.3  |
| リ ハ 科             | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 放 射 線 科           | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 麻 酔 科             | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  | 0       | 0.0   | 0      | 0.0  |
| 歯 科 口 腔 外 科       | 1,582   | 4.3   | 486    | 1.3  | 1,725   | 4.7   | 496    | 1.4  | 2,078   | 5.7   | 588    | 1.6  |
| 合 計               | 116,503 | 319.2 | 8,635  | 23.7 | 114,859 | 313.8 | 8,714  | 23.8 | 119,816 | 328.3 | 8,482  | 23.2 |
| 労 災 患 者 数<br>(再掲) | 3,185   | 8.7   | -      | -    | 3,289   | 9.0   | -      | -    | 3,755   | 10.3  | -      | -    |

## 診療科別外来患者数（令和6年度）

（単位：人）

|             | 新 患    | 再 来     | 合 計     | 一 日 平 均 患 者 数 |       |       |
|-------------|--------|---------|---------|---------------|-------|-------|
|             |        |         |         | 新 患           | 再 来   | 合 計   |
| 内 科         | 2,695  | 51,210  | 53,905  | 11.1          | 210.7 | 221.8 |
| 精 神 科       | 0      | 40      | 40      | 0.0           | 0.2   | 0.2   |
| 神 経 内 科     | 569    | 8,396   | 8,965   | 2.3           | 34.6  | 36.9  |
| 循 環 器 内 科   | 342    | 2,626   | 2,968   | 1.4           | 10.8  | 12.2  |
| 小 児 科       | 0      | 0       | 0       | 0.0           | 0.0   | 0.0   |
| 外 科         | 906    | 10,707  | 11,613  | 3.7           | 44.1  | 47.8  |
| 整 形 外 科     | 1,663  | 32,798  | 34,461  | 6.8           | 135.0 | 141.8 |
| 形 成 外 科     | 139    | 882     | 1,021   | 0.6           | 3.6   | 4.2   |
| 脳 神 経 外 科   | 1,056  | 14,356  | 15,412  | 4.3           | 59.1  | 63.4  |
| 皮 膚 科       | 33     | 37      | 70      | 0.1           | 0.2   | 0.3   |
| 泌 尿 器 科     | 469    | 16,703  | 17,172  | 1.9           | 68.7  | 70.7  |
| 産 婦 人 科     | 27     | 236     | 263     | 0.1           | 1.0   | 1.1   |
| 眼 科         | 258    | 5,922   | 6,180   | 1.1           | 24.4  | 25.4  |
| 耳 鼻 咽 喉 科   | 1,014  | 10,030  | 11,044  | 4.2           | 41.3  | 45.4  |
| リ ハ 科       | 849    | 50,109  | 50,958  | 3.5           | 206.2 | 209.7 |
| 放 射 線 科     | 171    | 3,703   | 3,874   | 0.7           | 15.2  | 15.9  |
| 麻 酔 科       | 4      | 73      | 77      | 0.0           | 0.3   | 0.3   |
| 歯 科 口 腔 外 科 | 2,615  | 8,891   | 11,506  | 10.8          | 36.6  | 47.3  |
| 医 療 相 談 科   | 428    | 15      | 443     | 1.8           | 0.1   | 1.8   |
| 合 計         | 13,238 | 216,734 | 229,972 | 54.5          | 891.9 | 946.4 |
| 労災患者数（再掲）   | -      | -       | 22,693  | -             | -     | 93.4  |

## 診療科別入院単価の推移

(単位：円)

|             | 2年度    | 3年度     | 4年度    | 5年度     | 6年度     |
|-------------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 内 科         | 57,516 | 59,403  | 61,051 | 66,274  | 65,101  |
| 精 神 科       | －      | －       | －      | －       | －       |
| 神 経 内 科     | 41,103 | 39,572  | 42,081 | 42,145  | 45,843  |
| 循 環 器 内 科   | －      | －       | －      | 125,796 | －       |
| 小 児 科       | －      | －       | －      | －       | －       |
| 外 科         | 73,961 | 72,547  | 77,086 | 79,860  | 85,684  |
| 整 形 外 科     | 53,255 | 54,596  | 53,226 | 54,806  | 56,024  |
| 形 成 外 科     | －      | －       | －      | 168,349 | －       |
| 脳 神 経 外 科   | 53,370 | 52,180  | 53,266 | 54,394  | 50,285  |
| 皮 膚 科       | －      | －       | －      | －       | －       |
| 泌 尿 器 科     | 60,334 | 63,751  | 67,769 | 66,932  | 73,163  |
| 産 婦 人 科     | －      | －       | －      | －       | －       |
| 眼 科         | 99,460 | 106,089 | －      | 209,454 | 166,808 |
| 耳 鼻 咽 喉 科   | 53,058 | 52,471  | 54,299 | 64,587  | 64,090  |
| リ ハ 科       | －      | －       | －      | －       | －       |
| 放 射 線 科     | －      | －       | －      | －       | －       |
| 麻 酔 科       | －      | －       | －      | －       | －       |
| 歯 科 口 腔 外 科 | 70,298 | 77,249  | 79,965 | 81,771  | 80,205  |
| 医 療 相 談 科   | －      | －       | －      | －       | －       |
| 合 計         | 57,342 | 57,904  | 59,642 | 62,813  | 62,774  |

## 診療科別外来単価の推移

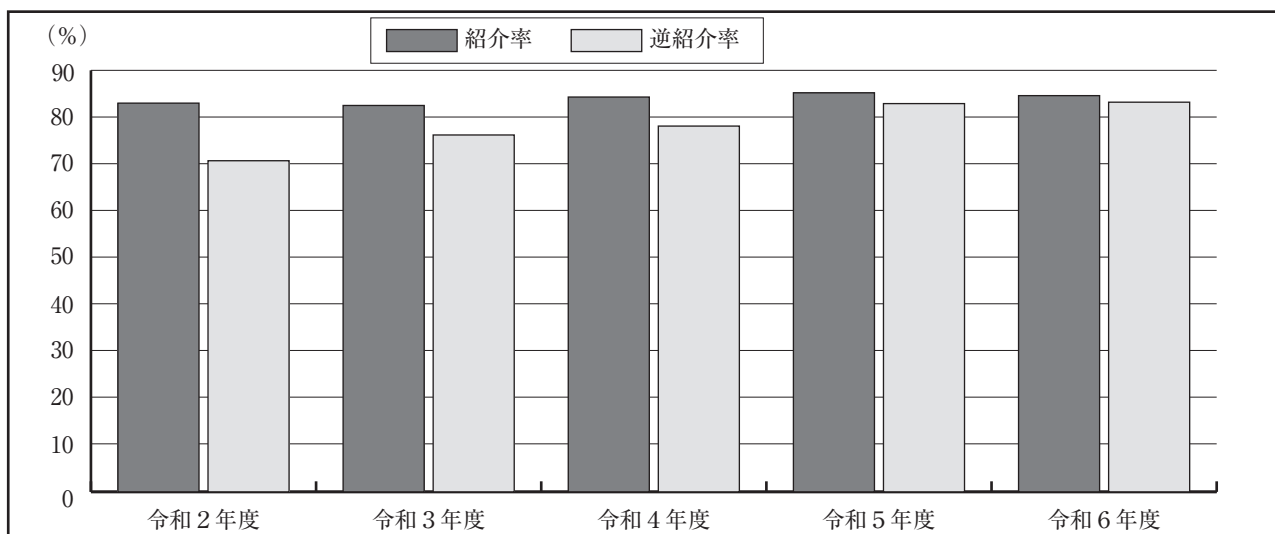
(単位：円)

|             | 2年度    | 3年度    | 4年度    | 5年度    | 6年度    |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 内 科         | 40,854 | 44,876 | 46,683 | 49,491 | 49,152 |
| 精 神 科       | 4,937  | 4,889  | 4,776  | 3,414  | 1,672  |
| 神 経 内 科     | 12,292 | 16,766 | 23,816 | 29,383 | 32,772 |
| 循 環 器 内 科   | 6,856  | 6,953  | 6,985  | 6,854  | 6,823  |
| 小 児 科       | －      | －      | －      | －      | －      |
| 外 科         | 20,062 | 21,869 | 22,614 | 25,507 | 27,344 |
| 整 形 外 科     | 8,077  | 8,258  | 8,312  | 8,511  | 8,738  |
| 形 成 外 科     | 5,096  | 5,466  | 7,012  | 6,354  | 6,528  |
| 脳 神 経 外 科   | 8,206  | 8,145  | 8,693  | 8,726  | 8,993  |
| 皮 膚 科       | 5,044  | 3,758  | 3,322  | 4,039  | 2,378  |
| 泌 尿 器 科     | 20,236 | 21,739 | 22,293 | 23,960 | 26,242 |
| 産 婦 人 科     | 5,834  | 5,803  | 5,189  | 4,741  | 5,106  |
| 眼 科         | 7,558  | 8,138  | 4,789  | 7,036  | 7,517  |
| 耳 鼻 咽 喉 科   | 7,260  | 7,514  | 7,508  | 7,864  | 7,884  |
| リ ハ 科       | 3,322  | 3,033  | 3,101  | 3,040  | 2,741  |
| 放 射 線 科     | 18,153 | 19,141 | 20,224 | 22,142 | 22,359 |
| 麻 酔 科       | 7,554  | 6,068  | 5,087  | 3,356  | 1,338  |
| 歯 科 口 腔 外 科 | 7,124  | 7,453  | 7,268  | 7,379  | 7,663  |
| 医 療 相 談 科   | 35,829 | 36,845 | 35,787 | 35,868 | 36,907 |
| 合 計         | 16,609 | 18,054 | 19,222 | 20,399 | 20,195 |

## 紹介率・逆紹介率の推移

(単位：%)

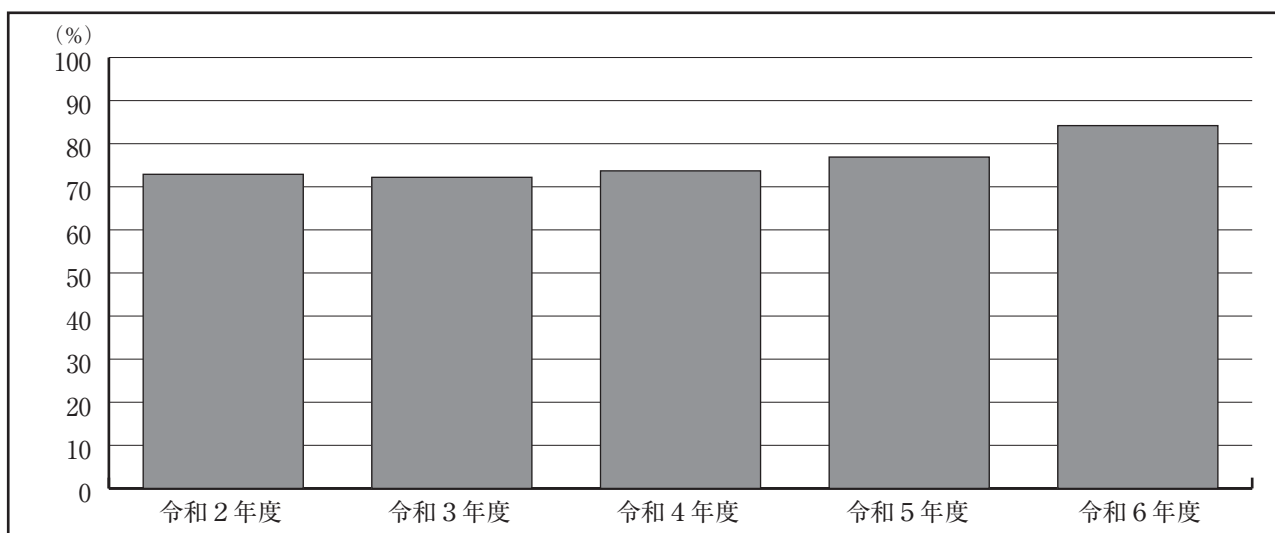
|      | 2年度  | 3年度  | 4年度  | 5年度  | 6年度  |
|------|------|------|------|------|------|
| 紹介率  | 83.0 | 82.5 | 84.3 | 85.2 | 84.6 |
| 逆紹介率 | 70.7 | 76.2 | 78.1 | 82.9 | 83.2 |



## 病床利用率の推移

(単位：%)

|       | 2年度  | 3年度  | 4年度  | 5年度  | 6年度  |
|-------|------|------|------|------|------|
| 病床利用率 | 72.9 | 72.2 | 73.7 | 76.9 | 84.2 |





## 平均在院日数の推移

(単位：日)

|        | 2年度  | 3年度  | 4年度  | 5年度  | 6年度  |
|--------|------|------|------|------|------|
| 内科     | 11.9 | 11.8 | 12.3 | 11.9 | 13.3 |
| 神経内科   | 27.0 | 31.1 | 28.0 | 29.4 | 30.8 |
| 循環器内科  | 0.0  | 0.0  | 8.3  | 8.0  | 0.0  |
| 小児科    | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 外科     | 14.1 | 14.3 | 13.7 | 12.9 | 13.2 |
| 整形外科   | 25.7 | 23.0 | 25.7 | 24.2 | 22.6 |
| 形成外科   | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 1.0  | 0.0  |
| 脳神経外科  | 22.0 | 23.1 | 22.4 | 26.0 | 29.2 |
| 皮膚科    | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 泌尿器科   | 9.3  | 8.1  | 7.4  | 7.9  | 8.7  |
| 産婦人科   | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 眼科     | 4.0  | 3.8  | 0.0  | 1.0  | 1.3  |
| 耳鼻咽喉科  | 7.0  | 8.3  | 7.7  | 6.6  | 7.1  |
| リハ科    | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 放射線科   | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 麻酔科    | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 歯科口腔外科 | 3.8  | 3.2  | 3.2  | 3.5  | 3.5  |
| 医療相談科  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| 合計     | 14.0 | 13.7 | 13.9 | 13.6 | 14.5 |

## 時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移

(単位:人)

| 総数     | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 内科     | 1,126 | 1,413 | 1,576 | 1,455 | 1,489 |
| 精神科    | 4     | 1     | 0     | 1     | 0     |
| 神経内科   | 55    | 38    | 61    | 68    | 74    |
| 循環器内科  | 1     | 7     | 0     | 1     | 3     |
| 小児科    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 外科     | 286   | 311   | 352   | 283   | 286   |
| 整形外科   | 680   | 633   | 644   | 677   | 705   |
| 形成外科   | 48    | 3     | 2     | 2     | 0     |
| 脳神経外科  | 606   | 568   | 507   | 517   | 539   |
| 皮膚科    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 泌尿器科   | 140   | 131   | 154   | 132   | 157   |
| 産婦人科   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 眼科     | 61    | 37    | 0     | 37    | 41    |
| 耳鼻咽喉科  | 166   | 145   | 186   | 168   | 194   |
| リハ科    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 放射線科   | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 麻酔科    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 歯科口腔外科 | 37    | 21    | 23    | 32    | 50    |
| 医療相談科  | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
| 合計     | 3,210 | 3,308 | 3,505 | 3,373 | 3,538 |

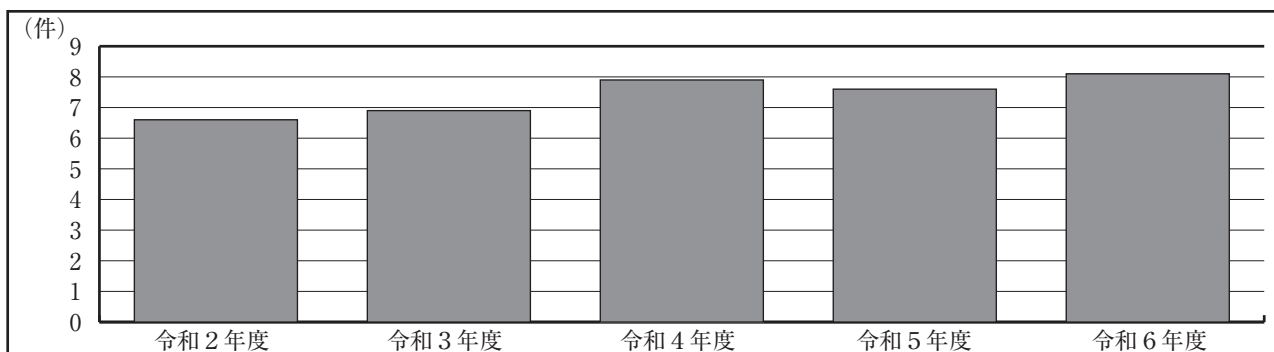
(単位:人)

| 1日平均   | 2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 内科     | 3.1 | 3.9 | 4.3 | 4.0 | 4.1 |
| 精神科    | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 神経内科   | 0.2 | 0.1 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| 循環器内科  | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 小児科    | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 外科     | 0.8 | 0.9 | 1.0 | 0.8 | 0.8 |
| 整形外科   | 1.9 | 1.7 | 1.8 | 1.8 | 1.9 |
| 形成外科   | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 脳神経外科  | 1.7 | 1.6 | 1.4 | 1.4 | 1.5 |
| 皮膚科    | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 泌尿器科   | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | 0.4 |
| 産婦人科   | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 眼科     | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.1 | 0.1 |
| 耳鼻咽喉科  | 0.5 | 0.4 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| リハ科    | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 放射線科   | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 麻酔科    | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 歯科口腔外科 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | 0.1 |
| 医療相談科  | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計     | 8.8 | 9.1 | 9.6 | 9.2 | 9.7 |

## 救急車受入件数（総数と1日平均）

（単位：件）

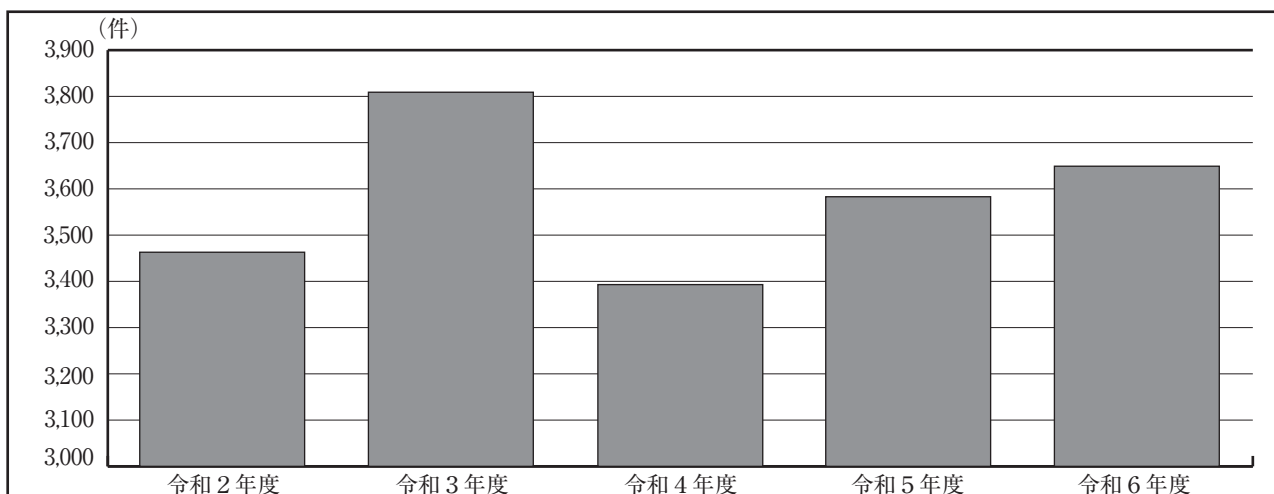
|      | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総数   | 2,401 | 2,515 | 2,888 | 2,766 | 2,956 |
| 1日平均 | 6.6   | 6.9   | 7.9   | 7.6   | 8.1   |



## 手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

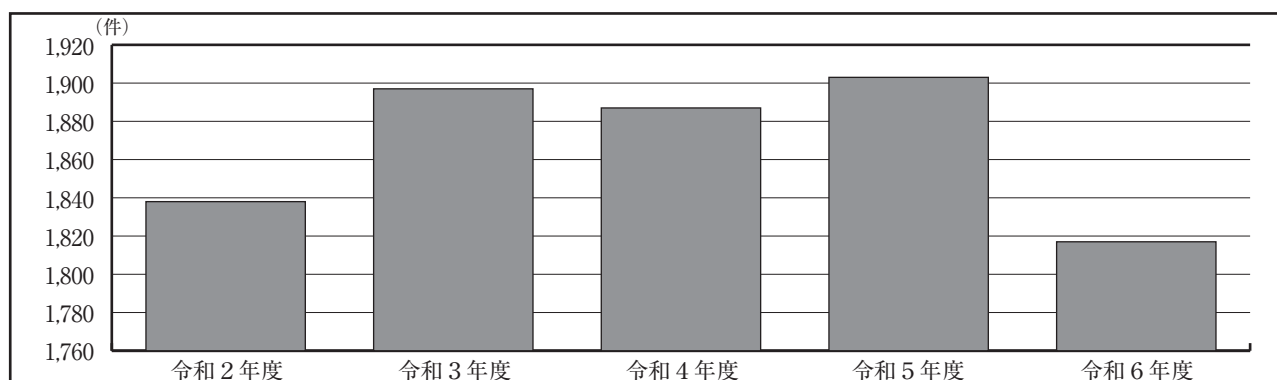
|        | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 内科     | -     | -     | -     | -     | -     |
| 外科     | 867   | 822   | 887   | 871   | 804   |
| 整形外科   | 733   | 726   | 648   | 759   | 784   |
| 形成外科   | 27    | 46    | 59    | 36    | 54    |
| 脳神経外科  | 352   | 343   | 302   | 313   | 225   |
| 心臓血管外科 | -     | -     | -     | -     | -     |
| 皮膚科    | -     | -     | -     | -     | -     |
| 泌尿器科   | 307   | 317   | 352   | 328   | 304   |
| 産科     | -     | -     | -     | -     | -     |
| 婦人科    | -     | -     | -     | -     | -     |
| 眼科     | 195   | 322   | -     | 103   | 155   |
| 耳鼻咽喉科  | 177   | 265   | 215   | 258   | 248   |
| リハ科    | -     | -     | -     | -     | -     |
| 歯科口腔外科 | 804   | 968   | 930   | 915   | 1,074 |
| 神経内科   | 1     | -     | -     | -     | 1     |
| 合計     | 3,463 | 3,809 | 3,393 | 3,583 | 3,649 |



## 全身麻酔件数の推移

(単位：件)

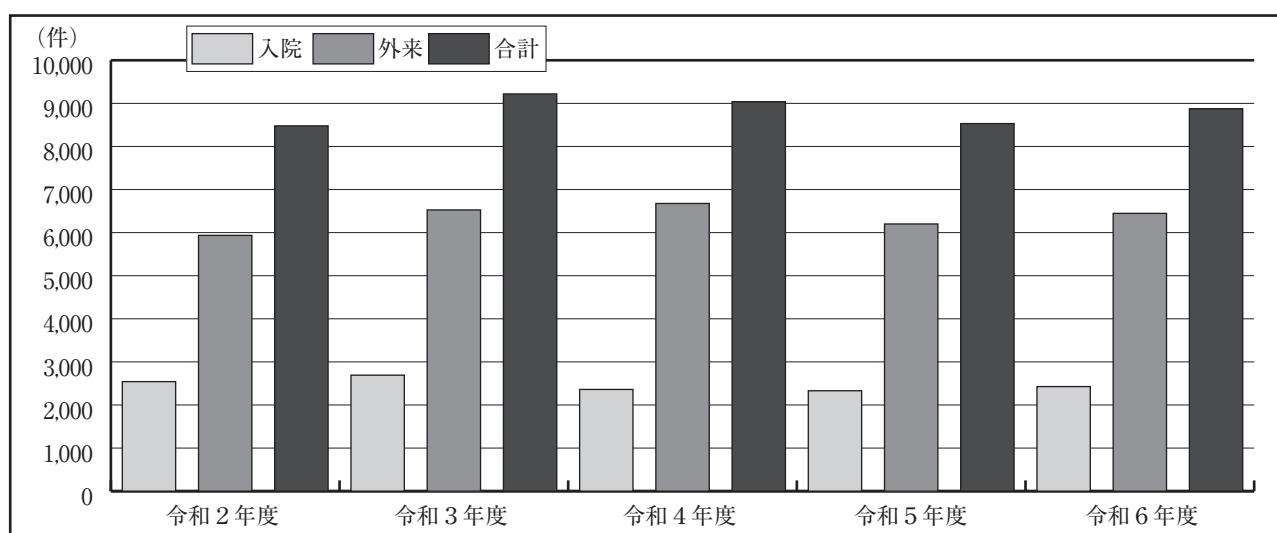
|        | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全身麻酔件数 | 1,838 | 1,897 | 1,887 | 1,903 | 1,817 |



## 化学療法件数の推移（入院・外来）

(単位：件)

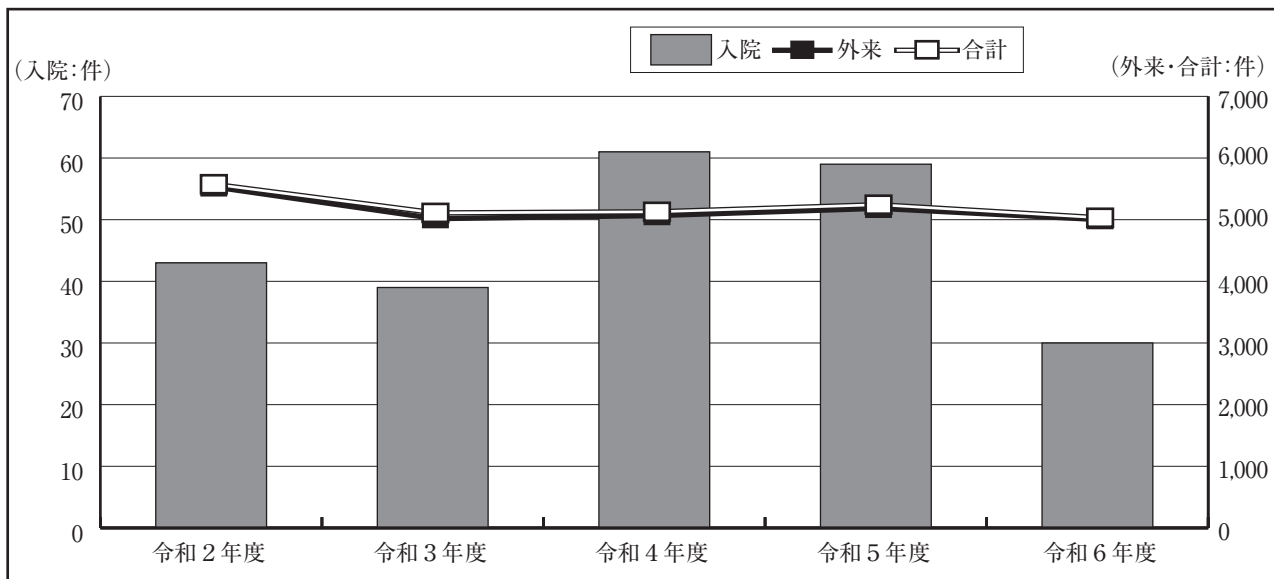
|    | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入院 | 2,542 | 2,692 | 2,361 | 2,330 | 2,427 |
| 外来 | 5,936 | 6,527 | 6,677 | 6,201 | 6,447 |
| 合計 | 8,478 | 9,219 | 9,038 | 8,531 | 8,874 |



## 透析件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

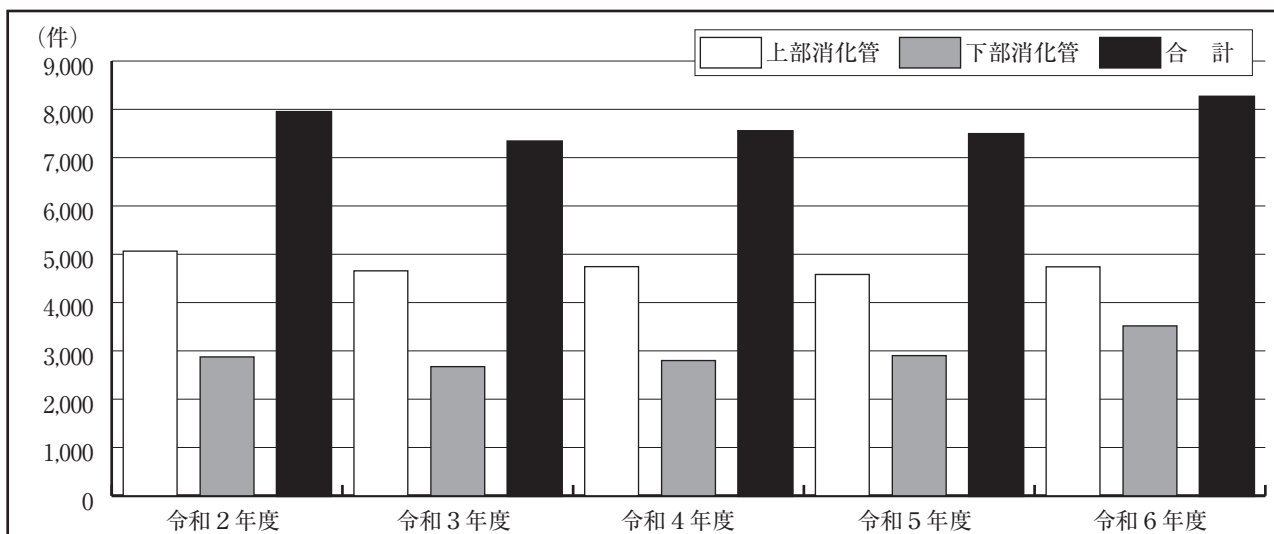
|     | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 入 院 | 43    | 39    | 61    | 59    | 30    |
| 外 来 | 5,532 | 5,071 | 5,067 | 5,184 | 5,001 |
| 合 計 | 5,575 | 5,110 | 5,128 | 5,243 | 5,031 |



## 内視鏡件数の推移（上部・下部）

（単位：件）

|           | 2年度   | 3年度   | 4年度   | 5年度   | 6年度   |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 上 部 消 化 管 | 5,065 | 4,657 | 4,744 | 4,582 | 4,740 |
| 下 部 消 化 管 | 2,875 | 2,674 | 2,800 | 2,902 | 3,517 |
| 合 計       | 7,940 | 7,331 | 7,544 | 7,484 | 8,257 |

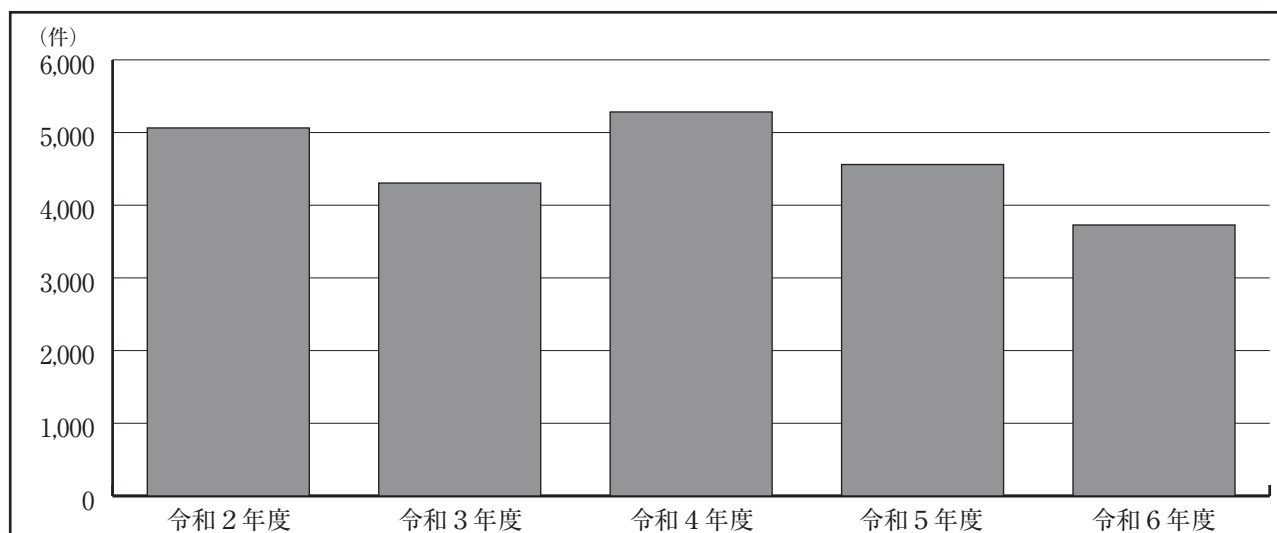




## 放射線治療件数の推移

(単位：件)

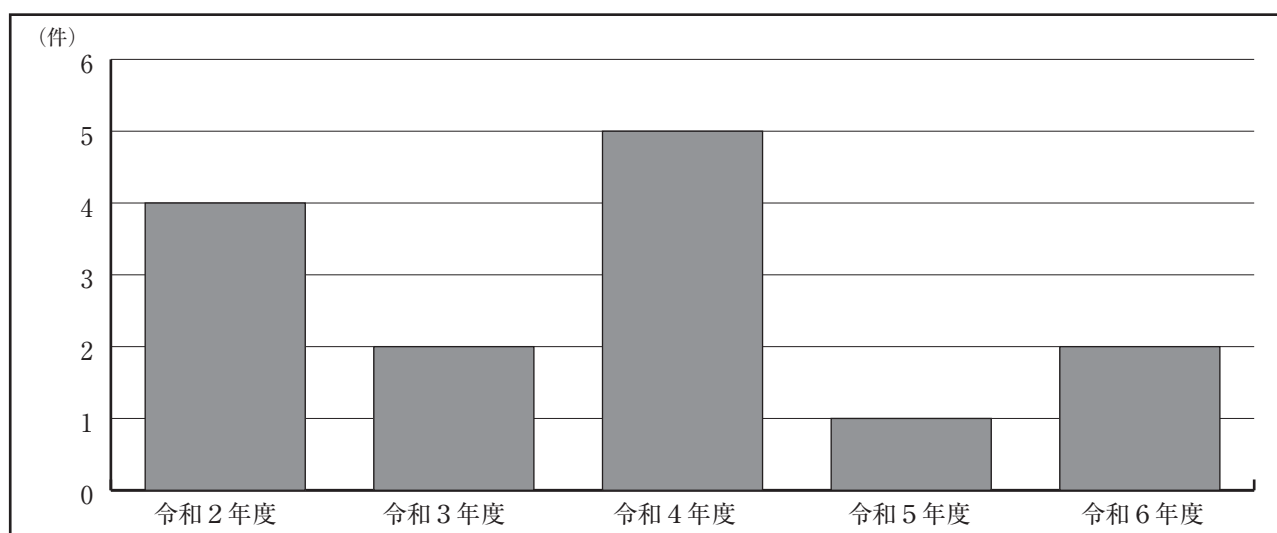
| 1 日 平 均   | 2 年 度 | 3 年 度 | 4 年 度 | 5 年 度 | 6 年 度 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 放 射 線 件 数 | 5,063 | 4,305 | 5,283 | 4,560 | 3,728 |



## 解剖件数の推移

(単位：件)

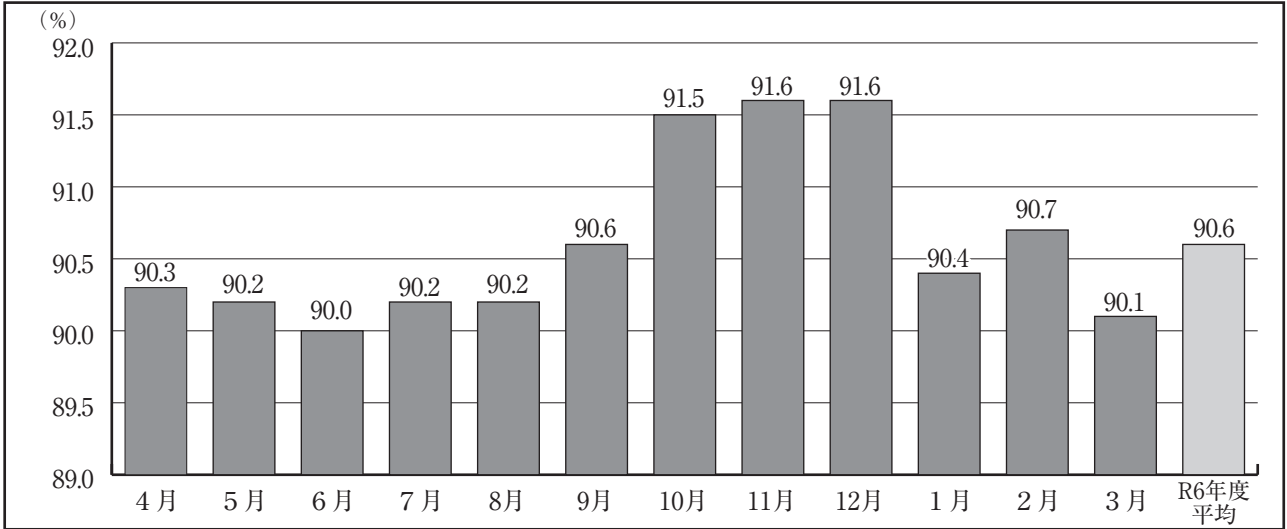
| 1 日 平 均 | 2 年 度 | 3 年 度 | 4 年 度 | 5 年 度 | 6 年 度 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 解 剖 件 数 | 4     | 2     | 5     | 1     | 2     |



## 2024年度 後発医薬品指数

| 年 月            | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月   | 9月   | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 6年度<br>平均 |
|----------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----------|
| 後発医薬品指数<br>(%) | 90.3 | 90.2 | 90.0 | 90.2 | 90.2 | 90.6 | 91.5 | 91.6 | 91.6 | 90.4 | 90.7 | 90.1 | 90.6      |

※出荷停止品目は計算対象外



## D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）

対象：2024年4月1日～2025年3月31日退院患者

（転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計）

| 順位 | 診断群分類番号        | 診断群分類名称                                                     | 症例数（件） |
|----|----------------|-------------------------------------------------------------|--------|
| 1  | 060100xx99xxxx | 小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）-手術なし                                    | 366    |
| 2  | 060340xx03x00x | 胆管（肝内外）結石、胆管炎-限局性腹腔膿瘍手術等-処置2:なし-副病:なし                       | 229    |
| 3  | 060100xx01xxxx | 小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）-内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術                        | 221    |
| 4  | 020110xx97xxx0 | 白内障、水晶体の疾患-手術あり-片眼                                          | 154    |
| 5  | 030400xx99xxxx | 前庭機能障害-手術なし                                                 | 107    |
| 6  | 090010xx010xxx | 乳房の悪性腫瘍-乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等-処置1:なし | 102    |
| 6  | 160610xx01xxxx | 四肢筋腱損傷-関節鏡下肩腱板断裂手術等                                         | 102    |
| 8  | 160690xx99xxxx | 胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰椎損傷を含む。）-手術なし                                | 97     |
| 9  | 110070xx03x0xx | 膀胱腫瘍-膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術-処置2:なし                                 | 93     |
| 10 | 06007xxx9900xx | 脾臓、脾臓の腫瘍-手術なし-処置1:なし-処置2:なし                                 | 91     |
| 11 | 110310xx99xxxx | 腎臓又は尿路の感染症-手術なし                                             | 90     |
| 12 | 060035xx99x0xx | 結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍-手術なし-処置2:なし                                 | 89     |
| 13 | 060160x001xxxx | 鼠径ヘルニア（15歳以上）-ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等                                | 88     |
| 13 | 180030xxxxxx0x | その他の感染症（真菌を除く。）-副病:なし                                       | 88     |
| 15 | 160800xx02xxxx | 股関節・大腿近位の骨折-人工骨頭挿入術 肩、股等                                    | 87     |
| 16 | 0400802499x0xx | 肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上）-手術なし-処置2:なし                                | 79     |
| 17 | 070343xx97x0xx | 脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎-その他の手術あり-処置2:なし                    | 75     |
| 18 | 030240xx99xxxx | 扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎-手術なし                                   | 68     |
| 19 | 040081xx99x0xx | 誤嚥性肺炎-手術なし-処置2:なし                                           | 67     |
| 20 | 070230xx01xxxx | 膝関節症（変形性を含む。）-人工関節再置換術等                                     | 65     |

## DPC MDC6桁 診療科別上位頻度表

対象：2024年4月1日～2025年3月31日退院患者

(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

## 内 科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称               | 症例数 (件) |
|----|--------|----------------------|---------|
| 1  | 060100 | 小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）  | 587     |
| 2  | 130030 | 非ホジキンリンパ腫            | 317     |
| 3  | 060340 | 胆管（肝内外）結石、胆管炎        | 253     |
| 4  | 060035 | 結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍      | 250     |
| 5  | 06007x | 膵臓、脾臓の腫瘍             | 232     |
| 6  | 060020 | 胃の悪性腫瘍               | 177     |
| 7  | 060040 | 直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 | 146     |
| 8  | 040080 | 肺炎等                  | 133     |
| 9  | 060050 | 肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） | 129     |
| 10 | 130010 | 急性白血病                | 120     |

## 神経内科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称              | 症例数 (件) |
|----|--------|---------------------|---------|
| 1  | 010160 | パーキンソン病             | 62      |
| 2  | 010155 | 運動ニューロン疾患等          | 24      |
| 3  | 010110 | 免疫介在性・炎症性ニューロパシー    | 23      |
| 4  | 010170 | 基底核等の変性疾患           | 21      |
| 4  | 040081 | 誤嚥性肺炎               | 21      |
| 6  | 010080 | 脳脊髄の感染を伴う炎症         | 16      |
| 6  | 070560 | 重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 | 16      |
| 8  | 010090 | 多発性硬化症              | 13      |
| 9  | 010140 | 筋疾患（その他）            | 10      |
| 10 | 010130 | 重症筋無力症              | 9       |

## 外科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称               | 症例数 (件) |
|----|--------|----------------------|---------|
| 1  | 090010 | 乳房の悪性腫瘍              | 209     |
| 2  | 060160 | 鼠径ヘルニア               | 91      |
| 2  | 060335 | 胆嚢炎等                 | 91      |
| 4  | 060035 | 結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍      | 79      |
| 5  | 060020 | 胃の悪性腫瘍               | 57      |
| 6  | 060040 | 直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 | 54      |
| 7  | 060150 | 虫垂炎                  | 44      |
| 8  | 060050 | 肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） | 32      |
| 9  | 060210 | ヘルニアの記載のない腸閉塞        | 19      |
| 10 | 06007x | 膵臓、脾臓の腫瘍             | 17      |

## 整形外科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称                   | 症例数（件） |
|----|--------|--------------------------|--------|
| 1  | 160800 | 股関節・大腿近位の骨折              | 168    |
| 2  | 160610 | 四肢筋腱損傷                   | 144    |
| 3  | 160690 | 胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）  | 101    |
| 4  | 070343 | 脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 | 86     |
| 5  | 070230 | 膝関節症（変形性を含む。）            | 72     |
| 6  | 160760 | 前腕の骨折                    | 67     |
| 7  | 07040x | 股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）    | 45     |
| 8  | 160720 | 肩関節周辺の骨折・脱臼              | 44     |
| 9  | 160850 | 足関節・足部の骨折・脱臼             | 38     |
| 10 | 070350 | 椎間板変性、ヘルニア               | 30     |

## 脳神経外科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称                   | 症例数（件） |
|----|--------|--------------------------|--------|
| 1  | 010060 | 脳梗塞                      | 216    |
| 2  | 010040 | 非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）   | 68     |
| 2  | 070343 | 脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 | 68     |
| 4  | 160100 | 頭蓋・頭蓋内損傷                 | 37     |
| 5  | 010050 | 非外傷性硬膜下血腫                | 28     |
| 6  | 010010 | 脳腫瘍                      | 26     |
| 7  | 010111 | 遺伝性ニューロパチー               | 25     |
| 8  | 010230 | てんかん                     | 22     |
| 9  | 010030 | 未破裂脳動脈瘤                  | 18     |
| 10 | 030400 | 前庭機能障害                   | 17     |

## 泌尿器科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称     | 症例数（件） |
|----|--------|------------|--------|
| 1  | 110070 | 膀胱腫瘍       | 147    |
| 2  | 110080 | 前立腺の悪性腫瘍   | 133    |
| 3  | 11012x | 上部尿路疾患     | 41     |
| 4  | 110060 | 腎盂・尿管の悪性腫瘍 | 38     |
| 5  | 11013x | 下部尿路疾患     | 25     |
| 6  | 110200 | 前立腺肥大症等    | 20     |
| 6  | 110310 | 腎臓又は尿路の感染症 | 20     |
| 8  | 11001x | 腎腫瘍        | 19     |
| 9  | 110420 | 水腎症等       | 10     |
| 10 | 040080 | 肺炎等        | 6      |
| 10 | 11022x | 男性生殖器疾患    | 6      |
| 10 | 110290 | 急性腎不全      | 6      |

## 耳鼻咽喉科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称               | 症例数（件） |
|----|--------|----------------------|--------|
| 1  | 030400 | 前庭機能障害               | 88     |
| 2  | 030240 | 扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 | 79     |
| 3  | 030350 | 慢性副鼻腔炎               | 40     |
| 4  | 030250 | 睡眠時無呼吸               | 39     |
| 5  | 03001x | 頭頸部悪性腫瘍              | 35     |
| 5  | 030428 | 突発性難聴                | 35     |
| 7  | 030150 | 耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍    | 16     |
| 8  | 030390 | 顔面神経障害               | 15     |
| 9  | 100020 | 甲状腺の悪性腫瘍             | 14     |
| 10 | 130030 | 非ホジキンリンパ腫            | 12     |

## 眼科

| 順位 | MDC6   | MDC6名称      | 症例数（件） |
|----|--------|-------------|--------|
| 1  | 020110 | 白内障、水晶体の疾患  | 156    |
| 2  | 020320 | 眼瞼、涙器、眼窩の疾患 | 2      |
| 3  | 020130 | 後部・汎ぶどう膜炎   | 1      |
| 3  | 020210 | 網膜血管閉塞症     | 1      |
| 3  | 160250 | 眼損傷         | 1      |

# Kcode 診療科別上位頻度表

対象：2024年4月1日～2025年3月31日 退院患者

## 外科

| 順位 | K code  | 手術名称                              | 回数（件） |
|----|---------|-----------------------------------|-------|
| 1  | K672-2  | 腹腔鏡下胆嚢摘出術                         | 116   |
| 2  | K634    | 腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）                  | 74    |
| 3  | K719-3  | 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術                     | 63    |
| 4  | K4763   | 乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））       | 45    |
| 5  | K6113   | 抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）  | 35    |
| 6  | K4765   | 乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）        | 23    |
| 7  | K740-22 | 腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術・手術用支援機器使用含む） | 19    |
| 7  | K740-21 | 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）（内視鏡手術用支援機器使用含む） | 19    |
| 9  | K655-23 | 腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）（内視鏡手術用支援機器使用）    | 17    |
| 10 | K718-21 | 腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）          | 16    |

## 整形外科

| 順位 | K code  | 手術名称                      | 回数（件） |
|----|---------|---------------------------|-------|
| 1  | K0821   | 人工関節置換術（膝、股、肩）            | 78    |
| 2  | K0461   | 骨折観血的手術（大腿、上腕、肩甲骨）        | 63    |
| 3  | K0462   | 骨折観血的手術（前腕、下腿）            | 53    |
| 4  | K0483   | 骨内異物（挿入物を含む）除去術（前腕、下腿）    | 43    |
| 5  | K080-41 | 関節鏡下肩腱板断裂手術（簡単）           | 39    |
| 6  | K0591   | 骨移植術（軟骨移植術を含む、自家骨移植）      | 28    |
| 7  | K1423   | 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（後方椎体固定） | 27    |
| 8  | K1426   | 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）   | 25    |
| 9  | K028    | 腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む）       | 21    |
| 9  | K0811   | 人工骨頭挿入術（股、肩）              | 21    |

## 脳神経外科

| 順位 | K code | 手術名称                      | 回数（件） |
|----|--------|---------------------------|-------|
| 1  | K141-3 | 脊椎制動術                     | 31    |
| 2  | K1426  | 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）   | 28    |
| 3  | K164-2 | 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術              | 26    |
| 4  | K1881  | 神経剥離術（鏡視下）                | 22    |
| 5  | K178-4 | 経皮的脳血栓回収術                 | 18    |
| 6  | K1771  | 脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）         | 13    |
| 6  | K1692  | 頭蓋内腫瘍摘出術（その他）             | 13    |
| 8  | K093   | 手根管開放手術                   | 11    |
| 9  | K1643  | 頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）          | 8     |
| 10 | K1882  | 神経剥離術（その他）                | 7     |
| 10 | K1802  | 頭蓋骨形成手術（硬膜形成を伴う）          | 7     |
| 10 | K6182  | 中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他） | 7     |



## 泌尿器科

| 順位 | K code | 手術名称                              | 回数 (件) |
|----|--------|-----------------------------------|--------|
| 1  | K8036イ | 膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (電解質溶液利用)       | 100    |
| 2  | K783-2 | 経尿道的尿管ステント留置術                     | 36     |
| 3  | K6113  | 抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置 (頭頸部その他) | 27     |
| 4  | K7811  | 経尿道的尿路結石除去術 (レーザー)                | 16     |
| 4  | K843-4 | 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる)    | 16     |
| 6  | K8411  | 経尿道的前立腺手術 (電解質溶液利用)               | 14     |
| 7  | K773-2 | 腹腔鏡下腎 (尿管) 悪性腫瘍手術                 | 9      |
| 7  | K775   | 経皮的腎 (腎盂) 瘻造設術                    | 9      |
| 7  | K7981  | 膀胱結石摘出術 (経尿道的手術)                  | 9      |
| 10 | K800-2 | 経尿道的電気凝固術                         | 7      |

## 耳鼻咽喉科

| 順位 | K code | 手術名称                              | 回数 (件) |
|----|--------|-----------------------------------|--------|
| 1  | K340-5 | 内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術) | 29     |
| 2  | K3772  | 口蓋扁桃手術 (摘出)                       | 20     |
| 3  | K340-4 | 内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2 型 (副鼻腔単洞手術)         | 10     |
| 3  | K347-3 | 内視鏡下鼻中隔手術 1 型 (骨、軟骨手術)            | 10     |
| 5  | K4611  | 甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 (片葉のみ)           | 9      |
| 5  | K6261  | リンパ節摘出術 (長径 3 c m 未満)             | 9      |
| 5  | K347-5 | 内視鏡下鼻腔手術 1 型 (下鼻甲介手術)             | 9      |
| 8  | K331   | 鼻腔粘膜焼灼術                           | 7      |
| 8  | K4571  | 耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺浅葉摘出術)               | 7      |
| 10 | K6262  | リンパ節摘出術 (長径 3 c m 以上)             | 6      |

## 眼科

| 順位 | K code | 手術名称                    | 回数 (件) |
|----|--------|-------------------------|--------|
| 1  | K2821ロ | 水晶体再建術 (眼内レンズを挿入) (その他) | 155    |
| 2  | K274   | 前房、虹彩内異物除去術             | 1      |

## 歯科口腔外科

| 順位 | K code  | 手術名称                     | 回数 (件) |
|----|---------|--------------------------|--------|
| 1  | K4044   | 拔牙手術 (1 歯につき) (埋伏歯)      | 535    |
| 2  | K4043   | 拔牙手術 (1 歯につき) (臼歯)       | 290    |
| 3  | K4042   | 拔牙手術 (1 歯につき) (前歯)       | 39     |
| 4  | K4361   | 顎骨腫瘍摘出術 (長径 3 センチメートル未満) | 27     |
| 5  | K4362   | 顎骨腫瘍摘出術 (長径 3 センチメートル以上) | 7      |
| 6  | K431    | 顎関節脱臼観血の手術               | 4      |
| 7  | K4291   | 下顎骨折観血の手術 (片側)           | 3      |
| 7  | K4132   | 舌腫瘍摘出術 (その他のもの)          | 3      |
| 9  | K4211   | 口唇腫瘍摘出術 (粘液嚢胞摘出術)        | 2      |
| 9  | K438    | 下顎骨離断術                   | 2      |
| 9  | K429-21 | 下顎関節突起骨折観血の手術 (片側)       | 2      |



# IV. 講演会等活動実績報告

学会・研究会・講演会発表・・・・・・・・・・77

I 事業報告

II 診療科及び部門報告

III 医療統計

IV 講演会等活動実績報告

V 業績目録



# 内 科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                                                                                                                                                                              | 演者および共同演者                                                                                                                                                                                                        | 発表学会名                                              | 学会発表日            | 学会開催場所    | 区分 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------|-----------|----|
| Comparative efficacy of Infliximab, Adalimumab, and Ustekinumab in patients with biologics naïve Crohn's disease: a retrospective observational study,                                             | Kensuke Sakurai, Shun Takahashi, Kenta Fujihata, Ryosuke Watanabe, Yusuke Nishimura, Ren Yamada, Kentaro Sawada, Itsuki Sano, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima,                                                   | ECCO                                               | 2024, 2, 21-24   | Stockholm | ①  |
| Clinical Efficacy and Predictive Factors for the Effectiveness of Granulocyte and Monocyte Adsorption Apheresis Therapy for Ulcerative Colitis: A Retrospective Observational Single Center Study, | Kenta Fujihata, Kensuke Sakurai, Shun Takahashi, Ryosuke Watanabe, Yusuke Nishimura, Ren Yamada, Kentaro Sawada, Itsuki Sano, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima,                                                   | ECCO                                               | 2024, 2, 21-24   | Stockholm | ①  |
| Total neoadjuvant therapy (TNT) with short course radiotherapy for locally advanced rectal cancer; single institution experience                                                                   | Kentaro Sawada1, 2, Ryosuke Watanabe1, Yui Ishiguro3, Hiromi Okada4, Shun Takahashi1, Kenta Fujihata1, Yusuke Nishimura1, 3, Kensuke Sakurai1, Ren Yamada1, Itsuki Sano1, Hisashi Oda1, Takuto Miyagishima1      | 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2024)                        | 2024, 2, 22-24   | 名古屋       | ①  |
| The experience of multidisciplinary therapy for SCLC with myelocarcinomatosis and refractory gastrointestinal bleeding ,                                                                           | Shun Takahashi, Kentaro Sawada, Yukina Inoue, Ryosuke Watanabe, Kenta Fujihata, Yusuke Nishimura, Shynsuke Sugimura, Kensuke Sakurai, Ren Yamada, Itsuki Sano, Akio Shigematsu, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima, | 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO2024)                        | 2024, 2, 22-24   | 名古屋       | ①  |
| 切除不能胃癌患者に対するトリフルリジン・チベラシル+ラムシルマブ療法の後方視的検討                                                                                                                                                          | 渡辺亮介、澤田憲太郎、村中徹人、高橋惇、藤畑堅大、西村友佑、桜井健介、山田錬、佐野逸紀、小田寿、國枝保幸、宮城島拓人                                                                                                                                                       | 第96回日本胃癌学会総会                                       | 2024, 2, 29      | 京都        | ①  |
| 術前化学療法として施行したSOX-Nivo療法後に病理学的完全奏効 (pCR) となったEBウイルス関連胃癌の1例                                                                                                                                          | 音喜多香貴、澤田憲太郎、高橋惇、藤畑堅大、渡辺亮介、西村友佑、桜井健介、山田錬、佐野逸紀、小田寿、石黒友唯、岡田宏美、宮城島拓人                                                                                                                                                 | 第134回日本消化器病学会北海道支部例会                               | 2024, 3, 2-3     | 札幌        | ①  |
| 難治性の出血性十二指腸潰瘍に対するOTSC不成功例                                                                                                                                                                          | 高橋惇、佐野逸紀、藤畑堅大、渡辺亮介、西村友佑、桜井健介、山田錬、澤田憲太郎、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                                 | 第128回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会                             | 2024, 3, 2-3     | 札幌        | ①  |
| 同種造血幹細胞移植を施行された二次性骨髄線維症患者に遷延した血小板減少                                                                                                                                                                | 杉村駿介、井上ゆきな、重松明男、宮城島拓人                                                                                                                                                                                            | 第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会                                | 2024, 3, 22-24   | 東京        | ①  |
| 同種移植を施行したder(1;7)(q10;p10)を伴う骨髄異形成症候群                                                                                                                                                              | 杉村駿介、井上ゆきな、重松明男、宮城島拓人                                                                                                                                                                                            | 第59回日本血液学会春季北海道地方会                                 | 2024, 4, 20      | 札幌        | ①  |
| Breakthrough感染症としてTrichosporon asahii 症を発症した急性骨髄性白血病の1例                                                                                                                                            | 井上ゆきな、野津麟太郎、千丈創、宮城島拓人                                                                                                                                                                                            | 第2回北海道医真菌研究会                                       | 2024, 8, 24      | 札幌        | ①  |
| 縦隔内腔仮性嚢胞ドレナージにより改善が得られた胸水の1例 (研修医・専攻医奨励賞)                                                                                                                                                          | 青田凌、細田峻一、水藤達貴、音喜多香貴、高橋惇、渡辺亮介、西村友佑、山田錬、澤田憲太郎、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                            | 第135回日本消化器病学会北海道支部会                                | 2024, 8, 31-9, 1 | 札幌        | ①  |
| FOLFOX+ペバシズマブが著効したMSI-high大腸癌の1例 (専攻医奨励賞)                                                                                                                                                          | 渡辺亮介、澤田憲太郎、高橋惇、音喜多香貴、西村友佑、細田峻一、山田錬、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                                     | 第135回日本消化器病学会北海道支部会                                | 2024, 8, 31-9, 1 | 札幌        | ①  |
| 形態変化を観察し得たDouble Pylorus                                                                                                                                                                           | 水藤達貴、西村友佑、今杜王、青田凌、音喜多香貴、高橋惇、渡辺亮介、細田峻一、山田錬、澤田憲太郎、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                        | 第129回日本消化器内視鏡学会北海道支部会                              | 2024, 8, 31-9, 1 | 札幌        | ①  |
| ドレナージ術を駆使して救命し得た肝巨大Bilomaの1例                                                                                                                                                                       | 音喜多香貴、西村友佑、高橋惇、渡辺亮介、細田峻一、山田錬、澤田憲太郎、小田寿、中川隆公、宮城島拓人                                                                                                                                                                | 第29回北海道レジデントカンファレンス                                | 2024, 9, 14      | 札幌        | ①  |
| Prognostic change in patients with metastatic gastric cancer after nivolumab approval as first-line chemotherapy                                                                                   | 澤田憲太郎、音喜多香貴、高橋惇、渡辺亮介、西村友佑、細田峻一、山田錬、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                                     | 第62回日本がん治療学会学術集会                                   | 2024, 10, 25     | 福岡        | ①  |
| 好酸球性胃腸炎・胆管炎を合併した好酸球増多症の1例                                                                                                                                                                          | 音喜多香貴、山田錬、高橋惇、渡辺亮介、西村友佑、細田峻一、澤田憲太郎、小田寿、宮城島拓人                                                                                                                                                                     | 第302回日本内科学会北海道地方会                                  | 2024, 11, 9      | 札幌        | ①  |
| Breakthrough感染症としてトリコスボロン症を発症した急性骨髄性白血病の1例                                                                                                                                                         | 谷口陽、千丈創、井上ゆきな、野津麟太郎、宮城島拓人                                                                                                                                                                                        | 第302回日本内科学会北海道地方会                                  | 2024, 11, 9      | 札幌        | ①  |
| コロナとエイズどっちが怖い！?                                                                                                                                                                                    | 宮城島拓人                                                                                                                                                                                                            | 創新懇話会                                              | 2024, 1, 26      | 釧路        | ③  |
| HCVの撲滅にむけて～院内スキームを構築する上での課題～                                                                                                                                                                       | 山田錬                                                                                                                                                                                                              | 第2回HCV Elimination Conference in Sapporo (アヴィ合同会社) | 2024, 2, 2       | 札幌        | ③  |
| 明日から使えるICI+化学療法併用レジメンのコツ                                                                                                                                                                           | 澤田憲太郎                                                                                                                                                                                                            | トリプルネガティブ乳がん Update Seminar (MSD株式会社)              | 2024, 2, 8       | 釧路        | ③  |
| 患者さんにどう生かす? 腸内細菌叢とがん治療を基礎から学ぶ                                                                                                                                                                      | 澤田憲太郎                                                                                                                                                                                                            | がん腸内細菌 最前線セミナー(ミヤリサン製薬)                            | 2024, 2, 16      | 埼玉        | ③  |
| HIV/AIDS今昔物語 そして未来へ                                                                                                                                                                                | 宮城島拓人                                                                                                                                                                                                            | 第14回北海道HIV情報交換会                                    | 2024, 2, 17      | 札幌        | ③  |
| 切除不能胃癌における後方治療の戦略                                                                                                                                                                                  | 澤田憲太郎                                                                                                                                                                                                            | 30 MINUTE GI ONCOLOGY (イーライリリー)                    | 2024, 3, 14      | 札幌 WEB    | ③  |

I 事業報告

II 診療科及び部門報告

III 医療統計

IV 講演会等活動実績報告

V 業績目録

| 演 題 名                                   | 演者および共同演者 | 発表学会名                                                                      | 学会発表日        | 学会開催場所  | 区分 |
|-----------------------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------|--------------|---------|----|
| 胃癌化学療法における後方ラインの治療戦略                    | 澤田憲太郎     | TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer 胃癌化学療法におけるContinuum of Careの実践(大鵬薬品工業) | 2024, 3, 21  | 札幌, WEB | ③  |
| あきらめないための切除不能食道癌の治療戦略                   | 澤田憲太郎     | 消化器癌 Updateセミナー (MSD株式会社)                                                  | 2024, 4, 19  | 札幌, WEB | ③  |
| 日常臨床で遭遇するimAE-どう気づき、どう対応するか？            | 澤田憲太郎     | imAE Management Seminar For Gastrointestinal Cancer (アストラゼネカ株式会社)          | 2024, 4, 24  | 札幌, WEB | ③  |
| HCVのEliminationに向けて～病病・病診連携の必要性～        | 山田練       | 札幌肝疾患フォーラム (アッヴィ)                                                          | 2024, 5, 18  | 札幌      | ③  |
| 白血病の寛解導入療法中に発症したTrichosporon asahii症の1例 | 井上ゆきな     | 北海道血液感染症セミナー (MSD株式会社)                                                     | 2024, 5, 24  | WEB     | ③  |
| 胃癌一次治療におけるオブジーボ承認前後の予後変化                | 澤田憲太郎     | 第4回道東がん免疫療法WEBセミナー (小野薬品、ブリストル)                                            | 2024, 6, 11  | 釧路, WEB | ③  |
| 実臨床における大腸癌薬物療法の治療選択                     | 高橋惇       | Sunrise meeting in Eastern Hokkaido 2024 (メルクバイオファーマ)                      | 2024, 6, 27  | 釧路      | ③  |
| 下部消化管領域の進歩 薬物療法                         | 澤田憲太郎     | Weekly Oncology Webinar Webセミナー(一般社団法人がん医療研究所)                             | 2024, 7, 4   | 大阪, WEB | ③  |
| がん遺伝子パネル検査紹介時に必要な患者説明～札幌まで300km～        | 澤田憲太郎     | これからの医療を切り拓くがんゲノム医療 (インサイトジャパン)                                            | 2024, 7, 10  | 東京, WEB | ③  |
| 真性多血症治療のケースディスカッション                     | 宮城島拓人     | ベスレミ発売1周年記念講演会 in Sapporo (ファーマエッセンシアジャパン)                                 | 2024, 7, 25  | 札幌      | ③  |
| 明日から使えるICI+化学療法併用レジメンのコツ                | 澤田憲太郎     | トリプルネガティブ乳がん Update Seminar (MSD株式会社)                                      | 2024, 8, 30  | 旭川      | ③  |
| 二ボルマブ承認前後における胃癌1次化学療法の治療成績の検討           | 澤田憲太郎     | 第8回GI Oncology Expert Small Meeting(小野薬品)                                  | 2024, 9, 26  | 札幌, WEB | ③  |
| 大腸がんにおける緩和的化学療法と周術期放射線化学療法              | 澤田憲太郎     | 第10回 オホーツク消化器癌フォーラム(大鵬薬品)                                                  | 2024, 9, 27  | 北見      | ③  |
| ベストのirAEマネジメントを考えるーICIを安全に届けるための取り組みー   | 澤田憲太郎     | 帯広がん免疫療法セミナーー疾患横断的に考えるー (小野薬品)                                             | 2024, 10, 3  | 帯広      | ③  |
| この患者さんにとって最良の1次化学療法は？ー使えるレジメン全部検討してみたー  | 澤田憲太郎     | Erbix CRC Expert Webinar (メルクバイオファーマ)                                      | 2024, 10, 16 | 函館, WEB | ③  |
| 歴史から紐解くHIV/AIDSの今と再興する梅毒に問題について         | 宮城島拓人     | 令和6年度 根室管内養護教諭研究協議会                                                        | 2024, 11, 15 | 別海      | ③  |
| 胃癌一次治療 症例検討                             | 澤田憲太郎     | オブジーボ胃癌エリアWEBセミナー(小野製薬)                                                    | 2024, 11, 19 | 札幌, WEB | ③  |
| 歴史から紐解くHIV/AIDSと梅毒の今                    | 宮城島拓人     | 釧路歯科医師会三木会                                                                 | 2024, 11, 21 | 釧路      | ③  |
| 2024年版 進行大腸がんの標準治療と最新の話題                | 澤田憲太郎     | 第2回 釧路NRホスピタル講演会(武田薬品工業)                                                   | 2024, 12, 3  | 釧路      | ③  |

## 神経内科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                  | 演者および共同演者                                                                                | 発表学会名                               | 学会発表日      | 学会開催場所 | 区分 |
|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------|--------|----|
| 遅発性Dysferlinopathyの1例                  | ○布村 董 1、穴田麻真子 1、津坂和文 1、田中大貴 2、緒方昭彦 3<br>(釧路ろうさい病院神経内科 1、北海道大学神経内科 2、北海道脳神経外科記念病院脳神経内科 3) | 第113回日本神経学会北海道地方会                   | 2024, 3, 2 | 札幌市    | ①  |
| 急性一過性精神病性障害の9年後に痙攣発作を生じ診断し得たNMDAR脳炎の1例 | 井上貴司、布村董、津坂和文（釧路ろうさい病院神経内科）                                                              | 第114回日本神経学会北海道地方会                   | 2024, 9, 7 | 札幌市    | ①  |
| 地方病院とDE&I                              | 津坂和文                                                                                     | 第65回日本神経学会学術大会 シンポジウム 43 脳神経内科×DE&I | 2024, 6, 1 | 東京     | ①  |

## 外科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                   | 演者および共同演者                                | 発表学会名                | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------------------------|------------------------------------------|----------------------|--------------|--------|----|
| 両立支援の観点をもって術前化学療法を実施した乳癌の1例             | 佐野峻司、小笠原和宏、中川隆公、石黒友唯、沢田亮史、小林展大、板倉恒輝      | 令和5年度全国労災病院外科研究会     | 2024, 01, 26 | 川崎市    | ②  |
| 胆管前区域枝からの胆嚢管分岐症例に対して安全に腹腔鏡下胆嚢摘出を施行しえた1例 | 小林展大、植林毅行、佐野峻司、板倉恒輝、沢田亮史、石黒友唯、中川隆公、小笠原和宏 | 第49回日本外科系連合学会学術集会    | 2024, 06, 06 | 東京都    | ①  |
| 当院にて胆石性イレウスを呈した4例の報告                    | 津坂隼也、石川昂弥、小林展大、加藤絃一、石黒友唯、中川隆公、小笠原和宏      | 第125回日本臨床外科学会北海道支部総会 | 2024, 06, 22 | 帯広市    | ①  |
| 異なる背景を有する乳腺血管肉腫の3例                      | 小笠原和宏、石黒友唯、沢田亮史、小林展大、板倉恒輝、佐野峻司           | 第32回日本乳癌学会学術総会       | 2024, 07, 11 | 仙台市    | ①  |



| 演 題 名                                        | 演者および共同演者                           | 発表学会名                    | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|----------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------|--------|----|
| 術前化学放射線療法により病理学的完全寛解を得られた同時性重複癌（直腸癌、胃癌）の1切除例 | 石川昂弥、津坂隼也、石川昂弥、小林展大、加藤紘一、中川隆公、小笠原和宏 | 第7回北海道外科関連学会機構合同学術集会     | 2024, 09, 14 | 札幌市    | ①  |
| 術前診断できなかった巨大な乳腺被包型乳頭癌の1例                     | 石黒友唯、津坂隼也、石川昂弥、小林展大、加藤紘一、中川隆公、小笠原和宏 | 第22回日本乳癌学会北海道地方会         | 2024, 10, 05 | 札幌市    | ①  |
| 地方の中小規模病院におけるロボット支援下直腸切除術の導入と現状              | 石黒友唯、津坂隼也、石川昂弥、小林展大、加藤紘一、中川隆公、小笠原和宏 | 第37回日本内視鏡外科学会総会          | 2024, 12, 06 | 福岡市    | ①  |
| 緩和ケアのキホン コミュニケーション アドバンス・ケア・プランニングのすすめ       | 小笠原和宏                               | ホスピス緩和ケア週間 釧路労災病院・市民公開講座 | 2024, 12, 14 | 釧路市    | ③  |

## 整形外科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                     | 演者および共同演者               | 発表学会名            | 学会発表日           | 学会開催場所 | 区分 |
|-------------------------------------------|-------------------------|------------------|-----------------|--------|----|
| 膝周関節治療failure症例に対するsalvage手術としてのTKAの経験    | 加藤琢磨                    | 道東TKAセミナー        | 2024, 3, 1      | 釧路市    | ②  |
| 北海道における野球肘検診-COVID-19流行前、流行中、流行後の比較-      | 松居祐樹、門間太輔、沼口恭介、池翔太、岩崎倫政 | 第36回日本肘関節学会学術総会  | 2024, 3, 1-2    | 札幌市    | ①  |
| 北海道における野球肘検診-COVID-19流行前、流行中、流行後の比較-      | 松居祐樹、池翔太、門間太輔、沼口恭介、岩崎倫政 | 第97回日本整形外科学会学術総会 | 2024, 5, 23-26  | 福岡市    | ①  |
| 腱板断裂症例における上腕骨CTを用いた骨密度評価                  | 松居祐樹、門間太輔、岩崎倫政          | 第51回日本肩関節学会学術総会  | 2024, 10, 25-26 | 京都市    | ①  |
| 人工膝関節全置換術後周囲感染に対する高濃度抗菌薬局所持続灌流療法（CLAP）の応用 | 赤石直央貴                   | 第2回日本膝関節学会       | 2024, 12, 6-7   | 沖縄市    | ①  |

## 脳神経外科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                                   | 演者および共同演者                              | 発表学会名                     | 学会発表日           | 学会開催場所 | 区分 |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------|---------------------------|-----------------|--------|----|
| 殿皮神経障害障害による腰痛                                           | 金景成、森本大二郎、井須豊彦、村井保夫                    | 第32回日本腰痛学会 教育研修講演         | 2024, 10, 25-26 | 千葉     | ①  |
| 上殿皮神経障害の手術における神経同定                                      | 金景成、額額健太、井須豊彦、森本大二郎、國保倫子、村井保夫          | 第39回日本脊髄外科学会              | 2024, 6, 13-14  | 大阪     | ①  |
| Disorientationから学んだ外側大腿皮神経障害手術における神経同定                  | 金景成、森本大二郎、井須豊彦、村井保夫                    | 第14回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会     | 2024, 7, 26-27  | 大阪     | ①  |
| ガングリオンによる足根管症候群手術の工夫                                    | 金景成、森本大二郎、井須豊彦、村井保夫                    | 第14回日本低侵襲・内視鏡脊髄神経外科学会     | 2024, 7, 26-27  | 大阪     | ①  |
| 上殿皮神経障害手術における神経同定に関する検討                                 | 金景成、額額健太、井須豊彦、森本大二郎、國保倫子、村井保夫          | 第35回日本末梢神経学会学術集会          | 2024, 9, 6-7    | 鹿児島    | ①  |
| 上殿皮神経障害手術における神経同定                                       | 金景成、井須豊彦、森本大二郎、額額健太、國保倫子、井手口稔、三原隆、村井保夫 | 第83回日本脳神経外科学会総会           | 2024, 10, 16-18 | 横浜     | ①  |
| 上殿皮神経障害手術の3つのステップにおける神経同定に関する検討                         | 金景成、森本大二郎、國保倫子、井須豊彦                    | 第59回日本脊髄障害医学会             | 2024, 11, 7-8   | 沖縄     | ①  |
| 腰椎後方除圧術を施行した116例と末梢神経障害の関連について                          | 田尻崇人、金景成、井須豊彦                          | 第7回末梢神経の外科研究会             | 2024, 3, 30     | 東京     | ①  |
| 「足根管症候群術後再発に対する手術成績」                                    | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、磯部正則、安部洋                 | 釧路地区脳神経外科学術講演会            | 2024, 2, 9      | 釧路     | ①  |
| 「椎体骨折に合併した腰部脊柱管狭窄症に対する腰椎制動術の治療経験 -骨粗鬆症の治療も含めて-」         | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、田尻崇人、喜多村孝雄、磯部正則、安部洋      | 釧路骨粗鬆症セミナー                | 2024, 2, 22     | 釧路     | ①  |
| 「足根管症候群術後再発に対する手術成績」                                    | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、磯部正則、安部洋                 | 末梢神経の外科研究会                | 2024, 3, 30     | 東京     | ①  |
| 「陳旧性椎体圧迫骨折を併発した腰下肢痛に対する腰椎制動術の治療経験」                      | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、田尻崇人、喜多村孝雄、磯部正則、安部洋      | 第39回日本脊髄外科学会              | 2024, 6, 13-14  | 大阪     | ①  |
| 「足根管症候群術後再発に対する手術成績」                                    | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、田尻崇人、藤原史明、磯部正則、安部洋       | 日本脳神経外科学会学術総会             | 2024, 10, 17    | 横浜     | ①  |
| 「腰部脊柱管狭窄症に対する標準治療としての低侵襲腰椎制動術導入の試み」                     | 吉永泰介、井須豊彦、金景成、田尻崇人、喜多村孝雄、藤原史明、磯部正則、安部洋 | 日本脳神経外科学会学術総会             | 2024, 10, 17    | 横浜     | ①  |
| 脳神経外科医である私と鍼灸師との医療連携の経験 -腰痛治療における医療連携 伝統医学と現代医学相互補完の可能性 | 井須豊彦                                   | 第6回日本伝統医療看護連携学会           | 2024, 10, 12    | 札幌     | ①  |
| 間欠性跛行を呈する疾患の診断と治療 -聞いて得る最新低侵襲手術の紹介-                     | 井須豊彦                                   | Pain Live Symposium in 函館 | 2024, 1, 26     | 函館     | ③  |
| しびれ痛み診療の歩み                                              | 井須豊彦                                   | 北総脳神経外科フォーラム2024          | 2024, 4, 6      | 浦安     | ③  |
| しびれ痛み診療を志して40年 -なぜ、外科医を継続できたか-                          | 井須豊彦                                   | Web Seminar               | 2024, 4, 12     | 盛岡     | ③  |
| Swiftを用いた腰椎制動術の臨床的インパクト                                 | 井須豊彦                                   | 第39回日本脊髄外科学会ランチョンセミナー指定発言 | 2024, 6, 13     | 大阪     | ③  |
| 腰部脊柱管狭窄症治療を始めて35年 -最新低侵襲手術、腰椎制動術を紹介                     | 井須豊彦                                   | Pain Meeting Web Seminar  | 2024, 7, 25     | 富山     | ③  |

|                                                           | 演者および共同演者 | 発表学会名                    | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------------------------------------------|-----------|--------------------------|--------------|--------|----|
| 棘突起間デバイス(Swift System)を用いた腰椎制動術は、将来、腰部脊柱管狭窄症の標準的手術法と成り得るか | 井須豊彦      | 第9回痛みしびれを考える             | 2024, 10, 5  | 札幌     | ③  |
| 棘突起間デバイス(Swift System)を用いた腰椎制動術は、将来、腰部脊柱管狭窄症の標準的手術法となるか   | 井須豊彦      | Neurosurgery Web Seminar | 2024, 10, 9  | 釧路     | ③  |
| 腰部脊柱管狭窄症に対する最新治療 腰椎制動術                                    | 井須豊彦      | 釧路管内健康フォーラム 2024         | 2024, 11, 30 | 釧路     | ③  |

## 泌尿器科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                               | 演者および共同演者            | 発表学会名                          | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------------------------------------|----------------------|--------------------------------|--------------|--------|----|
| 透析困難症例についての検討                                       | 鯨岡悠、関仁志朗、佐々木芳浩       | 第58回釧路地区泌尿器科研究会                | 2024, 2, 9   | 釧路市    | ②  |
| ラットの性行動を撮影して、性欲低下の基礎研究を模索した(ver, キスベプチンと雄ラット)       | 山本祥太                 | 第421回日本泌尿器科学会北海道地方会            | 2024, 5, 25  | 札幌市    | ①  |
| 性欲に関する治療のターゲットを動物実験から模索する～キスベプチンの新しい効果の発見と今後への期待    | 山本祥太                 | 第24回日本抗加齢医学会総会                 | 2024, 5, 31  | 熊本市    | ①  |
| 男性ホルモンにまつわる女性の肥満についてモデルラットを用いて検討しよう(oxytocinと加味帰脾湯) | 山本祥太、吉田あゆ、佐々木芳浩、篠原信雄 | 第59回釧路地区泌尿器科研究会                | 2024, 6, 14  | 釧路市    | ②  |
| シンポジウム：ゆりかご「前」からの精子力、「胎児期～小児期におけるアンドロゲンと妊孕性」        | 山本祥太                 | 第24回メンズヘルス学会                   | 2024, 9, 21  | 旭川市    | ①  |
| 悪性との鑑別が困難だった副腎腫瘍の1例                                 | 吉田あゆ、山本祥太、佐々木芳浩、篠原信雄 | 第60回釧路地区泌尿器科研究会                | 2024, 11, 8  | 釧路市    | ②  |
| 泌尿器がんに対する治療の進歩と課題<br>＝有転移腎癌の薬物治療を中心に＝               | 篠原信雄                 | 第32回Yushima Urological Seminar | 2024, 7, 8   | 東京     | ①  |
| 医療者のコミュニケーション力                                      | 篠原信雄                 | 釧路労災看護専門学校 特別講演                | 2024, 12, 19 | 釧路     | ③  |

## 耳鼻咽喉科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                    | 演者および共同演者      | 発表学会名                | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|------------------------------------------|----------------|----------------------|--------------|--------|----|
| 右鼻腔に発生したSinonasal glomangiopericytomaの1例 | 竹田龍平、北南和彦、石井秀幸 | 第230回日耳鼻北海道地方部会学術講演会 | 2024, 10, 27 | 札幌市    | ①  |
| 巨大副甲状腺嚢胞の1例                              | 荒木大輔、北南和彦、石井秀幸 | 第229回日耳鼻地方部会学術講演会    | 2024, 3, 17  | 札幌市    | ①  |

## 歯科口腔外科

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                                | 演者および共同演者           | 発表学会名                  | 学会発表日         | 学会開催場所 | 区分 |
|------------------------------------------------------|---------------------|------------------------|---------------|--------|----|
| 薬剤関連顎骨壊死ポジションペーパーの改訂とデジタル技術を応用して治療した症例               | 角伸博、松本侑樹、藤盛真樹       | 釧路デンタルスタディー クラブ例会      | 2024, 1, 30   | 釧路市    | ②  |
| 免疫抑制剤の休薬により 薬剤性歯肉増殖症が消退した2例                          | 松本侑樹、角 伸博、藤盛真樹      | 釧路デンタルスタディー クラブ例会      | 2024, 1, 30   | 釧路市    | ②  |
| 薬剤関連顎骨壊死ポジションペーパー 2023の改訂内容とデジタル技術を応用して治療した症例        | 角伸博、松本侑樹、藤盛真樹       | 第32回釧路歯科医師会学術大会        | 2024, 2, 17   | 釧路市    | ①  |
| 顎骨壊死患者の口腔衛生指導                                        | 村田亜耶佳               | 第33回釧路歯科医師会学術大会        | 2024, 2, 17   | 釧路市    | ①  |
| 薬剤関連顎骨壊死の新たな知見                                       | 藤盛真樹                | 第36回北海道骨粗鬆症研究会学術集会     | 2024, 2, 17   | 旭川市    | ③  |
| 顎骨壊死アップデートのポイント                                      | 藤盛真樹                | 整形外科疾患Seminar          | 2024, 2, 27   | 釧路市    | ③  |
| シクロスボリンA休薬により 薬剤性歯肉増殖症が消退した2例                        | 松本侑樹、角伸博、藤盛真樹       | 第33回日本有病者歯科医療学会総会      | 2024, 3, 9-10 | 新潟市    | ①  |
| がん支持療法としての周術期口腔機能管理                                  | 角伸博、金山純一、五十嵐一真、藤盛真樹 | 外科内科カンファレンス            | 2024, 4, 10   | 釧路市    | ②  |
| 顎骨の炎症性疾患に対する骨SPECT定量解析による評価                          | 角伸博、金山純一、五十嵐一真、藤盛真樹 | 釧路デンタルスタディー クラブ例会      | 2024, 5, 21   | 釧路市    | ②  |
| MRONJの治療 PP2023の推奨と治療成績                              | 藤盛真樹、角伸博、金山純一、五十嵐一真 | 釧路デンタルスタディー クラブ例会      | 2024, 5, 21   | 釧路市    | ②  |
| 当院のMRONJ治療 予後不良・合併症 症例                               | 藤盛真樹                | 北海道病院歯科医会 第1回例会        | 2024, 6, 15   | 札幌市    | ②  |
| 顎骨炎症性疾患に対する骨SPECT定量解析による評価                           | 角伸博、金山純一、五十嵐一真、藤盛真樹 | 第50回日本口腔外科学会 北日本支部学術集会 | 2024, 7, 6-7  | 札幌市    | ①  |
| 顎顔面外傷について                                            | 金山純一                | 院内勉強会                  | 2024, 7, 10   | 釧路市    | ②  |
| 薬剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会 ポジションペーパー 2023 ～骨粗鬆症製剤を中心に～ | 藤盛真樹                | 旭川医科歯科連携講演会            | 2024, 7, 13   | 旭川市    | ③  |
| 長期出張医報告会                                             | 金山純一                | 北海道大学歯学部口腔診断内科         | 2024, 9, 11   | 札幌市    | ②  |

## 中央リハビリテーション部

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                         | 演者および共同演者           | 発表学会名      | 学会発表日       | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------------------------------|---------------------|------------|-------------|--------|----|
| 「あなたの体力は大丈夫？もしもの時の大切な運動療法」～がんも生活習慣病も怖くない体づくり～ | 八幡恒平、廣瀬孝太、矢部達也、向ひより | 釧路町健康づくり教室 | 2024, 2, 21 | 釧路町    | ③  |
| スポーツ障害予防<br>～体力筋力トレーニング・ストレッチ～                | 推井基陽                | 弟子屈教育委員会   | 2024, 6, 22 | 弟子屈    | ③  |

| 演 題 名                       | 演者および共同演者 | 発表学会名                   | 学会発表日       | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------------|-----------|-------------------------|-------------|--------|----|
| スポーツ障害予防運動相談                | 推井基陽、廣瀬孝太 | 弟子屈教育委員会<br>スポーツ障害予防講習会 | 2024, 6, 23 | 弟子屈    | ③  |
| 「NEATで燃やせ！脂肪筋トレーニングで自由な未来へ」 | 八幡恒平      | 夕日丹頂釧路根室CDEL<br>講習会     | 2024, 9, 1  | 釧路市    | ②  |

## 中央放射線部

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                  | 演者および共同演者 | 発表学会名               | 学会発表日       | 学会開催場所 | 区分 |
|----------------------------------------|-----------|---------------------|-------------|--------|----|
| 当院における据置型デジタル式汎用X線透視診断装置の散乱線分布図の作成について | 阿部勝志      | 第22回 道東画像診断・治療ケア研究会 | 2024, 6, 22 | 釧路市    | ②  |
| 3次元線量検証の技術Update                       | 川崎克三（座長）  | 第10回 北海道放射線治療技術セミナー | 2024, 7, 27 | 札幌市    | ②  |

## 薬剤部

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                       | 演者および共同演者 | 発表学会名           | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|---------------------------------------------|-----------|-----------------|--------------|--------|----|
| 医薬品流通問題／COVID-19治療薬の現状                      | 大月沢雄      | 医療安全必須研修        | 2024, 2, 27  | 釧路市    | ③  |
| NST専門療法士実地修練参加と病棟業務への意識変化                   | 佐藤聖怜菜     | 釧路病院薬剤師会会員発表会   | 2024, 2, 29  | 釧路市    | ③  |
| 取り扱いに特別な配慮を要する医薬品について                       | 大月沢雄      | 新人看護師研修会        | 2024, 4, 16  | 釧路市    | ③  |
| 当院神経内科患者使用免疫グロブリン製剤における外来ー薬剤部情報共有による在庫管理の試み | 新井田敦浩     | 北海道ブロック労災病院薬剤部会 | 2024, 7, 6   | 札幌市    | ③  |
| 抗HIV薬について                                   | 大森健太郎     | 感染対策必須研修        | 2024, 7, 18  | 釧路市    | ③  |
| 胃がんの薬物療法Update                              | 矢澤敏       | 連携充実加算に係る研修会    | 2024, 10, 11 | 釧路市    | ③  |
| 薬事情勢（医薬品流通問題／長期収載品の選定療養）                    | 大月沢雄      | 臨床研修総合講座        | 2024, 10, 22 | 釧路市    | ③  |
| 抗結核薬について                                    | 大月沢雄      | 感染対策必須研修        | 2024, 12, 11 | 釧路市    | ③  |

## 看護部

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                                      | 演者および共同演者   | 発表学会名                         | 学会発表日        | 学会開催場所 | 区分 |
|--------------------------------------------|-------------|-------------------------------|--------------|--------|----|
| 腎移植について思うこと<br>～透析看護認定看護師の立場から～            | 伊藤織恵        | 北海道移植医療推進財団                   | 2024, 2, 3   | 釧路市    | ③  |
| 院内コーディネーターの役割とは～腎移植を経験して～                  | 佐藤貴美        | 北海道移植医療推進財団                   | 2024, 2, 3   | 釧路市    | ③  |
| 文部科学省選定 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン がん看護コース 事例検討会 | 門脇郁美        | 北海道専門看護師の会                    | 2024, 3, 16  | 札幌市    | ③  |
| 緊急脳血管内治療助の自立に向けた取り組み                       | ◎野呂あゆみ 齋藤聡子 | 第22回ア道東画像診断・治療ケア研究会           | 2024, 6, 22  | 釧路市    | ②  |
| 非移植施設におけるLTFU外来の現状と課題                      | 熊谷万里恵       | 造血移植の連携を考える会 in 北海道           | 2024, 7, 6   | 札幌市    | ②  |
| ひとりごとじゃない乳がんの話し<br>～乳がんを知れば怖くない～           | 小野紫穂        | 三ツ輪運輸株式会社 健康講話                | 2024, 7, 24  | 釧路市    | ③  |
| コロナ病床の移転の取り組み<br>～感染対策の教育に視点を当てて～          | 馬場かおり、成田美弥子 | 第39回日本環境感染学会<br>総会・学術集会       | 2024, 7, 27  | 京都市    | ①  |
| 標準予防策                                      | 馬場かおり       | 医療法人豊慈会 釧路北病院                 | 2024, 9, 11  | 釧路市    | ③  |
| 「がん薬物療法看護認定看護師のしごと<br>ー化学療法センターでの仕事を紹介しますー | 松浦理沙        | 公益社団法人北海道看護協会釧路支部<br>ふれあい看護体験 | 2024, 9, 14  | 釧路市    | ③  |
| がんと医療～支援体制の実際～                             | 門脇郁美        | Link of smiles                | 2024, 10, 3  | 釧路市    | ③  |
| エプキンリ導入にあたっての取り組み<br>～チーム医療における看護師の役割～     | 村山由佳子       | 道東地区血液疾患チーム<br>医療セミナー         | 2024, 10, 26 | 釧路市    | ③  |
| 非移植施設におけるLTFU外来の取り組み                       | 田口沙由里       | 移行期医療・LTFU講演会 in Obihiro      | 2024, 11, 15 | 釧路市    | ③  |
| がんと医療<br>～支援体制の実際～                         | 内村郁美        | ソシオゆるふわがんサロン<br>「患者力アップ」学習会   | 2024, 11, 18 | 釧路市    | ③  |
| 釧路労災病院 排尿ケアチームの活動紹介                        | 佐藤舞笑        | 高齢者疾患フォーラム in 釧路              | 2024, 11, 22 | 釧路市    | ③  |
| 実践報告「介護職員等略称吸引等研修の研修機関としての取り組み」            | 甲斐節子        | 難病対策地域協議会                     | 2024, 11, 30 | 釧路市    | ③  |
| がんについて知ろう                                  | 内村郁美        | 釧路市立大薬毛小学校                    | 2024, 12, 16 | 釧路市    | ③  |
| がんについて知ろう                                  | 内村郁美        | 北海道釧路養護学校                     | 2024, 12, 17 | 釧路市    | ③  |

## 検査部

※区分 ①学会 ②研究会 ③講演会

| 演 題 名                 | 演者および共同演者 | 発表学会名                | 学会発表日       | 学会開催場所 | 区分 |
|-----------------------|-----------|----------------------|-------------|--------|----|
| 超音波検査士（消化器）取得へ向けた取り組み | 鈴木勝俊      | 道東地区臨床衛生検査技師会生理部門講演会 | 2024, 12, 3 | 釧路市    | ③  |



# V. 業績目録

|            |    |
|------------|----|
| 研究論文・著書・総説 | 85 |
|------------|----|





## 内科

| 題名                           | 著者         | 誌名     | 発行年  | 巻 (Vol.) | ページ |
|------------------------------|------------|--------|------|----------|-----|
| MSS切除不能大腸癌のがん免疫療法の治療開発の課題と展望 | 澤田憲太郎、結城敏志 | 癌と化学療法 | 2024 | 50巻11号   |     |

## 整形外科

| 題名                                                                                                      | 著者                                                                                                  | 誌名                     | 発行年  | 巻 (Vol.) | ページ     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|------|----------|---------|
| Valgus instability and related factors beyond 2 years following unlinked total elbow arthroplasty.      | Matsui Y, Kondo M, Nishio Y, Kato S, Iwasaki N                                                      | J Shoulder Elbow Surg. | 2024 | 33(3)    | 544-549 |
| Amputation surgery associated with shortened survival in patients with localized extremity bone sarcoma | Yanagisawa N, Matsuoka M, Onodera T, Iwasaki K, Hamasaki M, Ebata T, Hosokawa Y, Kondo E, Iwasaki N | J Orhop.               | 2024 | 54       | 124-130 |
| 脛骨粗面下骨切り術におけるdescending osteotomy角の評価：角時計を用いた正確性の検討                                                     | 横山慎、上徳善太、近藤英司                                                                                       | 日本膝関節学会誌               | 2024 | 1(1)     | 136-137 |
| 人工膝関節置換術後に劇症型溶血性連鎖球菌感染症を発症し大腿切断により救命し得た1例                                                               | 横山慎、上徳善太、和田健志郎、落合弦、小林悠人、奥村真子、下田康平、福井隆史、太田光俊、本宮真、安井啓悟                                                | 日本人工関節学会誌              | 2024 | 54       | 127-128 |

## 脳神経外科

| 題名                                                                                                 | 著者                                                                              | 誌名                        | 発行年          | 巻 (Vol.) | ページ     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--------------|----------|---------|
| Middle cluneal nerve entrapment sites in the surgical field                                        | Yoshinaga T, Kim K, Tajiri T, Fujihara F, Isobe M, Abe, H Isu T                 | Acta Neurochirurgica      | 2024         | 166      | 142     |
| Paralumbur Spine Disease as a Cause of Low Back Pain in Older Adults.                              | Fujihara F, Kim K, Isu T et al                                                  | Cureus                    | 2024 Feb 10  | 16(2)    | e53983  |
| A clinicopathological study of low back pain due to middle cluneal nerve entrapment -case series-. | Kim K, Shimizu J, Isu T, Morimoto D, Kubota A, Morita A, Murai Y                | Eur Spine J.              | 2024         | 33(2)    | 490-495 |
| Ganglia-induced Tarsal Tunnel Syndrome.                                                            | Koketsu K, Kim K, Tajiri T, Isu T, Morimoto D, Kokubo R, Dan H, Morita A        | J Nippon Medical School   | 2024         | 91(1)    | 114-118 |
| Identification and Decompression of Superior Cluneal Nerve Implicated in Low Back Pain.            | Koketsu K, Kim K, Isu T, Kokubo R, Ideguchi M, Mihra R, Murai Y                 | Acta Neurocihr.           | 2024         | 166(1)   | 59      |
| Zig-zag skin incision to treat tarsal tunnel syndrome.                                             | Shirokane K, Kim K, Akimoto M, Isu T, Kokubo R, Koketsu K, Ideguchi M, Murai Y. | J Nippon Med School.      | 2024         | 91(4)    | 357-361 |
| 脳神経外科医の画像読影：とるワザとよむチカラー 脊髄・脊椎・末梢神経                                                                 | 金景成、三原陸、園裕之、井須豊彦                                                                | 脳神経外科速報                   | 2024         | 34(4)    | 398-404 |
| 上殿皮神経・中殿皮神経ブロック                                                                                    | 園裕之、金景成、三原陸、藤田寛明、井須豊彦                                                           | 脊椎脊髄ジャーナル                 | 2024         | 37(7)    | 523-528 |
| Neurosurgeonが知っておくべき神経学的診察 絞扼性末梢神経障害                                                               | 尾関友博、金景成、井手口稔、井須豊彦                                                              | 脳神経外科速報                   | 2024         | 34(2)    | 192-196 |
| 上殿皮・中殿皮神経障害の診断と治療 (仙腸関節のすべて)                                                                       | 藤原史明、金景成、井須豊彦                                                                   | Monthly Book Orthopaedics | 2024         | 37(4)    | 55-60   |
| 頸椎症性神経根症の画像診断                                                                                      | 藤原史明、金景成、井須豊彦                                                                   | 脊椎脊髄ジャーナル                 | 2024         | 37(11)   | 969-976 |
| 上殿皮神経障害による腰痛                                                                                       | 藤原史明、金景成、井須豊彦                                                                   | CHIRYO プライマリ・ケアにおける腰痛診療   | 2024         | 106(5)   | 528-5   |
| 絞扼性末梢神経疾患治療の現況と展望                                                                                  | 金景成、井手口稔、井須豊彦                                                                   | Annual Review 神経          | 2024         |          | 260-266 |
| 足根管症候群に対する後脛骨動脈移所を併用した足底神経除圧術の手術手技                                                                 | 田尻崇人、金景成、井須豊彦、藤原史明、磯部正則、安部洋                                                     | 脊髄外科                      | 2024         | 38(1)    | 37-41   |
| 腰部脊柱管狭窄症に対する棘突起間デバイスを用いた腰椎制動術の初期使用成績                                                               | 土井一真、井須豊彦、内門久明、等                                                                | 脊髄外科                      | 2024         | 38(2)    | 136-140 |
| 年をとった外科医にしかわからないことがある 井須ドクターの診察室第10回                                                               | 井須豊彦                                                                            | 銅路連町通信                    | 2024, 3, 3   |          |         |
| 身体に触れる診察のすばらしさを再認識しました 井須ドクターの診察室第11回                                                              | 井須豊彦                                                                            | 銅路連町通信                    | 2024, 6, 25  |          |         |
| ものには順序というものがある 井須ドクターの診察室第12回                                                                      | 井須豊彦                                                                            | 銅路連町通信                    | 2024, 10, 25 |          |         |
| 痛みしびれを考える会 最新デバイスによる＜腰椎制動術＞                                                                        | 井須豊彦                                                                            | 北海道医療新聞                   | 2024, 11, 25 |          |         |
| 最新デバイスによる腰部脊柱管狭窄症 低侵襲手術 腰椎制動術の紹介                                                                   | 井須豊彦                                                                            | ケア                        | 2024, 12     |          |         |

## 泌尿器科

| 題名                                                                                                                                                               | 著者                                                                                                                                                                                                                                                 | 誌名                        | 発行年         | 巻 (Vol.) | ページ                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|-------------|----------|----------------------------------------------------|
| Morphological examination of pelvic floor muscles in a rat model of vaginal delivery.                                                                            | Abe-Takahashi Y, Kitta T, Ouchi M, Chiba H, Higuchi M, Togo M, Kusakabe N, Kakizaki H, Shinohara N.                                                                                                                                                | BMC Pregnancy Childbirth. | 2024 Jan 31 | 24(1)    | 95.<br>doi:<br>10.1186/s12884-024-06278-5          |
| Surgical skill analysis focused on tissue traction in laparoscopic wet lab training.                                                                             | Ebina K, Abe T, Higuchi M, Hotta K, Furumido J, Iwahara N, Senoo T, Komizunai S, Tsujita T, Sase K, Chen X, Kurashima Y, Kikuchi H, Miyata H, Matsumoto R, Osawa T, Murai S, Konno A, Shinohara N.                                                 | Surg Open Sci.            | 2024 Aug 22 | 21       | 7-13.<br>doi:<br>10.1016/j.sopen.2024.08.002.      |
| A surgical instrument motion measurement system for skill evaluation in practical laparoscopic surgery training.                                                 | Ebina K, Abe T, Yan L, Hotta K, Shichinohe T, Higuchi M, Iwahara N, Hosaka Y, Harada S, Kikuchi H, Miyata H, Matsumoto R, Osawa T, Kurashima Y, Watanabe M, Kon M, Murai S, Komizunai S, Tsujita T, Sase K, Chen X, Senoo T, Shinohara N, Konno A. | PLoS One.                 | 2024 Jun 25 | 19(6)    | e0305693.<br>doi:<br>10.1371/journal.pone.0305693. |
| A prospective study of surgeons' workloads and associated factors in real-world practice.                                                                        | Harada S, Abe T, Furumido J, Takahashi K, Hori K, Abe N, Kon M, Murai S, Miyata H, Kikuchi H, Matsumoto R, Osawa T, Shinohara N.                                                                                                                   | Sci Rep.                  | 2024 Apr 28 | 14(1)    | 9741.<br>doi:<br>10.1038/s41598-024-59596-1.       |
| Identification of a new enhancer that promotes Sox9 expression by a comparative analysis of mouse and Sry-deficient Amami spiny rat.                             | Hirata Y, Mizushima S, Mitsukawa S, Kon M, Kuroki Y, Jogahara T, Shinohara N, Kuroiwa A.                                                                                                                                                           | Cytogenet Genome Res.     | 2024 Jan 20 |          | doi:<br>10.1159/000536408                          |
| Longitudinal mortality risks and kidney functional outcomes in Japanese living kidney donors.                                                                    | Hirose T, Hotta K, Osawa T, Yokota I, Inao T, Tanabe T, Iwahara N, Shinohara N.                                                                                                                                                                    | Int J Urol.               | 2024 Jan 19 |          | doi:<br>10.1111/iju.15395                          |
| Surgical strategy for orthotopic kidney transplantation.                                                                                                         | Hotta K, Miura M, Tanaka T, Tanabe T, Masumori N, Shinohara N.                                                                                                                                                                                     | Int J Urol.               | 2024 Jan 31 |          | doi:<br>10.1111/iju.15418                          |
| Gap analysis between trainees' subjective competencies and the competencies expected by instructors in urology: A need assessment survey in Japan.               | Hori K, Abe T, Abe N, Abe J, Okada K, Takahashi K, Harada S, Furumido J, Murai S, Kon M, Hashimoto K, Masumori N, Kakizaki H, Shinohara N.                                                                                                         | Int J Urol.               | 2024 Feb 17 |          | doi:<br>10.1111/iju.15430                          |
| Establishment of potent TCR-T cells specific for cisplatin-resistance related tumor-associated antigen, CLSPN using codon-optimization.                          | Hori K, Yamada S, Murata K, Miyata H, Mizue Y, Murai A, Minowa T, Sasaki K, Shijubou N, Kubo T, Morita R, Tokita S, Kanaseki T, Tsukahara T, Abe T, Shinohara N, Hirohashi Y, Torigoe T.                                                           | Hum Vaccin Immunother.    | 2024 Dec 31 | 20(1)    | 2414542. doi:<br>10.1080/21645515.2024.2414542     |
| Impaired immunoproteasomal function exacerbates renal ischemia-reperfusion injury.                                                                               | Ishii Y, Fukui-Miyazaki A, Iwasaki S, Tsuji T, Hotta K, Sasaki H, Nakagawa S, Yoshida T, Murata E, Taniguchi K, Shinohara N, Ishizu A, Kasahara M, Tomaru U.                                                                                       | Exp Mol Pathol.           | 2024 Oct 18 | 140      | 104939.<br>doi:<br>10.1016/j.jyexmp.2024.104939    |
| Protocol biopsy of kidney allograft enables early detection of BK virus nephropathy to preserve kidney allograft function.                                       | Iwahara N, Hotta K, Hirose T, Okada H, Shinohara N.                                                                                                                                                                                                | Transpl Infect Dis.       | 2024 Jul 9  |          | e14338.<br>doi:<br>10.1111/tid.14338               |
| Real-world outcomes of avelumab plus axitinib in patients with advanced renal cell carcinoma in Japan: long-term follow-up from the J-DART2 retrospective study. | Kato T, Furukawa J, Hinata N, Ueda K, Hara I, Hongo F, Mizuno R, Okamoto T, Okuno H, Ito T, Kajita M, Oya M, Tomita Y, Shinohara N, Eto M, Uemura H.                                                                                               | Int J Clin Oncol.         | 2024 Nov 16 |          | doi:<br>10.1007/s10147-024-02618-9                 |
| Long-term outcomes of the first prospective study of active surveillance for prostate cancer in Japan.                                                           | Kato T, Hiramata H, Kamoto T, Goto T, Fujimoto H, Sakamoto S, Shinohara N, Egawa S, Kouguchi D, Nakayama M, Hashine K, Shimizu N, Inoue K, Habuchi T, Hioka T, Shiraishi T, Sugimoto M, Kakehi Y.                                                  | Int J Clin Oncol.         | 2024 Aug 1  |          | doi:<br>10.1007/s10147-024-02590-4.                |
| Neutralizing antibody responses and cellular responses against SARS-CoV-2 Omicron subvariants after mRNA SARS-CoV-2 vaccination in kidney transplant recipients. | Kawashiro K, Suzuki R, Nogimori T, Tsujino S, Iwahara N, Hirose T, Okada K, Yamamoto T, Fukuhara T, Hotta K, Shinohara N.                                                                                                                          | Sci Rep.                  | 2024 May 28 | 14(1)    | 12176                                              |
| Financial Toxicity in Japanese Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma: A Cross-Sectional Study.                                                           | Kimura G, Fujii Y, Honda K, Osawa T, Uchitomi Y, Kondo M, Otani A, Wako T, Kawai D, Mitsuda Y, Sakashita N, Shinohara N.                                                                                                                           | Cancers (Basel).          | 2024 May 16 | 16(10)   | 1904                                               |
| Cross-sectional study of therapy-related expectations/concerns of patients with metastatic renal cell carcinoma and physicians in Japan.                         | Kimura G, Fujii Y, Osawa T, Uchitomi Y, Honda K, Kondo M, Otani A, Wako T, Kawai D, Mitsuda Y, Sakashita N, Shinohara N.                                                                                                                           | Cancer Med.               | 2024 Jun    | 13(11)   | e7196.<br>doi:<br>10.1002/cam4.7196.               |

| 題名                                                                                                                                                                                               | 著者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 誌名                             | 発行年          | 巻 (Vol.) | ページ                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------|----------|---------------------------------------------|
| Comorbidities in Japanese testicular cancer survivors: A multi-institutional, cross-sectional study.                                                                                             | Koyama J, Yamashita S, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai Nakamura T, Goto T, Osawa T, Nishimura K, Nonomura N, Nishiyama H, Shiraishi T, Ukimura O, Ogawa O, Shinohara N, Suzukamo Y, Ito A, Arai Y.                                                                                                                                     | Int J Urol.                    | 2024 Oct 28. |          | doi: 10.1111/iju.15622.                     |
| Effects of low-intensity extracorporeal shock wave therapy on lipopolysaccharide cystitis in a rat model of interstitial cystitis/bladder pain syndrome.                                         | Kusakabe N, Kamijo TC, Wada N, Chiba H, Shinohara N, Miyazato M.                                                                                                                                                                                                                                                                              | Int Urol Nephrol.              | 2024 Jan     | 56(1)    | 77-86.                                      |
| Normalization of impaired glucose tolerance after kidney transplantation is associated with improved beta-cell function.                                                                         | Miyamoto M, Nakamura A, Miya A, Nomoto H, Kameda H, Cho KY, Iwahara N, Hotta K, Shinohara N, Atsumi T.                                                                                                                                                                                                                                        | Am J Physiol Endocrinol Metab. | 2024 Jun 5   |          | doi: 10.1152/ajpendo.00433.2023             |
| Cross-sectional and longitudinal analyses of urinary extracellular vesicle mRNA markers in urothelial bladder cancer patients.                                                                   | Murakami T, Minami K, Harabayashi T, Maruyama S, Takada N, Kashiwagi A, Miyata H, Sato Y, Matsumoto R, Kikuchi H, Abe T, Ito YM, Murai S, Shinohara N, Harada H, Osawa T.                                                                                                                                                                     | Sci Rep.                       | 2024 Mar 21  | 14(1)    | 6801.<br>doi: 10.1038/s41598-024-55251-x.   |
| Systematic molecular analyses for 115 karyotypically normal men with isolated non-obstructive azoospermia.                                                                                       | Muranishi Y, Kobori Y, Katoh-Fukui Y, Tamaoka S, Hattori A, Osaka A, Okada H, Nakabayashi K, Hata K, Kawai T, Ogata-Kawata H, Iwahata T, Saito K, Kon M, Shinohara N, Fukami M.                                                                                                                                                               | Hum Reprod.                    | 2024 Mar 20  | deae057  | doi: 10.1093/humrep/deae057.                |
| <i>PTPN11</i> and <i>FLNA</i> variants in a boy with ambiguous genitalia, short stature, and non-specific dysmorphic features.                                                                   | Muranishi Y, Itonaga T, Ihara K, Katoh-Fukui Y, Tamaoka S, Hattori A, Kon M, Shinohara N, Fukami M.                                                                                                                                                                                                                                           | Clin Pediatr Endocrinol.       | 2024         | 33(3)    | 169-173.                                    |
| Compound heterozygous <i>KCTD19</i> variants in a an with isolated nonobstructive azoospermia.                                                                                                   | Muranishi Y, Katoh-Fukui Y, Hattori A, Kobori Y, Osaka A, Okada H, Iwahata T, Kon M, Shinohara N, Fukami M.                                                                                                                                                                                                                                   | Reprod Med Biol.               | 2024 Sep 4   | 23(1)    | e12608.<br>doi: 10.1002/rmb2.12608.         |
| The lymphocyte-to-monocyte ratio as a significant inflammatory marker associated with survival of patients with metastatic renal cell carcinoma treated using nivolumab plus ipilimumab therapy. | Numakura K, Sekine Y, Osawa T, Naito S, Tokairin O, Muto Y, Sobu R, Kobayashi M, Sasagawa H, Yamamoto R, Nara T, Saito M, Narita S, Akashi H, Tsuchiya N, Shinohara N, Habuchi T.                                                                                                                                                             | Int J Clin Oncol.              | 2024 May 26  |          | doi: 10.1007/s10147-024-02538-8.            |
| Physiotherapy for continence and muscle function in prostatectomy: a randomised controlled trial.                                                                                                | Ouchi M, Kitta T, Chiba H, Higuchi M, Abe-Takahashi Y, Togo M, Kusakabe N, Murai S, Kikuchi H, Matsumoto R, Osawa T, Abe T, Shinohara N.                                                                                                                                                                                                      | BJU Int.                       | 2024 Apr 24  |          | doi: 10.1111/bju.16369.                     |
| Decision regret after curative treatment and its association with the decision-making process and quality of life for prostate cancer patients.                                                  | Sato M, Osawa T, Nishioka K, Miyazaki T, Takahashi S, Mori T, Hashimoto T, Miyata H, Matsumoto R, Abe T, Ohashi K, Murai S, Ito YM, Shinohara N.                                                                                                                                                                                              | Int J Urol.                    | 2024 Oct 9   |          | doi: 10.1111/iju.15602.                     |
| Genomic profiling and clinical utility of circulating tumor DNA in metastatic prostate cancer: SCRUM-Japan MONSTAR SCREEN project.                                                               | Shiota M, Matsubara N, Kato T, Eto M, Osawa T, Abe T, Shinohara N, Nishimoto K, Yasumizu Y, Tanaka N, Oya M, Fujisawa T, Horasawa S, Nakamura Y, Yoshino T, Nonomura N.                                                                                                                                                                       | BJC Rep.                       | 2024 Apr 3   | 2(1)     | 28.<br>doi: 10.1038/s44276-024-00049-7.     |
| Prediction of undetectable circulating tumor DNA by comprehensive genomic profiling assay in metastatic prostate cancer: the SCRUM-Japan MONSTAR SCREEN project.                                 | Shiota M, Matsubara N, Kato T, Eto M, Osawa T, Abe T, Shinohara N, Nishimoto K, Yasumizu Y, Tanaka N, Oya M, Fujisawa T, Horasawa S, Nakamura Y, Yoshino T, Nonomura N.                                                                                                                                                                       | World J Urol.                  | 2024 Sep 18  | 42(1)    | 526.<br>doi: 10.1007/s00345-024-05240-6.    |
| Genomic characterization of metastatic patterns in prostate cancer using circulating tumor DNA data from the SCRUM-Japan MONSTAR SCREEN project.                                                 | Shiota M, Matsubara N, Kato T, Eto M, Osawa T, Abe T, Shinohara N, Nishimoto K, Yasumizu Y, Tanaka N, Oya M, Fujisawa T, Horasawa S, Nakamura Y, Yoshino T, Nonomura N.                                                                                                                                                                       | J Liq Biopsy.                  | 2024 Dec 20  | 7        | 100282.<br>doi:10.1016/j.jlb.2024.100282.   |
| Effect of HLA Genotype on Anti-PD-1 Antibody Treatment for Advanced Renal Cell Carcinoma in the SNIp-RCC Study.                                                                                  | Tanegashima T, Shiota M, Fujiyama N, Narita S, Habuchi T, Fukuchi G, Takamatsu D, Oda Y, Miyake H, Takahashi M, Oya M, Tsuchiya N, Masumori N, Matsuyama H, Obara W, Shinohara N, Fujimoto K, Nozawa M, Ohba K, Ohya C, Hashine K, Akamatsu S, Kamba T, Mita K, Gotoh M, Tatarano S, Fujisawa M, Tomita Y, Mukai S, Ito K, Tokunaga S, Eto M. | J Immunol.                     | 2024 May 17  |          | ji2300308.<br>doi: 10.4049/jimmunol.2300308 |
| Safety and efficacy of multiple-dose versus single-dose MIBG therapy in patients with refractory pheochromocytoma and paraganglioma: a single-center retrospective analysis.                     | Wakabayashi N, Watanabe S, Abe T, Takenaka J, Hirata K, Kimura R, Sakamoto K, Shinohara N, Kudo K.                                                                                                                                                                                                                                            | Ann Nucl Med.                  | 2024 Apr 24  |          | doi: 10.1007/s12149-024-01928-2.            |

| 題名                                                                                                                                                                                                           | 著者                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 誌名                           | 発行年          | 巻 (Vol.) | ページ                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|--------------|----------|----------------------------------------------------------|
| Kisspeptin administration may promote precopulatory behavior in male rats independently or supplementally to testosterone and contribute to proceptive behavior in female partners, reducing mating failure. | Yamamoto S, Arakaki R, Noguchi H, Takeda A, Uchishiba M, Kamada S, Mineda A, Kon M, Kinouchi R, Yamamoto Y, Yoshida K, Kaji T, Shinohara N, Iwasa T.                                                                                                                                                                               | Gen Comp Endocrinol.         | 2024 Jul 1   | 353      | 114528.<br>doi:<br>10.1016/<br>j.ygcen.2024.             |
| Validation and motion analyses of laparoscopic radical nephrectomy with Thiel-embalmed cadavers.                                                                                                             | 33.Yan L, Ebina K, Abe T, Kon M, Higuchi M, Hotta K, Furumido J, Iwahara N, Komizunai S, Tsujita T, Sase K, Chen X, Kurashima Y, Kikuchi H, Miyata H, Matsumoto R, Osawa T, Murai S, Shichinohe T, Murakami S, Senoo T, Watanabe M, Konno A, Shinohara N.                                                                          | Curr Probl Surg.             | 2024 Oct     | 61(00)   | 101559.<br>doi:<br>10.1016/<br>j.cpsurg.<br>2024.101559. |
| 総論：腎癌診療—その変遷・現況・展望                                                                                                                                                                                           | 篠原信雄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 日本臨牀 臨床腎・泌尿器癌(上)－基礎・臨床研究の進歩－ | 2024, 10, 31 | 82巻増刊号   | 8                                                        |
| 前立腺がん最新治療導入 釧路労災病院 直腸への放射線影響防ぐ                                                                                                                                                                               | 篠原信雄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 釧路新聞                         | 2024, 12, 30 |          |                                                          |
| 釧路・労災病院と赤十字病院 診療材料を共同購入 道内初安定供給と治療期待                                                                                                                                                                         | 篠原信雄                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 釧路新聞                         | 2024, 11, 20 |          |                                                          |
| Kisspeptin administration may promote precopulatory behavior in male rats independently or supplementally to testosterone and contribute to proceptive behavior in female partners, reducing mating failure. | Shota Yamamoto, Ryosuke Arakaki, Hiroki Noguchi, Asuka Takeda, Maimi Uchishiba, Shuhei Kamada, Ayuka Mineda, Masafumi Kon, Riyo Kinouchi, Yuri Yamamoto, Kanako Yoshida, Takashi Kaji, Nobuo Shinohara, Takeshi Iwasa.                                                                                                             | Gen Comp Endocrinol.         | 2024 Jul 1   | 353      | 114528                                                   |
| Stress responses to bacterial and viral mimetics in polycystic ovary syndrome model rats.                                                                                                                    | Shuhei Kamada, Hiroki Noguchi, Shota Yamamoto, Kou Tamura, Hidenori Aoki, Asuka Takeda, Maimi Uchishiba, Saki Minato, Moeka Arata, Ryosuke Arakaki, Hiroaki Inui, Tomohiro Kagawa, Takako Kawakita, Atsuko Yoshida, Ayuka Mineda, Yuri Yamamoto, Riyo Kinouchi, Kanako Yoshida, Takashi Kaji, Masato Nishimura, Takeshi Iwasa      | Brain Behav Immun Health     | 2024 Apr 9   | 38       | 100772                                                   |
| Progesterone treatment reduces food intake and body weight in ovariectomized female rats.                                                                                                                    | Maimi Uchishiba, Shota Yamamoto, Asuka Takeda, Ryosuke Arakaki, Moeka Arata, Hiroki Noguchi, Hidenori Aoki, Kou Tamura, Takaaki Maeda, Saki Minato, Mari Nii, Hiroaki Inui, Shuhei Kamada, Riyo Kinouchi, Yuri Yamamoto, Kanako Yoshida, Shigetaka Yagi, Takeshi Kato, Takashi Kaji, Masato Nishimura, Kazuhiko Ino, Takeshi Iwasa | Steroids                     | 2024 Mar     | 203      | 109367                                                   |
| Expression of SMADs in orthotopic human endometrium, ovarian endometriosis, and endometriotic lesions in a murine model.                                                                                     | Yuri Kadota, Takeshi Kato, Kana Kasai, Takako Kawakita, Misaki Murayama, Akari Shinya, Hikari Sasada, Sachiko Katayama, Mari Nii, Shota Yamamoto, Hiroki Noguchi, Kou Tamura, Hidenori Aoki, Miyu Taniguchi, Tomotaka Nakagawa, Takashi Kaji, Masato Nishimura, Riyo Kinouchi, Kanako Yoshida, Takeshi Iwasa                       | Endocr J                     | 2024 Apr 30  | 71       | 395-401                                                  |
| The Effects of Testosterone on Hypothalamic and Serum Oxytocin Levels Are Affected by the Estrogen Milieu in Female Rats.                                                                                    | Moeka Arata, Kou Tamura, Hidenori Aoki, Hiroki Noguchi, Asuka Takeda, Saki Minato, Shota Yamamoto, Riyo Kinouchi, Kanako Yoshida, Yuri Yamamoto, Takashi Kaji, Takeshi Iwasa                                                                                                                                                       | Nutrients                    | 2024 Aug 2   | 16       | 2533                                                     |

**歯科口腔外科**

| 題名                                                                                                                                                       | 著者                                   | 誌名                                                                             | 発行年   | 巻 (Vol.) | ページ       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------|----------|-----------|
| What Affects Healing Rates in Patients Treated for Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw? The Role of Operative Therapy and Other Clinical Factors | Masaki Fujimori, Nobuhiro Kaku,et al | American Association of Oral and Maxillofacial Surgeons J Oral Maxillofac Surg | 2024年 | 82巻      | 1441-1455 |



独立行政法人 労働者健康安全機構

## 釧路労災病院

〒085-8533

北海道釧路市中園町13番23号

電話 (0154) 22-7191 (代表)

FAX (0154) 25-7308

<https://www.kushiroh.johas.go.jp>

### 交通アクセス

- JRで来院される場合  
釧路駅より車で15分
- バスで来院される場合
  - くしろバス  
南北線、労災病院下車
  - 阿寒バス  
新橋大通大曲バス停にて下車  
(徒歩10分)
- 飛行機で来院される場合  
たんちょう釧路空港から  
連絡バスにて30分  
新橋大通大曲バス停下車  
(徒歩10分)





最新の知識と技術に基づき、  
良質で信頼される医療を実践します。

